

Yanaginogosho Site

The 76th Excavation Report of the Local Government Office in Hiraizumi of the 12th Century



2016

Iwate Board of Education , JAPAN

岩手県文化財調査報告書第147集

岩手県文化財調査報告書第147集
平泉遺跡群発掘調査報告書

平泉遺跡群発掘調査報告書

柳之御所遺跡

岩手県教育委員会

柳之御所遺跡

第76次発掘調査概報



2016

岩手県教育委員会

岩手県文化財調査報告書第147集
平泉遺跡群発掘調査報告書

柳之御所遺跡

第76次発掘調査概報

2016

岩手県教育委員会

序

平泉町に所在する柳之御所遺跡は、平安時代末期の約100年間にわたり北方の土著として繁栄を誇った奥州藤原氏の残した遺跡で、特別史跡中尊寺境内、特別史跡毛越寺境内附鎮守社跡、特別史跡無量光院跡などの文化財と並び、当時の平泉の核をなしていた遺跡の一つであります。本遺跡は、昭和63年から（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、平泉町教育委員会が実施した一級河川北上川上流改修一関遊水地事業及び国道4号改修平泉バイパス建設事業に伴う緊急発掘調査により、大規模な掘立柱建物跡・圍池跡・堀跡などが確認され、また、膨大な量のかわけや各種木製品など、質・量ともに卓越した遺物が出土いたしました。これらの豊富な遺構・遺物により、本遺跡が「吾妻鏡」に記された「平泉館」であることが指摘されています。

このような経過のなかで、遺跡に対する建設省（現国土交通省）のご理解により、平成5年には遺跡の保存が決定し、平成9年3月に『柳之御所遺跡』として国の史跡に指定されました。県では、本遺跡が国民共有の貴重な財産であるとの認識から、史跡公園として整備して後世に伝えるとともに、広く活用していきたいと考え、平成10年度から史跡整備に向けた発掘調査を実施してきました。史跡公園の公開も進み、これまで多くの方々にご来園いただいております。

また、平成23年に「平泉の文化遺産」が世界遺産に登録されました。残念ながら柳之御所遺跡は漏れてしまいましたが、平成24年に暫定リストに登録されています。今後は本遺跡をはじめ未登録の遺跡についても、その価値評価にむけて活動を継続していく所存であります。

最後に、発掘調査の実施と報告書作成に当たり、ご指導・ご協力を賜りました平泉遺跡群調査整備指導委員会の先生方、文化庁記念物課、(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、平泉町教育委員会、国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所をはじめ関係各位に深く感謝申し上げますとともに、本書が平泉文化研究発展の一助になれば幸いです。

平成28年3月

岩手県教育委員会

教育長 高橋嘉行

例 言

1. 本書は、岩手県教育委員会が平成26年度に実施した柳之御所遺跡整備調査事業に係る、史跡柳之御所遺跡の発掘調査の概要報告である。調査期間は平成26年5月11日から11月30日である。
2. 本事業は、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課が主体となり、(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターの協力を得て実施した。
3. 遺構の呼称は、昭和63年度に(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した調査時の方法に準拠し、下記の略称を使用し、本書でも記載している。遺構名の記載については遺構略号の前に調査次数を付してある。なお、複数年次にわたる調査で明らかに同一と認定される遺構については当初の調査時の遺構名を継続して使用した。
SA：塀・柱列 SB：掘立柱建物 SC：道路状遺構 SD：溝・堀
SE：非戸・非戸状遺構 SG：園池 SK：土坑・柱穴の一部 SX：その他
SI：堅穴住居 P：柱穴
例：76SK1 第76次調査の第1号土坑
4. 図版、写真図版、遺物観察表中の遺物番号は共通である。遺物の実測図については一部を除いて縮尺を1/3を基本にし、スケールを図中に表示した。遺構遺物写真については縮尺不定である。
5. 本書に係る編集・執筆は生涯学習文化課柳之御所担当で協議の上、櫻井友粹・村上拓が行った。執筆分担は、各項目の文末に記載している。
6. 調査成果の一部については、平泉遺跡群調査整備指導委員会等で公表してきたが、本書の内容が優先するものである。
7. 遺構の埋土観察、遺物の色調観察に際しては、『新版標準土色帖』を参考にした。
8. 自然科学分析についてはバリノ・サーヴェイ株式会社への分析委託により実施したものである。
9. 後述する平泉遺跡群調査整備指導委員会の先生方をはじめとして、下記の方々・機関の御協力を得た。
安達潤仁 井上雅孝 及川 司 及川真紀 鳥原弘征 鈴木弘太 高橋千晶 羽柴直人
本澤慎輔 前川佳代 八重樫忠郎 (50音順；敬称略)
岩手県立博物館 (公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 平泉文化遺産センター
文化庁記念物課
10. 本事業に係る調査で得られた諸記録及び出土遺物は、岩手県教育委員会が保管している。

目 次

I 序 論	1
1 遺跡の位置と調査経緯	1
2 調査計画及び平泉遺跡群調査整備指導委員会	3
3 今年度の調査	5
II 調査内容	9
1 調査の概要	9
2 検出遺構	11
3 出土遺物	22
III 自然科学分析	48
IV 総 括	58
V 付章 高館跡第7次調査の概要	63

図 版 目 次

図版 1 遺構 調査区全景①	図版 9 遺構 76SD3検出①、②
図版 2 遺構 調査区全景②、③	図版10 遺構 76SD3断面①、②、③
図版 3 遺構 21SD1調査状況、 植物質遺存状態	図版11 遺構 かわらけ①
図版 4 遺構 21SD1断面、 21SD1・調査区断面	図版12 遺構 かわらけ②
図版 5 遺構 21SD1・76SD3（1トレンチ） 断面①、②、21SD1-C層 堆積状況	図版13 遺物 かわらけ③
図版 6 遺構 21SD1北側検出状況、 21SD1-C層堆積状況、 拡張トレンチ検出状況	図版14 遺物 かわらけ④
図版 7 遺構 21SD2調査状況、 21SD2底面遺物出土状況	図版15 遺物 かわらけ⑤
図版 8 遺構 21SD2断面①、②	図版16 遺物 かわらけ⑥
	図版17 遺物 国産陶器①
	図版18 遺物 国産陶器②
	図版19 遺物 国産陶器③
	図版20 遺物 国産陶器④
	図版21 遺物 国産陶器⑤
	図版22 遺物 輸入陶磁器・瓦・木製品
	図版23 遺標 高館跡

挿 図 目 次

図1	遺跡位置図	2	図25	21SD1出土土器類実測図13	38
図2	調査位置図	7	図26	21SD1出土土器類実測図14	39
図3	遺構配置図	10	図27	21SD1出土土器類実測図15	40
図4	21SD1平面図	12	図28	21SD1出土土器類実測図16	41
図5	21SD1植物遺存範囲	13	図29	21SD2出土土器類実測図1	42
図6	21SD1断面図	14	図30	21SD2出土土器類実測図2	43
図7	21SD2平面図	15	図31	遺構外出土土器類実測図	44
図8	21SD2断面図(西側断面)	17	図32	瓦類実測図	46
図9	21SD2断面図(東側断面)	18	図33	木製品実測図	47
図10	76SD3平面図	19	図34	柳之御所遺跡の大型植物遺体	55
図11	76SD3断面図	20	図35	柳之御所遺跡の木材	56
図12	遺物取り上げグリッド	22	図36	木 材	57
図13	21SD1出土土器類実測図1	26	図37	柳之御所遺跡の堀跡の位置	59
図14	21SD1出土土器類実測図2	27	図38	21SD1-C層模式図	60
図15	21SD1出土土器類実測図3	28	図39	柳之御所遺跡の南端部の関連遺構	61
図16	21SD1出土土器類実測図4	29	図40	高館跡調査位置	64
図17	21SD1出土土器類実測図5	30	図41	高館跡第7次調査遺構配置図	65
図18	21SD1出土土器類実測図6	31	図42	高館跡第7次調査平面図	66
図19	21SD1出土土器類実測図7	32	図43	遺構平面図	68
図20	21SD1出土土器類実測図8	33	図44	堀跡平面図	69
図21	21SD1出土土器類実測図9	34	図45	堀跡断面図1(西側断面)	70
図22	21SD1出土土器類実測図10	35	図46	堀跡断面図2(東側断面)	71
図23	21SD1出土土器類実測図11	36	図47	3トレンチ断面図	72
図24	21SD1出土土器類実測図12	37			

挿 表 目 次

表1	平泉遺跡群調査指導委員会	3	表8	柳之御所遺跡の樹種同定結果	52
表2	発掘調査年次計画	4	表9	樹種同定結果	53
表3	平泉遺跡群調査整備指導委員会協議事項	5	表10	高館跡の調査計画	63
表4	土坑・柱穴・甕表	21	表11	遺物観察表(かわらけ)	74
表5	76次調査出土遺物数量表	23	表12	遺物観察表(国産陶器)	79
表6	柳之御所遺跡の放射性炭素年代測定結果	50	表13	遺物観察表(輸入陶磁器)	87
表7	柳之御所遺跡の微細物分析・種実同定結果	51	表14	遺物観察表(瓦)	88
			表15	遺物観察表(木製品)	89

I 序 論

1 遺跡の位置と調査経緯

柳之御所遺跡は、岩手県西磐井郡平泉町平泉字柳御所に所在し、経度・緯度は北緯38度59分28秒、東経141度7分35秒（旧日本測地系）である（図1）。遺跡の背後（北東側）には高館の丘陵があり、東に北上川、西から南にかけて蒲岡が淵と呼称される低地によって区切られた河岸段丘上に立地する。遺跡内の標高は南側で25.3m、中心部で27m、北側で32mであり、北西側が高く、南東側に傾斜している。遺跡の北側の一部は北上川の流路により浸食されたと考えられるため、本来の遺跡の形状には不明な点が残る。遺跡の範囲は調査前には住宅地と田畑があった場所で、緊急調査後に岩手県による公有地化が行われている。

遺跡は一関遊水地事業や国道4号バイパス事業に伴い、大規模な発掘調査が行われた。調査当初より多くの遺構、遺物が確認され、調査の進展に伴って内容が明らかになり、その価値が高く評価されることとなった（岩手県埋蔵文化財センター1995）。この成果を受けて遺跡の保存運動が高まり、建設省（現在の国土交通省）や関係機関の尽力により遺跡の保存が決定し、治水と遺跡保護との両立が図られることとなった。その後、平成9年に史跡指定され、以降順次史跡範囲を広げながら現在に至っている。岩手県教育委員会では遺跡が国の史跡に指定されたことから、史跡公園として整備し保存活用を図るため、文化庁及び柳之御所遺跡調査研究指導委員会（現平泉遺跡群調査整備指導委員会）の指導助言を得て、平成10年度から主に未調査区域を対象とした内容確認の発掘調査を計画し、継続して実施している。これまでの調査は当面の整備対象となる堀内部地区を中心に行ってきた。これらの調査により、堀内部地区の大部分が調査され、遺構遺物の両面から研究が深化している。なお、柳之御所遺跡堀内部地区は、平成22年より史跡公園として公開を行い、現在も史跡整備工事を継続している。

柳之御所遺跡の周辺には、西には隣接して蒲岡が淵跡、無量光院跡が位置し、北には高館跡、南には伽羅御所跡が接している。無量光院跡はこれまでの発掘調査で、宇治平等院と類似しつつも、細部で異なる伽藍や浄土庭園の内容が確認されている。伽羅御所跡は地名から『吾妻鏡』に記載される加羅御所に比定される見解もある。これまで複数の地点で調査が行われ、貴重な遺物も出土しているが、小規模の発掘調査にとどまり遺跡の様相や性格を明確に示すものは確認されていない。近年の調査により周辺部で溝跡等も確認されており、区画の様相も検討されつつある。平泉町内ではこの他に志羅山遺跡や泉屋遺跡、倉町遺跡といった当時の平泉の街並みに関連する遺跡が調査されている。また平泉町内以外でもその周辺からは、北上川を挟んだ東岸城や衣川を挟んで北側の奥州市接待館遺跡、白鳥館遺跡などの調査も行われており、当時の平泉の範囲が周辺に広がる事が明らかになり、検討が行われてきている。

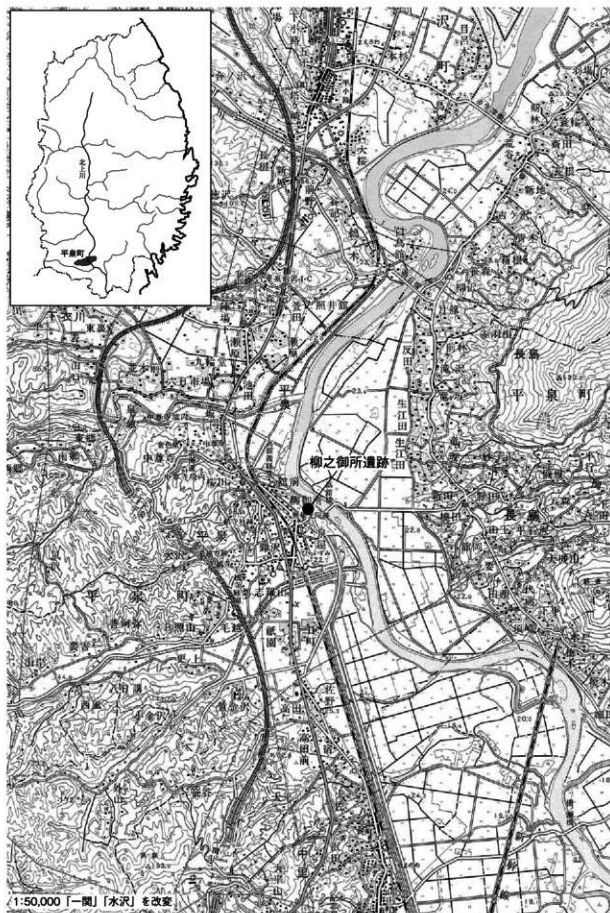


図1 遺跡位置図

2 調査計画及び平泉遺跡群調査整備指導委員会

岩手県教育委員会では柳之御所遺跡の調査を3カ年ずつ計画を立て進めている(表2)。

平成26年度調査(76次)は第6次3カ年計画の1年目にあたる。第6次3カ年計画は堀跡を中心に発掘調査を行い、堀跡や堀内部地区への導入施設などの検討と整備に関わるデータ収集を主な目的とした。なお、平成24年度も堀内部地区北端部周辺の調査を行っており、堀跡を中心として遺構や導入施設の有無や様相の確認を主な目的としている。第5次3カ年計画では北端部周辺の堀跡を中心に調査を行い、第6次3カ年計画では遺跡の南側を含む堀跡周辺の調査へと進んでいく予定である。これまでの計画と今後の計画については表2に示した。調査整備にあたっては平成10年度から「柳之御所遺跡調査研究指導委員会」を設置し、柳之御所遺跡及び平泉遺跡群の発掘調査及び調査研究に対して指導助言を得てきた。平成12年に名称を「柳之御所遺跡調査整備指導委員会」に改め、平成15年度は世界遺産本登録に向けた周辺遺跡の検討の必要性から「平泉遺跡群調査整備指導委員会」と改称した(表1)。平成26年度の委員会・専門部会は表3の通り開催した。

表1 平泉遺跡群調査整備指導委員会

(平成26年4月現在、役職は当時)

氏名	役職	専門部会
入間田宣夫	東北大学名誉教授	整備
遠藤セツ子	メビウスの会事務局	整備
○岡田 茂弘	国立歴史民俗博物館名誉教授	保存・整備
小野 正敏	国立歴史民俗博物館名誉教授	遺構
坂井 秀弥	奈良大学教授	遺構
斉藤 利男	弘前大学教授	遺構
佐藤 信	東京大学教授	保存・整備
清水 肇	東京工科大学名誉教授	遺構
清水 真一	徳島文理大学教授	遺構
関宮 治良	前半泉町商工会事務局長	整備
山中 哲雄	元東北芸術工科大学教授	保存・整備
◎出辺 征夫	奈良県立大学特任教授	遺構
玉井 哲彦	国立歴史民俗博物館名誉教授	遺構
西村 幸夫	東京大学教授	保存

※ ◎委員長 ○副委員長 遺構：遺構検討部会、保存：保存管理計画検討部会、整備：整備検討部会

表2 発掘調査年次計画

	年次	調査回数	調査内容等	調査面積	調査期間	備考
第1次二カ年計画	平成10年度	第49次	・堀内部地内の中心建物群、特に堀内建物である南北棟499号(2S11(28S14と一部重複)の東側地区の解明。 ・23次調査時の23S12建物跡の延長確認。 ・23S13井列跡、23S11堀跡の延長確認。 ・18S11建物跡の延長確認と所属時期の検討。 ・地味及び中心建物群を囲む23S11堀跡の追跡。 ・499号の南北棟の東側の状況及び建物群の伸長。 ・42S11人溝とされていた遺構の時期及び仲戻状況追跡。	500㎡	5月15日 ～10月31日	国庫補助
	平成11年度	第50次	・37次、42次の内容確認調査に確認されていた溝・財物の時期及び仲戻状況の把握。 ・堀内部地区、中心建物群の西側及び北西側地域の解明。 ・築地遺構周辺地域の解明。 ・無気圧と対峙地域の解明。 ・堀外部地区から延長すると推定される遺跡遺構の解明。	1,800㎡	5月13日 ～10月31日	国庫補助
	平成12年度	第52次	・堀内部地区、中心建物群の北側地域の解明。 ・中心建物群を囲むと推定される堀跡の検出。 ・堀外部地区から延長すると推定される遺跡遺構の解明。 ・現存する段高台状の高まりの性格把握。 ・北上川縁地区の状況把握。	2,500㎡	5月15日 ～11月17日	国庫補助
	平成13年度	第53次	・35次発掘調査の際に検出された大規模な堀(内堀)と御出施設を含む遺跡。 ・北上川岸線での大型建物の展開の把握。 ・遺跡を二分する外堀の追跡。 ・旧池跡の展張と造成時期の把握。 ・遺跡中核を囲む堀の追跡調査及び門路の確認。 ・高築南側部分未調査地域の遺構分布の確認。	3,100㎡	5月11日 ～11月13日	国庫補助
	平成14年度	第56次	・中心建物群の規模と新旧関係の解明。 ・堀池北部の構造及び展張と造成時期の把握。 ・北上川縁地区の状況把握。	4,000㎡	5月13日 ～11月29日	国庫補助 ※奉天町子委員会
	平成15年度	第57次	・堀池北部の構造及び展張と造成時期の把握。 ・堀池の構造及び展張と造成時期の把握。 ・池跡から東側への建物等の展開状況の確認。 ・遺跡中核を囲む堀の追跡調査及び門路及び遺跡遺構の確認。 ・調査区間の再検証。	4,000㎡	4月14日 ～10月31日	国庫補助 ※奉天町子委員会
第2次二カ年計画	平成16年度	第59次	・中心建物群の規模と新旧関係の解明。 ・堀池北部の構造及び展張と造成時期の把握。 ・北上川縁地区の状況把握。	3,500㎡	5月10日 ～10月31日	国庫補助 ※奉天町子委員会
	平成17年度	第64次	・堀池の構造及び展張と造成時期の把握。 ・池跡から東側への建物等の展開状況の確認。 ・遺跡中核を囲む堀の追跡調査及び門路及び遺跡遺構の確認。 ・調査区間の再検証。	2,500㎡	4月15日 ～9月30日	国庫補助 ※奉天町子委員会
	平成18年度	第65次	・遺跡中核を囲む堀の追跡調査及び門路及び遺跡遺構の確認。 ・調査区間の再検証。	1,500㎡	5月8日 ～10月31日	国庫補助 ※奉天町子委員会
第3次二カ年計画	平成19年度	第68次	・遺跡遺構(21S1)及び財物(23S1)の延長確認。 ・遺跡南側外堀の有無の確認。 ・遺跡を区画する二重堀の構造や構築時期の特定。 ・調査区の一部確認されている遺構の追跡調査。 ・堀内部北部のトイレ状遺構の分布。 ・堀内部北端部の構造確認。	1,200㎡	5月7日 ～10月15日	国庫補助 ※奉天町子委員会
	平成20年度	第69次	・遺跡を区画する二重堀の構造や構築時期の特定。 ・調査区の一部確認されている遺構の追跡調査。 ・堀内部北部のトイレ状遺構の分布。 ・堀内部北端部の構造確認。	1,100㎡	5月7日 ～12月10日	国庫補助 ※奉天町子委員会
	平成21年度	第70次	・堀内部北部のトイレ状遺構の分布。 ・堀内部北端部の構造確認。 ・遺跡北端部の堀の延長確認。 ・堀内部北端部の標高確認。 ・堀内部と堀外部との導入施設の確認。 ・堀跡の延長確認。	1,100㎡	5月8日 ～10月31日	国庫補助 ※奉天町子委員会
第4次二カ年計画	平成22年度	第72次	・遺跡北端部の堀の延長確認。 ・堀内部北端部の標高確認。 ・堀内部と堀外部との導入施設の確認。 ・堀跡の延長確認。	1,100㎡	5月11日 ～9月30日	国庫補助 ※奉天町子委員会
	平成23年度	第73次	・堀内部と堀外部との導入施設の確認。 ・堀跡の延長確認。 ・堀内部北端部の標高確認。 ・堀内部と堀外部との導入施設の確認。 ・堀跡の延長確認。	1,100㎡	6月1日 ～10月31日	国庫補助 ※奉天町子委員会
	平成24年度	第74次	・堀内部と堀外部との導入施設の確認。 ・堀跡の延長確認。 ・堀内部北端部の標高確認。 ・堀内部と堀外部との導入施設の確認。 ・堀跡の延長確認。	1,100㎡	6月1日 ～10月31日	国庫補助 ※奉天町子委員会
第5次二カ年計画	平成25年度	第75次	・堀内部と堀外部との導入施設の確認。 ・堀跡の延長確認。 ・堀内部北端部の標高確認。 ・堀内部と堀外部との導入施設の確認。 ・堀跡の延長確認。	1,100㎡	6月1日 ～11月30日	国庫補助 ※奉天町子委員会
	平成26年度	第76次	・遺跡南端部における堀跡の状況確認。 ・堀周辺の遺構の延長確認。 ・遺跡南端部周辺における遺構の分布状況の確認。	800㎡	6月1日 ～11月30日	国庫補助 ※奉天町子委員会
	平成27年度	第77次	・遺跡南端部周辺における遺構の分布状況の確認。	1,100㎡		

※ 第51次・53次・54次・58次・60～63次・71次調査は平泉町教育委員会が実施。

表3 平泉遺跡群調査整備指導委員会 協議事項

回	日 時	内 容
道橋・整備部会	26. 7.11	今年度の調査整備の内容について
		堀跡の復旧工事について
		平泉遺跡群の調査整備について（無量光院跡の整備）
保存管理部会	26. 7.11	世界遺産に係る資産影響評価
第1回委員会	26.9.18～19	今年度の調査について
		今年度の整備について（植栽、看板等について）
		堀跡の復旧工事について
		看板等の整備について
		世界遺産に係る資産影響評価及び受容力調査について
		無量光院跡の調査状況、整備計画について
道橋・整備部会	26.12.24	今年度の整備工事について
		来年度以降の整備計画について
		看板等の整備について
		無量光院跡の調査状況、整備計画について
第2回委員会	27.3.5～6	今年度の整備について
		今後の柳之御所遺跡の整備計画について
		汚物廃棄火の整備について
		無量光院跡の調査状況、整備計画について
		平泉遺跡群の今年度の調査成果について
		世界遺産に係る資産影響評価

3 今年度の調査（図2）

(1) 調査体制

〈岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課〉

総括課長	松下 洋介
世界遺産担当課長	細越 健志
上席文化財専門員（柳之御所担当）	岩淵 計
主査（柳之御所担当）	潤上 恭子（H27.4.1から）
文化財調査員（柳之御所担当）	大沢 勝（H27.3.31まで）
文化財調査員（柳之御所担当）	櫻井 友梓
〈（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター〉	
所 長	中村 英俊
文化財専門員	村上 拓（H27から）
文化財調査員	伊藤みどり（H27.3.31まで）

(2) 調査区の位置と調査目的

平成26年度調査（76次）は遺跡の南端部周辺の未調査範囲を主な対象とした（図2）。今回の範囲は近年まで宅地等が所在し、これまで未調査の範囲で遺構の分布状況等に不明な点が多い。ただし、遺跡南端部の周囲はこれまで多くの調査が行われている範囲で多くの事実が示されている。これまでの調査では柳之御所遺跡の緊急調査が開始された21次調査（昭和63年）および23次調査（平成元年）でこの周囲が調査されたほか、69次調査（平成20年）と70次調査（平成21年）で21・23次と重複する周囲の調査を行っている。また、平泉町教育委員会が小規模の調査を行った範囲も近接する。これらの調査で内側の堀跡（21SD1）や外側の堀跡（21SD2）、関連する遺構（21SX4）が確認されているほか、伽藍之御所跡の方向へ伸びる橋跡の遺構も確認されている。

今回の調査範囲は遺跡を囲む堀跡のうち、これまで調査が行われてきた南端部と猫間が淵跡周辺（75次調査）の間に位置し、未調査の範囲にあたる。遺跡を区画する堀跡の位置については地形の視察などから推察されてきたが、明確な位置については不明な部分も残されていた。そこで堀跡の位置を確定し、一部について走行方向を確認することと合わせて時期等を検討する資料を得ることをひとつの目的とし、猫間が淵跡方向へ至る地形の様相や遺構の分布状況の確認を第2の目的とした。

柳之御所遺跡を囲む二条の堀跡については遺跡を位置づける上で重要な遺構だが、時期的な変遷については課題も残されていた。大きな変遷としては外側の堀跡から内側の堀跡へと変化が想定できるものの、地点ごとの様相の相違もあり、時期やそれぞれでの規模について課題が残る。それらの検討の材料を得ることを目的とする。

なお、調査は遺構の分布や所属時期の確定、遺構の性格等を把握することを目的としているが、遺構の保存のために、精査の際の掘削は必要最小限にとどめている。調査終了後は、調査区全体と一部の掘削を行った遺構についてはいずれも砂の埋め戻しによる保護層を確保した上で、調査以前の地形と合わせて埋め戻しを行い、遺構の保護を図っている。

(3) 調査の方法

グリッド

柳之御所遺跡の調査に際しては、遺構の測量や遺物の取り上げなどの作業に際し、基準となるグリッドを設定している。このグリッドは（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが1988年から始まる緊急調査に際し平泉町教育委員会と協議のうえ設定したものである（岩手県埋蔵文化財センター1995）。平面直角座標第X系（旧日本測地系）をもとにした5×5mグリッドで、南北方向の基準線に対し真北は、西に0°11′振れる。遺跡範囲の北西端辺りが原点（0，0）となる。

なお、49次調査まではグリッドの呼称をX座標方向、Y座標方向の順にしていたが、50次調査以降、その順を逆転させY座標方向、X座標方向の順で呼称・記載している。混乱を最小限にとどめるため、本書においてもこの方式を採用し、たとえば66-70(Y-X)グリッドならばX軸方向が70、Y軸方向が66を示している。以下の記載についてはこのグリッドによって調査を行い、遺物の取り上げも、近現代の変更による耕作上の出土遺物等を一部除いて、基本的にこのグリッドによって行っている。なお、調査時の錯誤により、地震後の改測の成果と以前のものとを混同したため今年度調査時にグリッドの位置が錯誤しており、その対応については取り上げグリッドを後述した。

なお、東日本大震災後に行った再測量において当遺跡内では座標が変動したことが改めて確認できた。基本的には遺跡内での変異はほぼ同程度であり、遺跡内という限定された範囲では平行移動に近いこ



図2 調査位置図

とが推察される。

柳之御所遺跡内での継続調査においては1988年以来進めているグリッド内での位置を明示することが調査研究の継続上有効と考えており、旧座標におけるグリッド表記を行うこととする。そのため調査においては旧日本測地系の座標を基準として設定している。ただし、柳之御所遺跡は周囲の遺跡との関係性も研究上重要であることが認識されてきており、それらの比較や整備、その基準となる図面作成においては世界測地系の正確な座標値を把握、更新する必要性も高い。そのため東日本大震災後の成果に基づいた改測成果を把握し、これらへの対応についても備えることとする。

以上の通り、その改測においては発掘調査における測量及び報告書等の記載は従来の局座標で行う。世界測地系座標の表示も適宜行うが、その場合にはそれを明記する。

表土掘削・遺構検出

今回の調査では、昨年度の調査で表土の厚さを確認していた範囲については、バックホーを使い、表土を除去した。また、表土が薄いことが想定された以前の宅地部分の範囲については人力で表土除去を行った。表土の除去後は遺構の検出を、鋤簾などの道具を使用して確認調査(検出作業)を行った。

遺構精査・記録

検出作業によって確認された遺構については、遺跡保護のため基本的には掘削を伴う精査は行っていない。しかし、一部の遺構については遺構の年代把握や遺物検討のために、半裁等によって土層観察を行い、遺構の断面を記録した。平面図の実測は5mグリッドを分割した1m×1mのメッシュを使用して手作業で行った。今次の調査で検出された遺構はもちろんであるが、既知の遺構についても、検出したものについてはあらかじめ平面図の作成を行っている。写真については6×7版カメラ(モノクロ・リバーサルフィルム)を中心に、適宜35mm版カメラやデジタルカメラを使用して撮影を行った。調査区全景写真撮影に際しては高所作業車を使用して、調査員が撮影を行っている。

遺構名称

今次調査における遺構名は新規の遺構については頭に今回の調査回数である76を付して上記遺構略号を使用した(例、76SK〇〇)、既往の発掘調査で確認された遺構と同一であることが想定できる遺構については旧番号(既調査で命名)を本書においても使用している。具体的には2条の大規模な堀跡については既調査で確認されている遺構と同一であることから21SD1、21SD2の遺構名称を継続して用いる。

整理作業

野外調査終了後の平成26年12月1日から平成27年3月31日まで行った。遺物は水洗後に注記→接合→実測→トレース→図版作成→写真撮影の順で作業を行った。遺構については点検、合成の後、必要に応じて第2原図を作成し、その後トレース→図版作成の順で作業を行った。

記載内容

この報告では、今次の調査で検出した遺構と既知の遺構でも精査の際に半裁した遺構について記載している。また、新たに精査した柱穴が含まれる建物跡や新たな知見が得られた遺構についても記載している。

普及活動

普及活動の一環として、野外調査の全容がほぼ明らかとなった10月4日に現地説明会を行った。晴天に恵まれ、約100名の参加者を得た。そのほかに、遺跡を訪れる観光客や小中学校の見学などに対して、必要に応じて随時現場を公開した。

(櫻井)

Ⅱ 調査内容

1 調査の概要

今回の調査区は平成21・22年度に実施した69・70次調査区に近接する、遺跡の南端部の範囲である。76-103グリッドから84-112グリッドにかけて設定した調査区で、調査対象面積は約800㎡である。公有地化以前の状況は宅地で、現況の地形は平坦になっているが、本来の地形は周囲の地形から猫間が淵跡方向へ下る範囲であることが推察された。今回の調査は、21次調査および69次・70次調査で検出された21SD1・21SD2堀跡の延長部分にあたると思われる、2本の堀跡の位置や状況を把握することや周囲の遺構の分布状況の確認を目的とした。

調査区内は宅地造成時の削平や地形の改変が著しい。検出面までの層序は、調査区内の基本層序は下記の通りである。

I 表土層

II 宅地造成時とみられる盛土層

III 調査区東に堆積する土層で遺物を含む。12世紀以降の堆積層。

IV 黒褐色の土層。12世紀以前の時期の旧表土にあたる層だが、多くの範囲では削平等により確認できない。この土層が残る範囲はこの土層の上面で遺構検出面となるため掘削は行っていないが、2層に分かれる。

V 黄褐色の粘土層で、遺跡全体の多くの範囲で遺構検出面となる土層。

なお、このうちⅢ・Ⅳ層は調査範囲全体では確認できず、調査範囲の東側の一部でのみ確認できる。多くの調査範囲はⅤ層の上面にⅡ層の盛土層が堆積し、削平等により改変が行われたことがわかる。21SD1堀跡の一部を除き、遺構の多くはⅤ層上面での検出となる。

今回の調査における検出遺構は以下の通りである（図3）。

堀跡	2条
溝跡	1条
柱穴	15個

調査区全体の地形は猫間が淵跡と呼ばれる低地が広がる南側に向かって緩やかに傾斜する。もっとも標高の高い21SD1の内側の肩部分からもっとも低い南側への比高は5m程である。21SD1より南側の範囲ではⅤ層の直上にⅡ層の盛土層が厚く堆積しており、大きく地形が改変されたことが窺える。この範囲では遺構が確認できないが、それが遺跡が機能した時点での本来の様相及び地形であったかは不明である。猫間が淵跡への傾斜は急激なものではなく自然の傾斜となっており、規模の大きな遺構や柱穴は存在していないものと判断でき、本来の遺構分布も希薄だったと考えられる。なお、69次・70次調査においては21SD2のさらに南側に溝跡を検出している。今回の調査範囲にもこれらの遺構が継続する可能性が考えられたが、今回の調査範囲では確認できなかった。既調査範囲での底面標高は約21.5mであり、削平された場合でも底面の一部は残存する可能性もある。ただし、この遺構は一部を確認したのみで、走行方向等に不明な点が残るため今回の調査区に延長するかは判断としない。

次節では精査を行った遺構を中心に記述する。

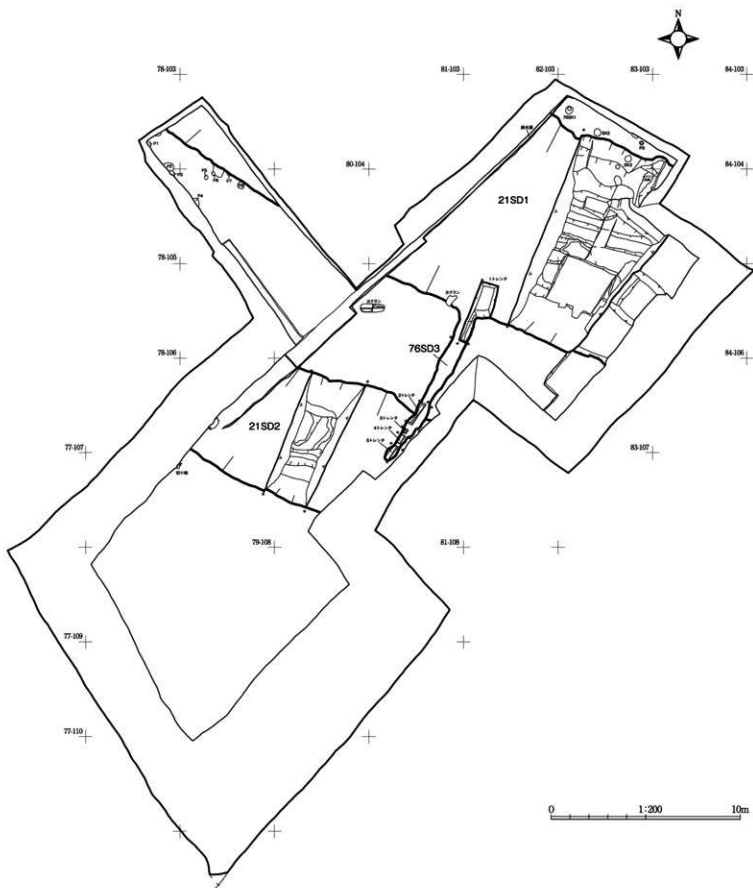


図3 遺構配置図

2 検出遺構

(1) 21SD1 (図3・4)

調査区北側の範囲に位置する。過去に調査された内側の堀跡と一連の遺構にあたる。今回の調査区は21・69・70次の調査区と近接しており、同一遺構として把握できることから、遺構名称は21SD1としている。調査区内ではV層で検出した。東西方向はY=82~83グリッドにて、南北方向はX=103~105グリッドで確認している。東西方向に走るか埴の中央付近で計測すると走行方向は東西方向である。また、調査区を拡張したグリッドにおいても南側の肩部分を確認しており、延長方向を想定することが可能である。この範囲も含めて、今回の調査区内では20mほどの延長を確認している。

上幅は11mで確認しており、これまでの他の調査区で確認している規模とおおむね同様である。走行方向は北東-南西方向に走っており、隣接している過去の調査区の延長に位置することがわかる。ただし、現在の地形から想定できる方向よりはやや南側に延び、これまで確認している方向からやや南側に開く方向である。

今回の調査範囲では柱穴等では重複関係をもつ遺構はみられないが、76SD3が21SD1と直交して確認できた。平面での確認では21SD1が76SD3を切るように確認できた。この部分は76SD3の延長としてトレンチを設定して断面を確認している。このトレンチの所見は76SD3の遺構堆積土とも関連するため、後述する。

今回は一部分のみ掘り下げを行った(図5・6)。検出面からの深さは2.5mほどで、底面標高は21.4m程である。底面は幅3mほどのやや平坦な面をもち、断面形状は逆台形状になる。両側ともやや緩やかに立ち上がり、北側で30°ほど、南側で35°ほどの傾斜で直に立ち上がる形状である。法面にはやや平坦になる部分もあるが、大きく平坦面を造成した範囲は確認できず、狭い段をもちながら立ち上がると捉えられる。遺跡南端部の21次調査では平坦な範囲が造成されており、それとの関係は位置が離れ判然としにくい。しかし、今回の調査範囲で北側の肩とした範囲と平面的な位置関係が連続する可能性もあり、その場合本来的な21SD1の肩はさらに北側に位置する可能性もある。底面は既述の通り幅3mほどでやや平坦な形状となるが、必ずしも平坦に整形されたものではなく、溝状に掘り込まれて段差をもつ。このことから底面は凹凸のある形状だったことがわかる。ただし、全体に溝状の掘り込みが筋状に入るものではなく、他の範囲に広がるものではないことから、これらの凹凸が規格的に整形が行われたとみなすことは現状では難しい。

上層は30層に分層した。いずれも自然堆積の土層である。土層の特徴から、大きく4つの段階に分けることができる(A~D)。上層から確認すると、A層は12世紀代以降に形成された自然堆積の土層である。かわらけ片、炭化物を含む土層で、近世以降の陶磁器を含め、多くの土器類が出土している。土器類の多くは摩滅したもので自然堆積による土層の形成との想定と整合的だが、完形品に近い遺物も出土しており、周辺部の遺構が削平されたことにより堆積した遺物も含まれるとみられる。21SD1は長大な遺構で堆積にも複数の時期があり、完形品に近い資料の出土と遺跡機能時もしくはその直後の堆積とが必ず対応するものでもないが、この部分までは近世段階まで窺いとして残っていた可能性が高い。また、他調査区においても同様に上層部分には近世以降の上層が堆積しており、同様の状況がみられる。

B層も自然堆積土層で、堀跡全体の堆積土のうち中層にあたる。この層より下層のD層は完形等の遺物が少なく、B層の下層には遺物を完形も含めて一定量含むことから、B層は遺跡が廃絶した後の近い時期も含めた堆積土層とみられる。B層は下層付近を中心にかかわりを中心とした遺物や炭化物

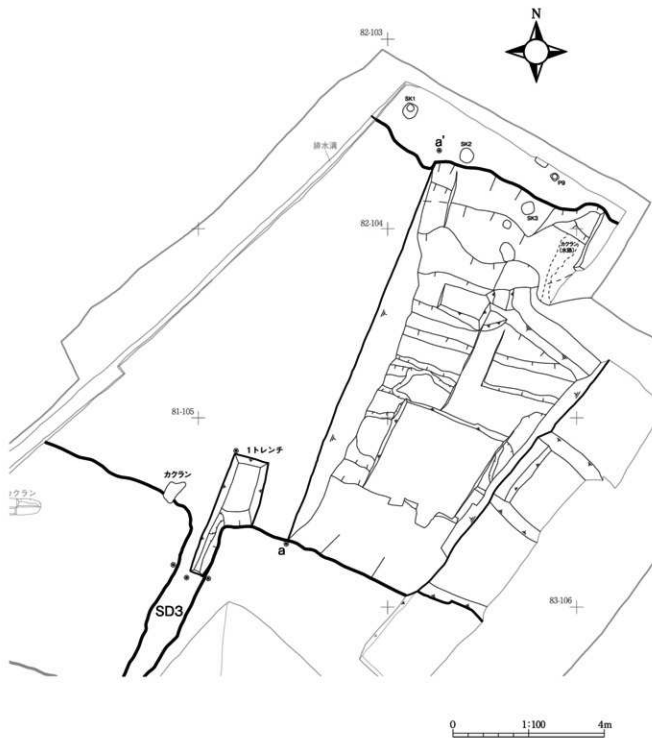


図4 21SD1平面図

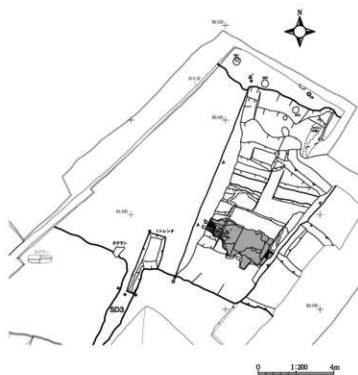


図5 21SD1 植物質遺存範囲

を含む。下層を中心にラミナ状の堆積も確認でき、水成堆積による土層が間に入るとみられる。A層とB層は12世紀以降の堆積とみられるが、B層はそのうち、機能廃絶後から徐々に堆積した土層と考えられる。

C層は21SD1の南側部分にのみ確認できる土層である。土層の堆積の方向から、21SD1の南側から斜め方向に堆積したことが確認できる。土層は地山ブロックを多く含む土層が厚く堆積し、間層にうすく旧表土の可能性のある暗褐色の土層が堆積する。この土層は一部には炭化物を含む。この範囲では崩落土層とみられ自然堆積の土層だが、地山土とみられる黄褐色の土壌が5～10cm程度の径でブロック状に含まれる土層で人為的な様相を示す土層である。なお、

この土層にはかわらけ等の遺物が含まれるほか、土壁なども含まれる。以上のように、この土層は人為的な様相を示すものの、ブロックの入り方が水平方向ではなく、斜行して確認できることから積み土等ではなく崩落土層と判断した。

D層は下層付近を含む自然堆積の土層である。C層以下の土層を一括したが、土質等には差異もある。いずれも遺物をそれほど多く含まない土層である。端部には堀跡の壁の崩落とみられる土層がある。また、グライ化した土層やラミナ状の堆積が確認できる土層もあり、水成堆積によるものとみられる土層である。遺物がそれほど多くなく、崩落等もあることから、21SD1の構築後間もない時期からの堆積と考えられ、堀構築から遺跡発掘前後までの時間で堆積したものと考えられる。断面の観察では掘り直しは確認できない。この土層の上面の調査区南側に植物質遺体が層状に堆積している。分布範囲は図5の通りである。概ねC層が堆積する下層にのみ限定的に確認できることから、人為的な状況の可能性を想定し平面的に検出した後に一部の断ち割りを行った。植物質遺体は面的には広がるものの詳細を見ると、複数の細かい層で形成されており、その間には自然堆積の土層が堆積することが確認できた。なお、柳之御所遺跡では植物質の樹皮等を組み合わせた敷薬工法とみられる部分が69次調査の21SD2で確認しているほか、平泉町内では中尊寺大池跡でも確認されている。しかし、これらで確認されたように木の枝等が組み合わされている状況や葉が敷き詰められている状況は確認できず、木の枝や樹皮、薬等が規則性をもたずに乱雑な様相でランダムに堆積する状況であった。また、その直下には薄い砂などが確認でき、ラミナ状の部分があることから直下は水成堆積の土層とみられた。砂の堆積は植物質の堆積の間層になる範囲も確認できた。また、これは間接的な根拠になるが、堀内部の底面付近で他に顕著な構築物や人為的な土層は確認できず、位置的にも構築物とは想定しがたい。これらのことから、これらの植物質遺体は自然堆積のもので、C層の堆積により後世のB層で確認されるような水成堆積等の影響を受けなかったためにこの範囲に残存したものと判断した。

出土遺物はかわらけが275994.6g、国産陶器が20591.8g、輸入陶磁器が172.3g出土している。多

くは近世を含む自然堆積土層にあたるA層から出土している。なお、数量や遺物の特徴等は遺物の項目で記述する。

(2) 21SD2 (図3・7)

調査区南側の範囲に位置する。過去に調査された外側の堀跡と一連の遺構にあたる。今回の調査区は21・69・70次の調査区と近接しており、同一遺構として把握できることから、遺構名称は21SD2としている。調査区内ではV層で検出した。東西方向はY=79~80グリッドにおいて、南北方向はX=106~107グリッドで確認している。走行方向は東西方向に走るが幅の中央付近で計測するとN-85°-Wである。今回の調査区内では8mほどの延長を確認している。

上幅は6.5mで確認しており、これまでの調査区で確認している規模とおおむね同様である。走行方向は既述の通り、北西-南東方向に走る。今回の調査範囲では柱穴等では重複関係をもつ遺構はみられないが、76SD3が21SD2と直交して確認できた。2つの遺構が重複する範囲は21SD2の人為堆積土が確認できる範囲で、後述するように76SD3も人為堆積土で埋められており平面的な前後関係の認定は難しいが、平面での確認では土質の特徴から76SD3が21SD2の堆積土を切るように確認できた。この部分は76SD3の延長としてトレンチを設定して断面を確認している。このトレンチの所見は76SD3と関連するため、後述する。

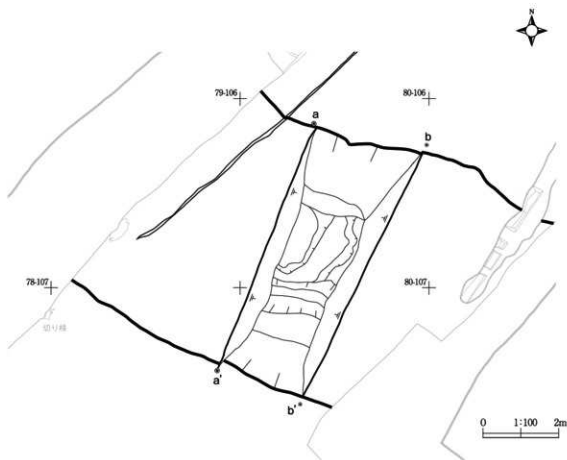


図7 21SD2平面図

今回は一部分のみ掘り下げを行った(図8・9)。検出面からの深さは1.5mほどで、底面標高は21.8m程である。東断面と西断面の両者を記録しているが、土層やそれぞれの土質の微細な部分は狭い範囲内でも自然堆積土層を中心に若干の相違がある。ただし、狭い範囲であることから、概ね対応は可能で、それぞれの対応は図に記した。また細かい土層では差異も生じるが、これらの土質による大枠での堆積の変遷としては共通している。ここでは上層から、西断面の土層名を基本に記述する(図8 SPa-a)。

最上層は自然堆積の土層が厚く堆積する。1～4層は土質等からやや新しい時期も含む可能性があるが、自然堆積土層のうち下層の土層(北壁5～8')は遺跡の機能が廃絶した段階に近い時期の堆積とみられる。1～2層や8・8'層などのこれらの範囲の下層付近では炭化物を含むほか、かわらけを含む遺物量も比較的多く出土しており、自然堆積のこれらの土層が遺跡廃絶後に堆積したものとみられる。1～2層はしまりも弱く、土器類を多く含むものの摩滅した資料も多い。3～5層は土器類も少ない。土質からしまりも弱く砂質も多く含むことから、遺跡廃絶後に一定期間経過後の堆積とみられる。この範囲が溝状のものか後世の自然堆積で大きく削られたためにできた土層かはこの範囲のみでは判断としないが、今回の範囲の所見では、21SD2の機能時や21SD1と同様の大きな堀跡としての大きな区画としての機能は掘り込みとした場合でも底面まで浅いこと、他の堀跡と比べると立ち上がり弱いことから、想定が難しい。ただし、遺跡全体の中でも同様の土層が確認できる範囲があることから、注意する必要がある。

21SD2の北側には人為堆積の土層が確認できる(16～18層・9～12層)。この土層は東側でより残存が良好だが、水平堆積の土層が複数確認できる。9～12層は東側では確認できず、部分的なものでは土質が斜行する部分があり崩落の可能性があるかと判断した。この範囲の下部の人為堆積土層は土層の薄いから複数回の堆積が想定できるが、底面を中心に水平方向の堆積であることブロック状の地山土も斜行などは顕著ではなく水平方向の堆積を含むことからまた、下層で水平の堆積が顕著なことから人為的な埋め土と判断した。端部は崩落も確認できるため、人為土層形成後に表土として機能した時期は、長期間ではないがやや時間幅をもつことが想定できる。

これより下層は21SD2の機能時の堆積である。断面の形状は大きく1回の掘り直しが確認できる。これをもって新期と旧期と記す。また、この掘り直しによる底面形状の変化は明瞭だが、それ以外の部分でも底面は凹凸が多く不整形なあり方が顕著である。これらの他にも堆積の様相からは小規模な改修が想定でき、複数回の造作が行われたと考えられる。新期、旧期のいずれとも自然堆積によって中間部はどまどま堆積していたとみられる。旧期は幅6mの台形状である。新期は緩やかなV字状の形状である。

出土遺物はかわらけが37283.2g、国産陶器が505.8g、輸入陶磁器が63.8g出土している。多くは上層から出土している。

SPa' L=23,300

SPa

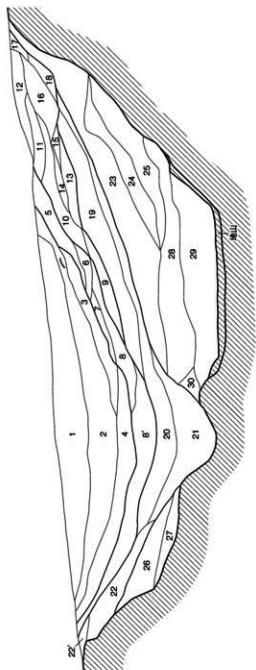


図8 21SD2断面図(西側断面)

1	新しい段層の堆積(自然露頭)	107RS3	明礬色砂質土	土砂を多く含む(埋没)	107R1	黒色粘質土	しおぬい、水け乾の堆積	水成か
2	新しい段層の堆積(自然露頭)	25RS2	黒色砂質土	しおぬい、炭化層、石灰を少量含む	107R5	明礬色土	しおぬい、水け乾の堆積	自然露頭
3	新しい段層の堆積(自然露頭)	75R7/2	明礬灰色粘質土	しまりめ、粘質が強い、石灰を少量含む	107R5.4	しおぬい粘質土	フロックを多く含む	自然露頭
4	埋没露頭の自然露頭	107R2.4	明礬色砂質土	しまりめ、粘質が強い、土砂、石灰を含む	107R5.4	しおぬい粘質土	フロックを少量含む	自然露頭
5	埋没露頭の自然露頭	107R2.3	明礬色砂質土	しまりめ、粘質が強い、土砂、石灰を含む	107R5.6	明礬色土	フロックを少量含む	埋没
6	埋没露頭の自然露頭	107R2.3	明礬色砂質土	しまりめ、粘質が強い、土砂、石灰を少量含む	107R5.6	明礬色土	フロックを少量含む	埋没
7	埋没露頭の自然露頭	107R2.3	明礬色砂質土	しまりめ、粘質が強い、土砂、石灰を少量含む	107R5.6	明礬色土	フロックを少量含む	埋没
8	埋没露頭の自然露頭	75RS3	しおぬい、褐色土	しまりめ、粘質が強い、	25V1	黒色粘質土	しまりめ、水け乾、フロック	水成か
9	15~18の人工段層の堆積	107R6	明礬色土	しまりめ、粘質が強い、フロックを多く含む	25V1	黒色粘質土	しまりめ、水け乾、フロック	水成か
10	15~18の人工段層の堆積	107R6	明礬色土	しまりめ、粘質が強い、石灰化層、黒山フロックを多く含む	25V1	黒色粘質土	しまりめ、水け乾、フロック	水成か
11	15~18の人工段層の堆積	107R6	明礬色土	しまりめ、粘質が強い、石灰化層、黒山フロックを多く含む	25V1	黒色粘質土	しまりめ、水け乾、フロック	水成か
12	15~18の人工段層の堆積	25V7/6	明礬色粘土	しまりめ、粘質が強い、石灰化層、黒山フロックを多く含む	25V1	黒色粘質土	しまりめ、水け乾、フロック	水成か
13	埋没露頭の自然露頭	107R6.6	明礬色粘土	しまりめ、粘質が強い、フロックを多く含む	25V1	黒色粘質土	しまりめ、水け乾、フロック	水成か
14	埋没露頭の自然露頭	107R6.6	明礬色粘土	しまりめ、粘質が強い、フロックを多く含む	25V1	黒色粘質土	しまりめ、水け乾、フロック	水成か
15	新しい人工段層	107R5	明礬色土	しまりめ、粘質が強い、石灰化層、黒山フロックを多く含む	25V1	黒色粘質土	しまりめ、水け乾、フロック	水成か
16	新しい人工段層	107RS3	しおぬい、褐色土	しまりめ、粘質が強い、石灰化層、黒山フロックを多く含む	25V1	黒色粘質土	しまりめ、水け乾、フロック	水成か
17	人工段層	107RS3	しおぬい、褐色土	しまりめ、粘質が強い、石灰化層、黒山フロックを多く含む	25V1	黒色粘質土	しまりめ、水け乾、フロック	水成か
18	人工段層	107RS3	しおぬい、褐色土	しまりめ、粘質が強い、石灰化層、黒山フロックを多く含む	25V1	黒色粘質土	しまりめ、水け乾、フロック	水成か
19	人工段層	107RS3	しおぬい、褐色土	しまりめ、粘質が強い、石灰化層、黒山フロックを多く含む	25V1	黒色粘質土	しまりめ、水け乾、フロック	水成か
20	新しい段層の堆積土	107RS1	黒色粘質土	しまりめ、粘質が強い、石灰化層、黒山フロックを多く含む	25V1	黒色粘質土	しまりめ、水け乾、フロック	水成か
21	新しい段層の堆積土	107R1	黒色粘質土	しまりめ、粘質が強い、石灰化層、黒山フロックを多く含む	25V1	黒色粘質土	しまりめ、水け乾、フロック	水成か
22	新しい段層の堆積土	107R5	明礬色土	しまりめ、粘質が強い、石灰化層、黒山フロックを多く含む	25V1	黒色粘質土	しまりめ、水け乾、フロック	水成か
23	新しい段層の堆積土	107R5.4	しおぬい粘質土	しまりめ、粘質が強い、石灰化層、黒山フロックを多く含む	25V1	黒色粘質土	しまりめ、水け乾、フロック	水成か
24	新しい段層の堆積土	107R5.4	しおぬい粘質土	しまりめ、粘質が強い、石灰化層、黒山フロックを多く含む	25V1	黒色粘質土	しまりめ、水け乾、フロック	水成か
25	新しい段層の堆積土	107R5.4	しおぬい粘質土	しまりめ、粘質が強い、石灰化層、黒山フロックを多く含む	25V1	黒色粘質土	しまりめ、水け乾、フロック	水成か
26	新しい段層の堆積土	107R5.6	明礬色土	しまりめ、粘質が強い、石灰化層、黒山フロックを多く含む	25V1	黒色粘質土	しまりめ、水け乾、フロック	水成か
27	新しい段層の堆積土	107R5.6	明礬色土	しまりめ、粘質が強い、石灰化層、黒山フロックを多く含む	25V1	黒色粘質土	しまりめ、水け乾、フロック	水成か
28	新しい段層の堆積土	107R5.6	明礬色土	しまりめ、粘質が強い、石灰化層、黒山フロックを多く含む	25V1	黒色粘質土	しまりめ、水け乾、フロック	水成か
29	新しい段層の堆積土	25V1	黒色粘質土	しまりめ、粘質が強い、石灰化層、黒山フロックを多く含む	25V1	黒色粘質土	しまりめ、水け乾、フロック	水成か
30	新しい段層の堆積土	25V7/2	灰褐色土	しまりめ、粘質が強い、石灰化層、黒山フロックを多く含む	25V1	黒色粘質土	しまりめ、水け乾、フロック	水成か

(3) 溝 跡

76SD3 (図10・11)

21SD1と21SD2に直交する溝跡である。幅1m程で、走行方向は南北方向で、 $N-20^{\circ}-E$ ほどで東に振れる。21SD2の北側に確認できる人為堆積土を切り、21SD1に切られる。21SD2部分では南側に下がり傾斜するため、21SD2の人為堆積土上で溝が終わるが、木米の遺構の延長は不明である。

21SD1と関連する部分に1トレンチを設定した(図11 SPb-b')。断面で確認できる土層は大きく21SD1の堆積土にあたる土層と76SD3の堆積土にあたる土層、両者の間の堆積層に分けられる。1層は地山ブロックではほぼ構成される土層で76SD3を埋め戻した土層である。他の範囲で確認されている人為堆積土では、暗褐色土や炭化物などを含むものが多いが、この土層はこれらの火葬物がきわめて少ない。76SD3をこの人為的な土層で埋め戻した後、21SD1が構築される。2~4層は1層と同質とみられるが、ややブロックの粒が異なり、分層した。土層の様相では21SD2と接する端部では上部の5、6層では斜方向の堆積があり、21SD1のC層と関連する可能性もあるが、下層は水平方向の堆積が確認できる。土質は地山ブロックを主体に暗褐色土を含む土質で締まりも強い人為堆積の土層である。

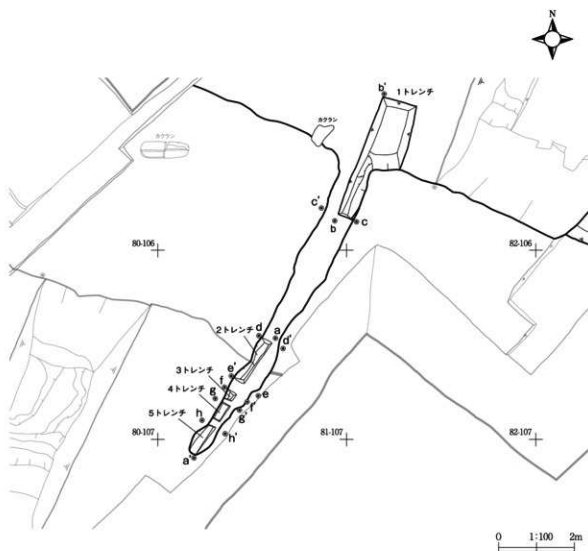


図10 76SD3平面図

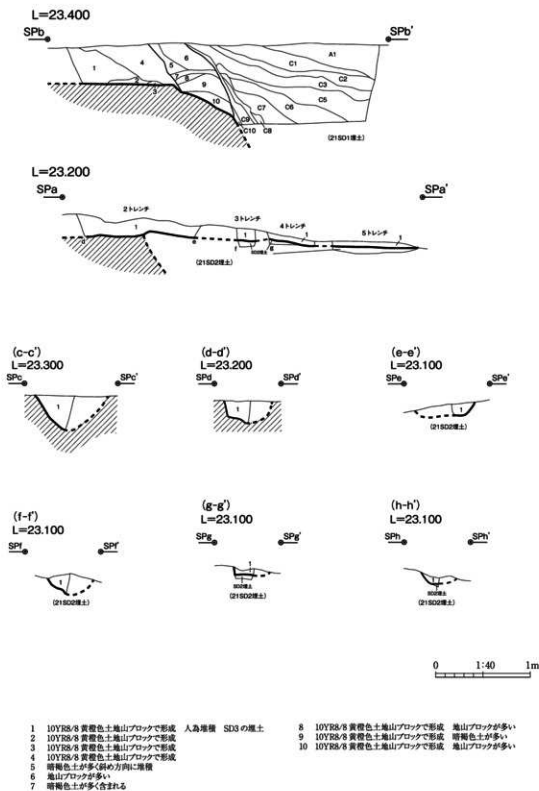


図11 76SD3 断面図

21SD1側の堆積はC層の堆積土である。この土層の特徴については21SD1の項目で記した通りである。C層と5～10層との層界部分では地山ブロックを主体に構成される土層同士の間層として、旧表土の可能性のある暗褐色土が薄く堆積しており（C9層）、ここを堀の端部とみなした場合に21SD1の他の位置での平面的な関係とも整合するため、この部分と6～10層の層界が表土となる時期が想定できる。したがって、76SD3を埋め戻し、端部を埋め戻しもしくは一部が崩落した後に、21SD1を埋めるように斜め方向に人為堆積土が崩落したものと判断した。

このほか、21SD2と接する部分に4カ所のトレンチを設定した（2～5トレンチ）。いずれのトレンチでも、76SD3は1トレンチ1層と同一の土層で埋め戻されている。地山面が検出面となる範囲が多いが、1層との間には間層をはさまず、直接地山面の掘り込みの直上に堆積する。21SD2と重複する範囲はいずれの土層も地山ブロックを多く含む人為堆積土層のため、平面での確認が難しい部分もあるが、21SD2の土層は暗褐色土などの旧表土等とみられる土質も含む一方で、76SD3の1層はほぼ黄褐色土の地山ブロックのみで構成され暗褐色土等の異なる土質を含まないことから両者を区別できる。平面的な確認およびトレンチでの断面の観察から21SD2→76SD3の構築順序の前後関係を確認できる。

遺物は1トレンチで出土しているが、多くは21SD1-C層からの出土である。76SD3の埋土は、遺物を含まない、上述の通りほぼ黄褐色の地山ブロックのみで形成される土層である。

(4) その他の遺構

土坑・柱穴（表4・図3）

今回の調査区では土坑が3基、柱穴が9個確認された。平面での検出にとどめており、12世紀以降の遺構も含まれるとみられるが、規模と位置を一覧表で示す。

表4 土坑・柱穴一覧表

遺構番号	グリッド	規模
		径×径(cm)
76SK1	82-103	41×36
76SK2	83-104	40×36
76SK3	83-104	34×31
76P1	78-104	27×(18)
76P2	78-104	56×(39)
76P3	78-104	37×21
76P4	78-104	52×(22)
76P5	78-104	25×18
76P6	78-104	22×15
76P7	78-104	28×(11)
76P8	79-104	36×34
76P9	83-104	20×19

3 出土遺物

出土遺物は総重量で709570.2gである。遺物は総重量のうち、かわらけが326589.5gと最も多く、約80%を占める。次いで陶磁器類が21997.0gと多い。陶磁器類は国産陶器が21744.6gで、このうち渥美窯産と常滑窯産が大部分を占める。その他に須恵器、須恵器系陶器がある。古代の須恵器も坏類が含まれるが、それに対して壳類も多く、それのみでない可能性も高い。輸入陶磁器は57点で252.4g出土している。また、今回の調査範囲では細片が多いが、壁土が4225.2g出土している。

今回の調査区内では近世以降の盛土層を除去した直下に遺構検出面にあたる土層が確認できる範囲が多く、包含層等も多くは遺構内からの出で、その他に遺構検出面においても遺構の平面プラン内からの出土である。

なお、かわらけはおおむね1/4以上残存し器形が復元可能なものを図示し、国産陶器類と輸入陶磁器、瓦は全点を登録し表に掲載、そのうち図示可能なものを示した。また、輸入陶磁器の分類にあたっては「大宰府分類」(太宰府市教育委員会2000)を参考にしている。

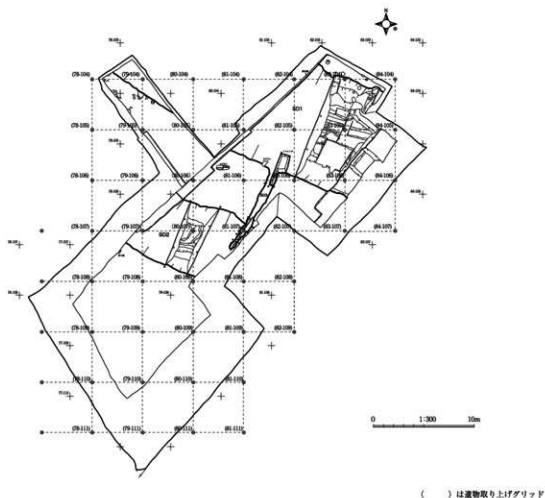


図12 遺物取り上げグリッド

またIで触れた通り、取り上げのグリッドが現在の調査区グリッドと異なる部分が生じている(図12)。表記載の取り上げグリッドについてはこちらの位置と対応する。

表5 76次調査出土遺物数量表

遺物名	かわらけ	瓦	国産陶器	輸入陶磁器	鉄製品	石製品	鉄片	鉄製品	動物遺体	その他土製品	うち土上	土師器	縄文土器	合計	
21SD1	合計	273994.6	1890.3	20591.8	172.3	264.2	1565.3	1331.3	264.2	46.3	4467.1	3849.9	445.3	539.3	307572.4
	A	203461.8	648.2	11351.7	119.1	44.3	980.4	370.2	41.5	—	297.2	133.2	252.2	155.0	217721.8
	B	48000.7	55.6	6445.6	15.1	4.0	548.7	21.9	4.0	—	113.8	113.8	110.2	107.8	55427.4
	C	13669.9	1073.2	782.4	14.5	215.7	—	459.4	215.7	—	3951.9	3199.7	66.1	82.0	20533.8
	D	3737.0	—	1248.7	—	—	23.3	—	—	—	5.1	5.1	11.0	53.9	5079.0
	検出面・覆土	7125.2	113.3	763.4	23.6	—	12.9	480.0	—	46.3	96.1	96.1	5.8	140.6	8807.4
21SD2	合計	37283.2	650.9	503.8	63.8	0.0	92.5	319.3	22.0	0.0	89.3	82.7	30.4	232.3	39289.5
	トレンチ	36728.0	647.6	503.8	63.8	—	92.5	319.3	22.0	—	89.3	82.7	30.4	232.3	38731.0
	検出面	555.2	3.3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	558.5	
76SD3	トレンチ(SD1 C層)	3599.2	210.5	39.3	—	—	—	—	6.7	—	316.0	292.6	—	5.7	4177.4
	その他	1405.4	—	23.4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	7.1	1433.9
検出面・その他	8307.1	104.5	581.3	16.3	—	27.3	6.8	30.8	1.5	26.1	—	58.7	925.4	10089.1	
合計	326589.5	2866.4	21744.6	232.4	264.2	1685.1	1657.6	333.7	47.8	4898.8	4225.2	534.4	1709.8	709436.2	

※ 重量の単位はいずれもgである。

【土器・陶磁器類】

21SD1出土遺物

21SD1は掘り下げを行ったのはトレンチ部分のみだが、多くの遺物が出土している。検出面を含めて、かわらけが275994.6g、国産陶器が20591.8g、輸入陶磁器が172.3g出しており、このうちかわらけ216点、国産陶器598点、輸入陶磁器45点を図示した(1~859)。ただし多くは検出面や上層の近世の堆積とみられるA層からの出土である。また、A層以外の土層も自然堆積土層からの出土で原位置を保つものではない。以下では下層の出土遺物から記述する。

1~31はD層とした下層の自然堆積層から出土したかわらけである。1~3はロクロかわらけの大皿、4~24は手づくねかわらけの大皿、25~30は手づくねかわらけの小皿である。ロクロかわらけは器高が低い皿状の器形である。手づくねかわらけの大皿は口径が15.5cmと大きい個体もみられるが、多くは14cm以下の器形である。また、その中でも12~13cmと口径が小さい器形の資料が多い点の特徴的である。31は内折れかわらけである。32~41は国産陶器類である。甕類の体部片が多いが41・44など片断鉢片も含まれる。甕類では押印が確認できる資料もある。D層からの遺物はかわらけも含めて出土が少ないが、手づくねかわらけが多く、器形からも後出の特徴をもつ。

人為堆積土層にあたるC層からの出土資料は人為堆積土層およびその間層に入る炭等が混じる土層からの出土である。45~53はロクロかわらけ大皿である。器高をみると4cm近いやや高い器形のものもみられるが、多くは3cm前後以下の低い器形のもので皿形の器形を主体とする。体下部から底部の器形では54のように底部が突出して立つ器形の資料もみられる。56~63はロクロかわらけの小皿である。64は底部のみで小形の資料だが、柱状高台状の器形である。65~86は手づくねかわらけ大皿である。口径は14cm以上のものみられるが、13cm以下の小形の器形が多い。器高はやや高い器高の資料も含ま

れる。87～92は手づくねかわらけ小皿である。93～110は国産陶器類である。93、94は片口鉢の口縁部、95、102は山茶碗とみられる。その他、甕類の体部片が多い。111～114は輸入陶磁器類である。いずれも白磁で甕類が多い。

B層は12世紀代以降の遺跡廃絶後の自然堆積土層で出土遺物も多い。115～129はロクロかわらけの大皿である。口径は14cm以下で器高が3.5cm以下の資料が多い。多くは皿形の器形だが、柄型に近い器形も少量含まれる。128のように底部が突出する形態もあるが、130～135はロクロかわらけの小皿である。136～209は手づくねかわらけの大皿である。口径が15cmを超える大型の器形がある一方で、13cm以下の小型の器形も多く含む。210～228は手づくねかわらけの小皿も口径が9cmを超える器形もあるが、多くは8cm前後以下の器形である。229～232は内折れかわらけである。233～316は国産陶器類である。多くは甕類の体部片だが、片口鉢や片口碗(287)も含む。317～319は輸入陶磁器類である。317は白磁甕類、318、319は青白磁である。

A層は近世を含む12世紀以降の自然堆積土層である。かわらけは完形、細片を含めて多くの量が出土しているものの、造構の時期決定等に関わる資料ではないことから、完形品等に限って図化した。330、333は内面に油煤が付着する。336～338は内折れかわらけである。339～781は国産陶器類である。782～809は輸入陶磁器類である。検出面での出土資料は810～849は国産陶器類、850～859は輸入陶磁器類である。国産陶器類は甕類、片口鉢、山茶碗を含み、甕類の体部片が多い。押印は縦長格子文が多く、方形の格子文の資料が次いで多い。この他に480のような花文状のものや574のような波状文などもみられる。

21SD1の出土資料の様相をまとめると、A層は12世紀以降の自然堆積土層で遺物の特徴からも複数の時期にまたがる雑多な資料が出土している。B層は下層では完形の資料を含むなど遺跡機能時に近い時期も含むとみられるが、自然堆積土層でもあり複数時期の資料を包含する。手づくねかわらけが多く、器形からも12世紀後半の資料を主体とする。D層は遺跡が機能した段階を含むとみられるが、12世紀後半代の資料が多い。上層のC層とは遺物の特徴からおおむね同様の傾向を示し大きな時間差は想定できないが、D層に比してC層がやや古相の特徴をもつ遺物もみられる。いずれの土層でも手づくねかわらけを多く含む、ロクロかわらけよりも量比が多い。これらをまとめると器形の特徴から、いずれの土層の出土資料も12世紀後半代のもつとみられる。ただし、21SD1の機能時点に近いとみられるD層出土資料や、廃絶時に近いとみられるB層出土資料も12世紀後半代の資料で、そのなかでも後出の特徴をもつものが多く、若干の時間幅が想定できる。

21SD2出土遺物 (図29・30)

21SD1は掘り下げを行ったのはトレンチ部分のみだが、かわらけが37283.2g、国産陶器が505.8g、輸入陶磁器が63.8g出土しており、このうちかわらけ71点、国産陶器20点、輸入陶磁器5点を図示した。(860～955)。なお、遺物記載の層の表記は取り上げ時の表記から、東側断面の土層表記と対応する。本文中の記載は上層の自然堆積、人為堆積、下層の自然堆積と大別して記す。登録遺物の観察表の記載も同様である。21SD2からは多くの資料が出土しているが、多くは検出面や上層の近世の堆積とみられるA層からの出土である。かわらけは図化した資料の多くは北側に堆積する人為堆積土層からの出土である。

860、861は人為堆積土層より下層の新时期の堀跡の堆積土からの出土である。861は手づくねかわらけの大皿で、口径は復元が難しいが大型の器形が想定できる。862～882は人為堆積土層でもやや下層の資料である。862～864はロクロかわらけの大皿、865はロクロかわらけの小皿で、いずれもやや口径が大きい器形である。皿形の器形ではあるが、器高はやや高い形状である。866～877は手づくねか

わらけの大皿である。871、872、875などの15cm前後と口径の大きい資料が含まれる。一方で、13cm以下の顕著に口径の小さい資料は少ない。878～882は手づくねかわらけの小皿である。883～904は人為堆積土層出土資料でやや上層からの出土資料である。883、884はロクロかわらけ大皿で器高が高い器形である。885、886はロクロかわらけ小皿である。887～900は手づくねかわらけの大皿である。口径が小さい資料も散見されるが、15cm以上と大きいものを含み、口径の全体的な傾向はやや大型である。901～904は手づくねかわらけの小皿である。905～930は上層の12世紀以降の堆積である自然堆積土層からの出土である。905～915はそのうち下層からの出土で、手づくねかわらけ大皿も口径が14cm前後と小さいものでまとも12世紀後半のなかでもやや後出の特徴をもつ資料が多い。ただし顕著に口径が小さい13cm前後の資料は少ない。916～930は近世以降を含む可能性がある自然堆積土層である。919は柱状高台、930は穿孔をもつ土製品である。出土は上層のため、出土資料も細片を多く含み、時間的な限定は難しい。931～950は国産陶器類である。いずれも上層の自然堆積土層からの出土である。951～955は輸入陶磁器類で、954・955は人為堆積土層、その他は自然堆積土層からの出土である。953は白磁四耳壺である。

21SD2出土資料では人為的な堆積土からの出土資料もロクロかわらけより手づくねかわらけの数量が多くまとも、12世紀後半に位置づけることができる。ただし、この土層では口径の大きい形状を一定量含み12世紀後半のなかでは後出のもののみではない。やや古相の段階を含む可能性が高い。自然堆積土層で下層の資料は12世紀後半中でも後出の特徴をもつ資料が多い。

旧期および新期の機能時により近いとみられる下層の自然堆積土層からは同化可能な資料は得られていない。土器類の出土自体がきわめて少なく、この点は12世紀中葉以前の特徴とみなすこともできるが、資料から位置づけることが難しい。なお、旧期の堀跡堆積土にあたる最下層からは後述する横樋が出した。

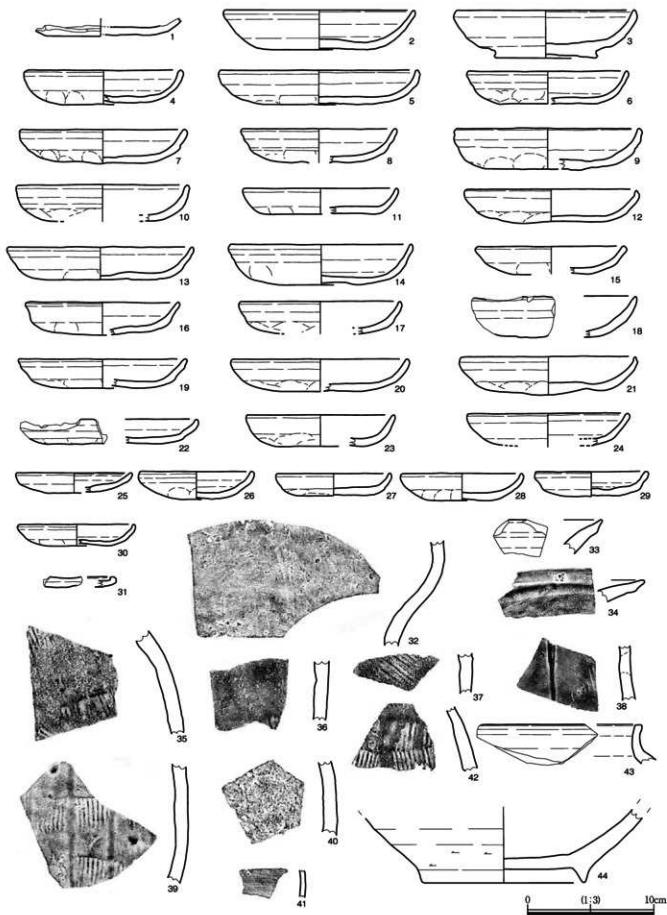


图13 21SD1 出土土器類実測図1

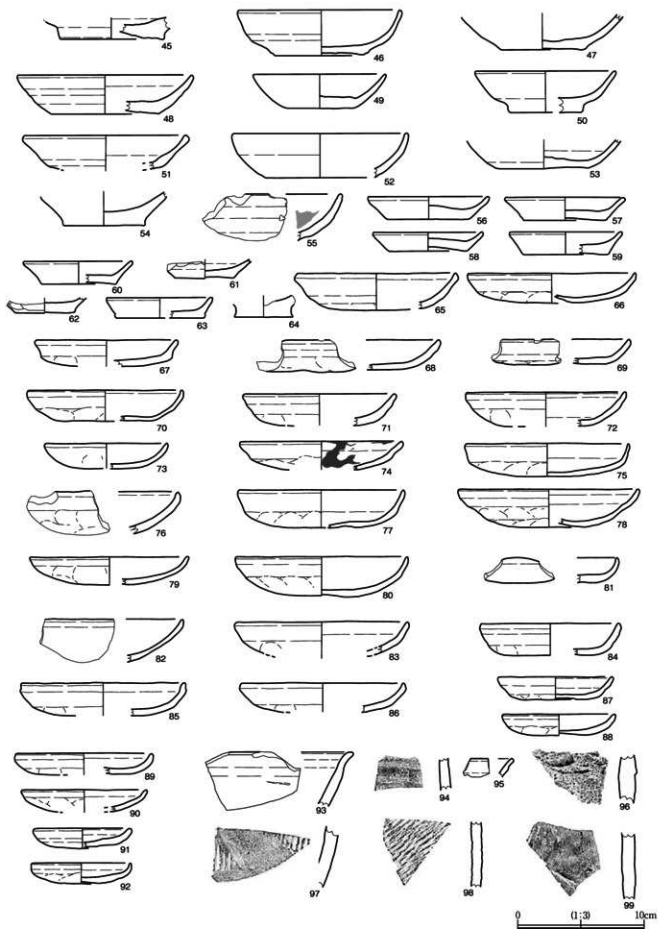


图14 21SD1 出土土器類実測图 2

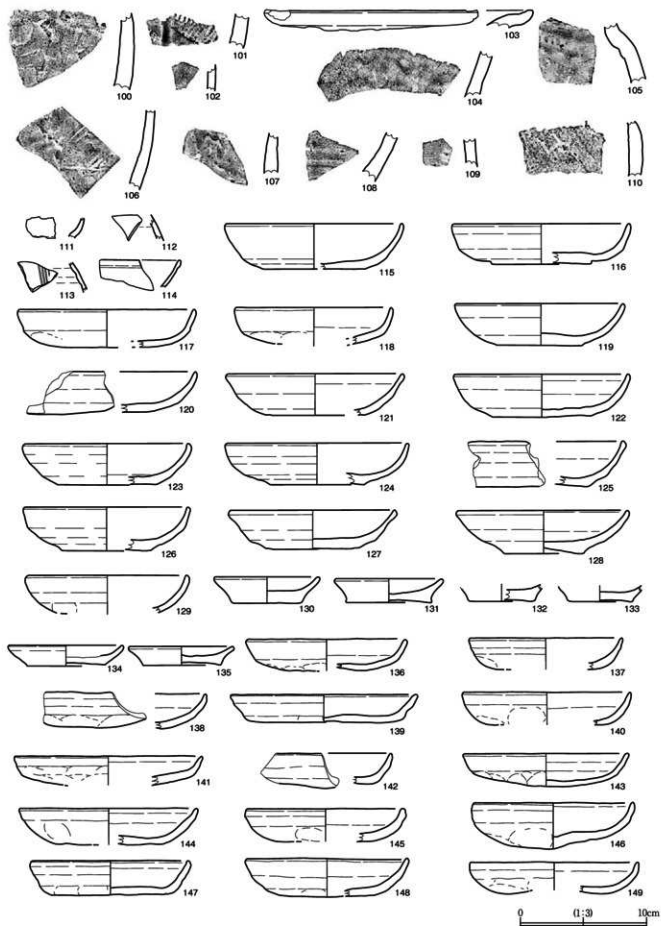


图15 21SD1 出土土器類実測図 3

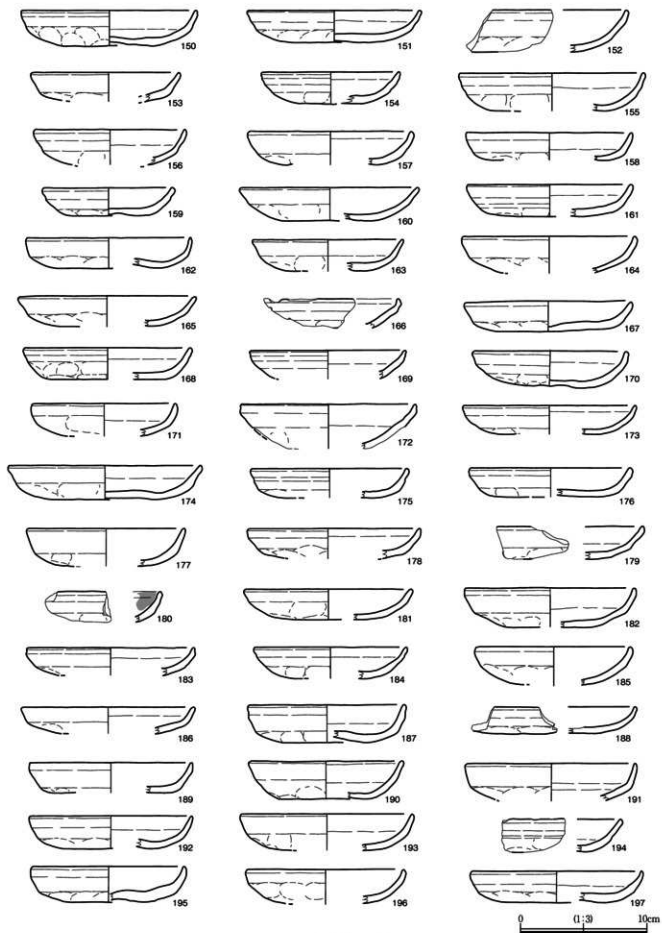


图16 21SD1 出土土器類実測图 4

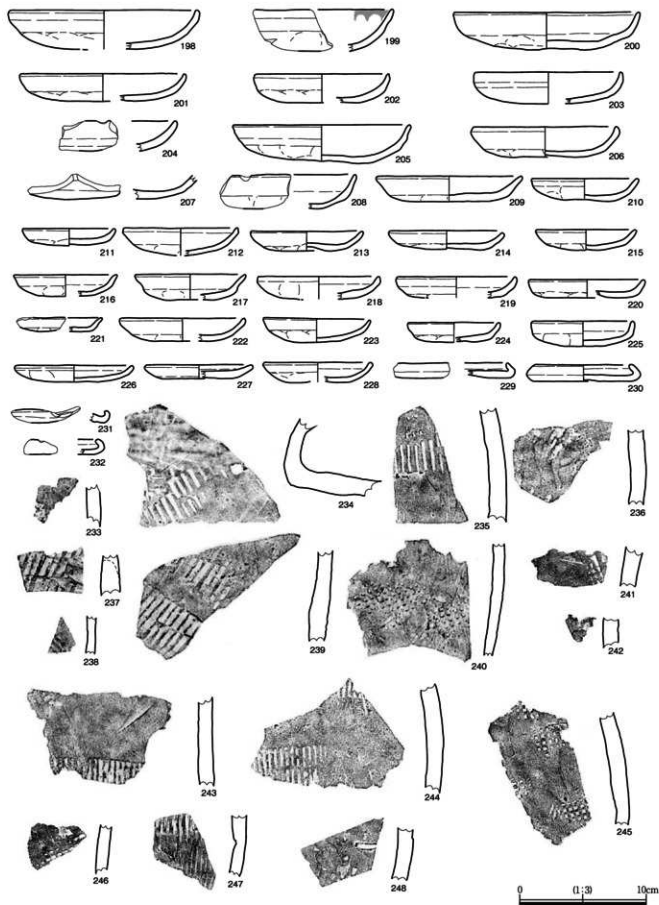


图17 21SD1 出土土器類実測図5

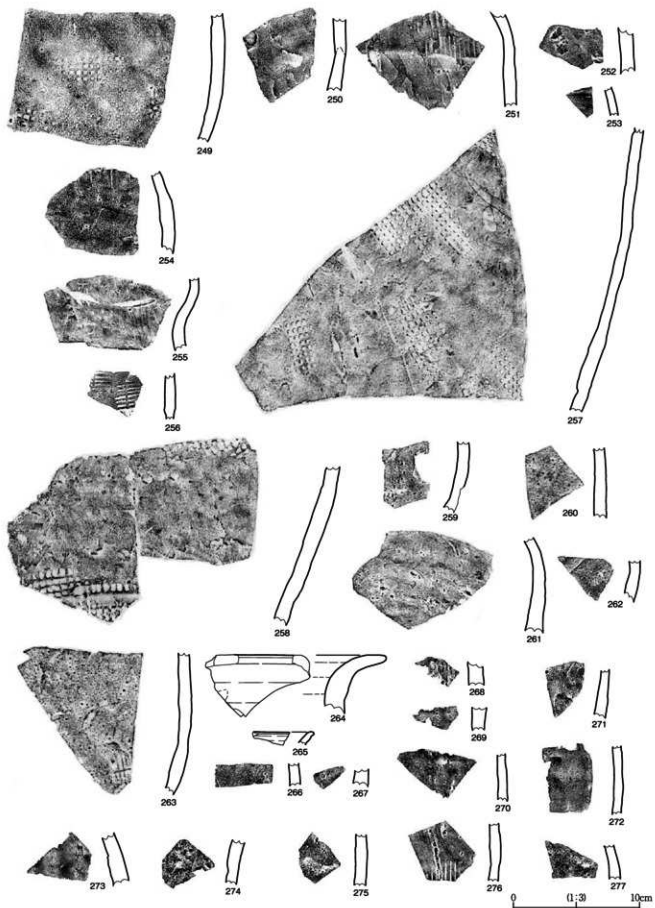


图18 21SD1 出土土器類実測图6

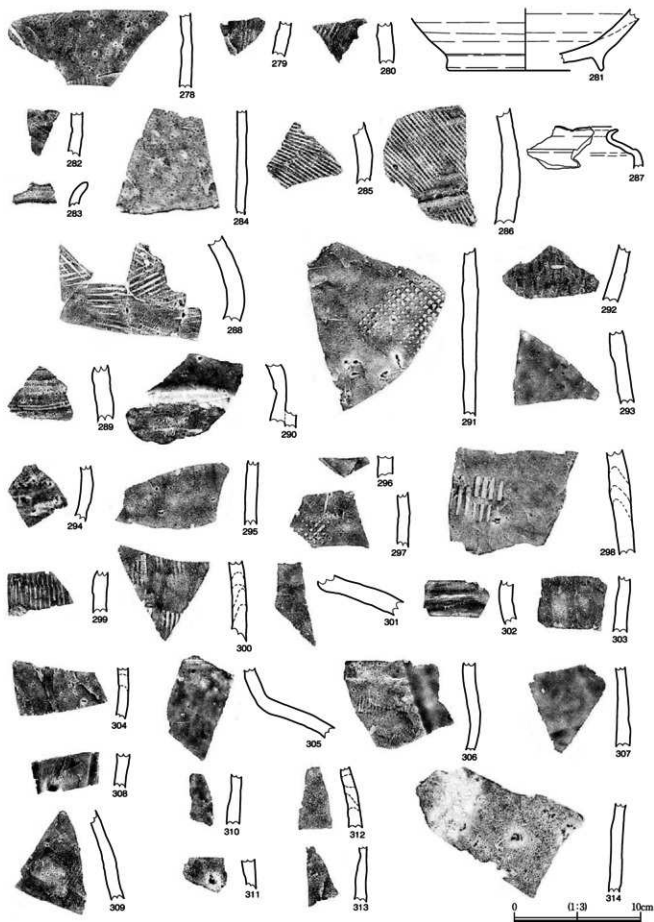


图19 21SD1 出土土器類実測図7

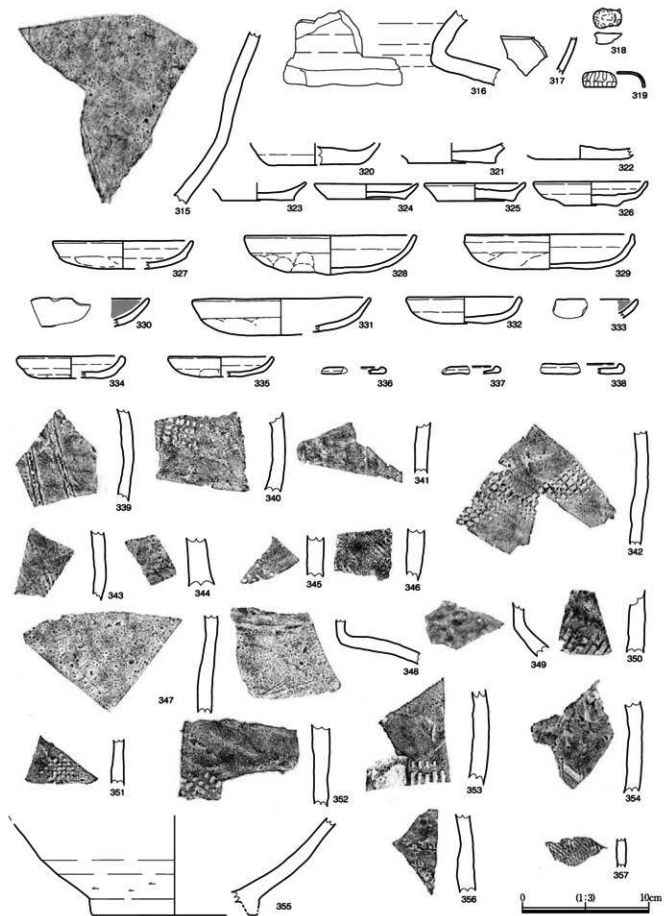


图20 21SD1 出土土器類実測图 8

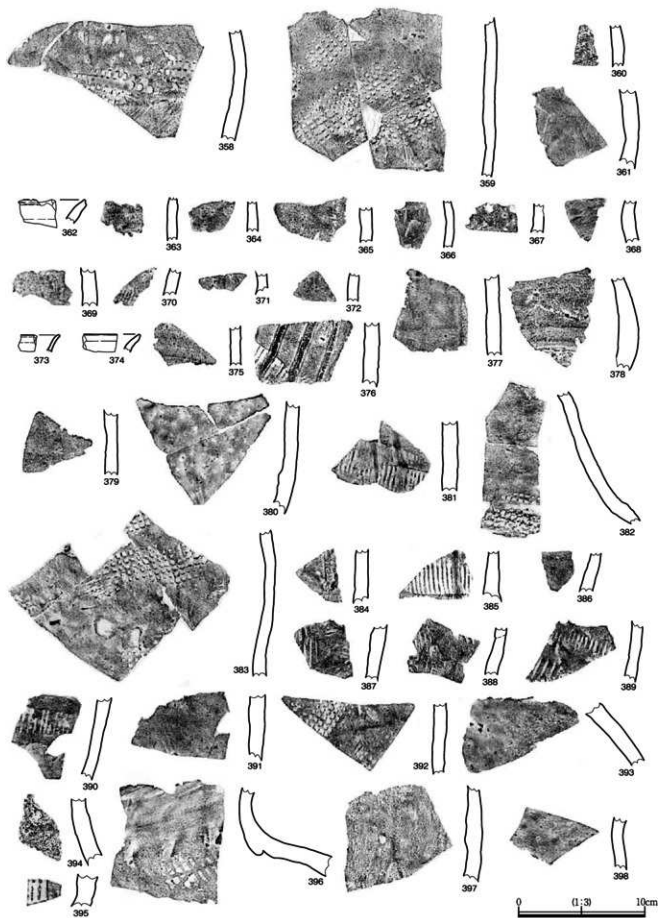


图21 21SD1 出土土器類実測図9

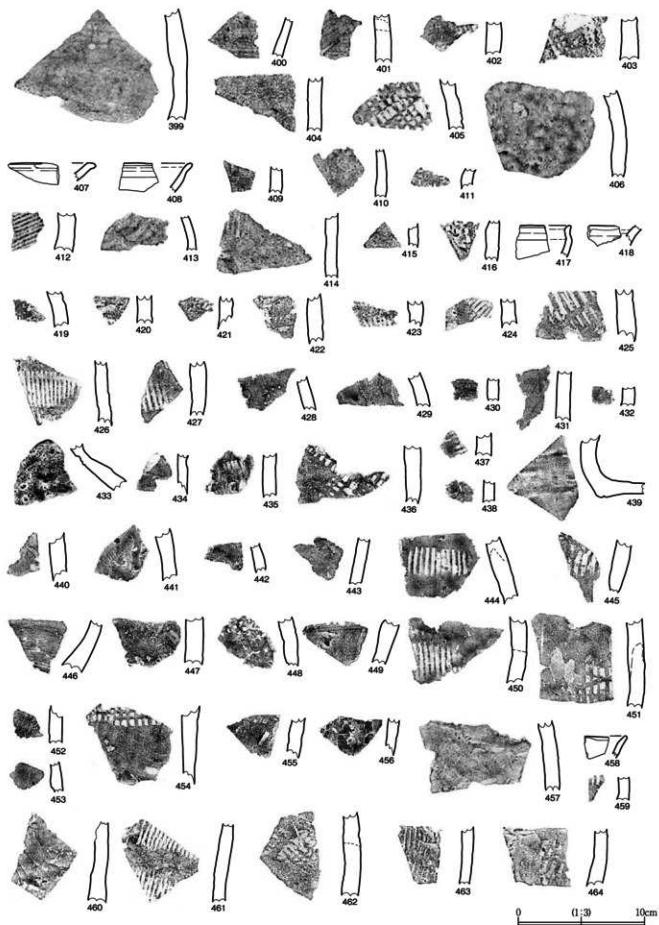


圖22 21SD1 出土土器類實測圖10

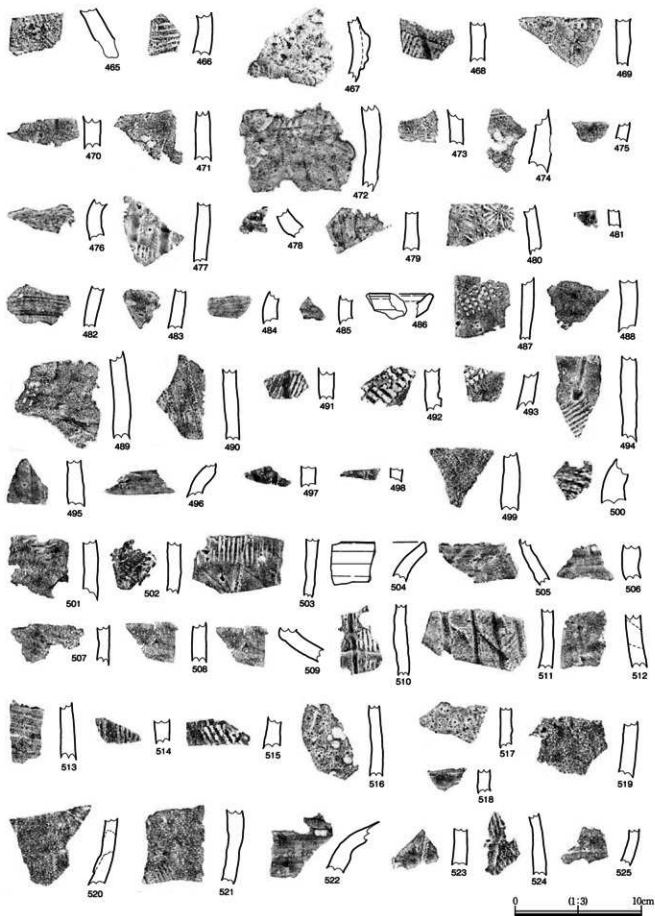


图23 21SD1 出土土器類実測図11

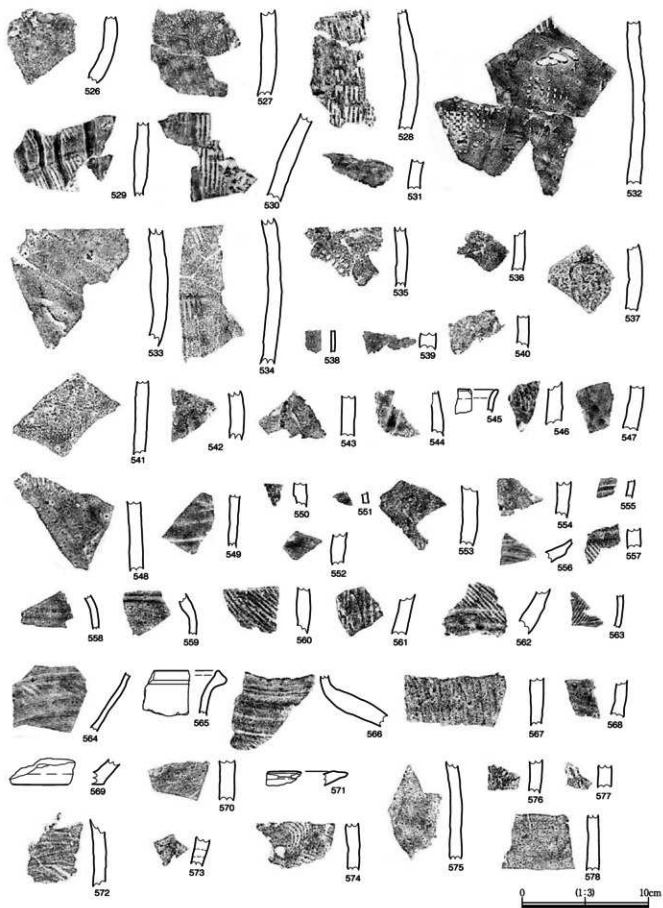


图24 21SD1 出土土器類実測图12

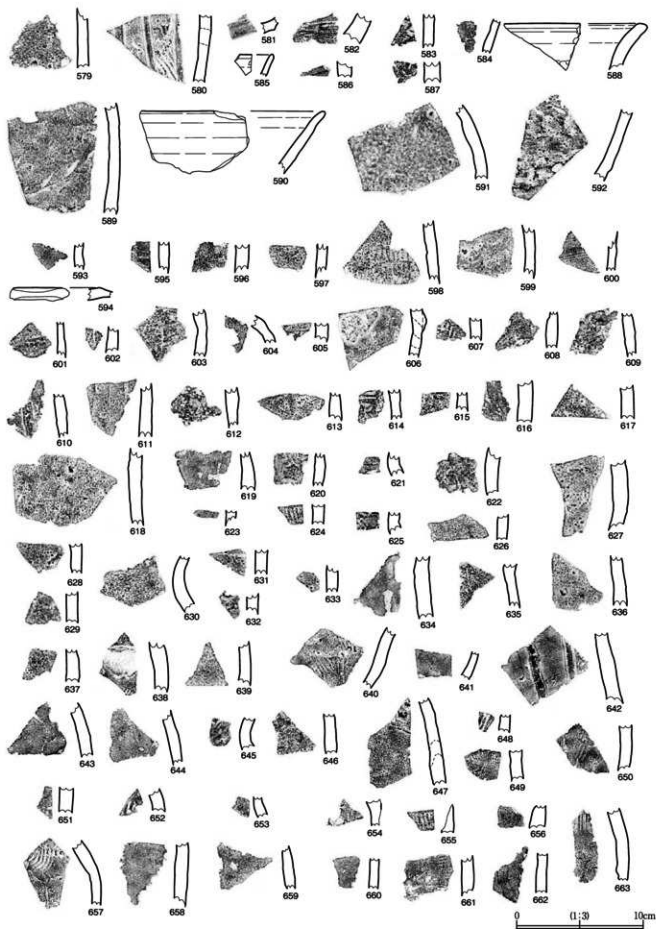


图25 21SD1 出土土器類実測図13

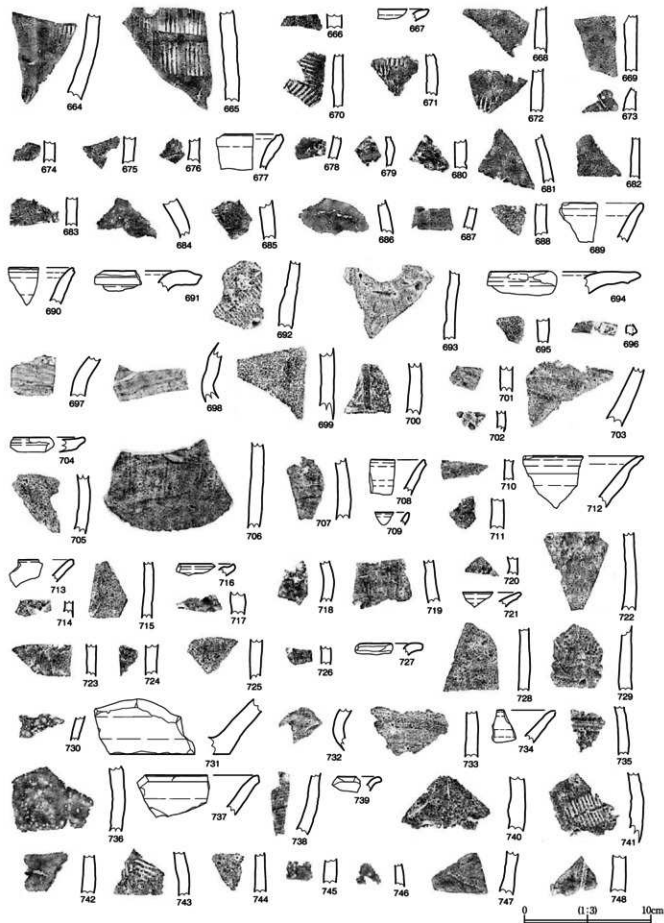


图26 21SD1 出土土器類実測图14

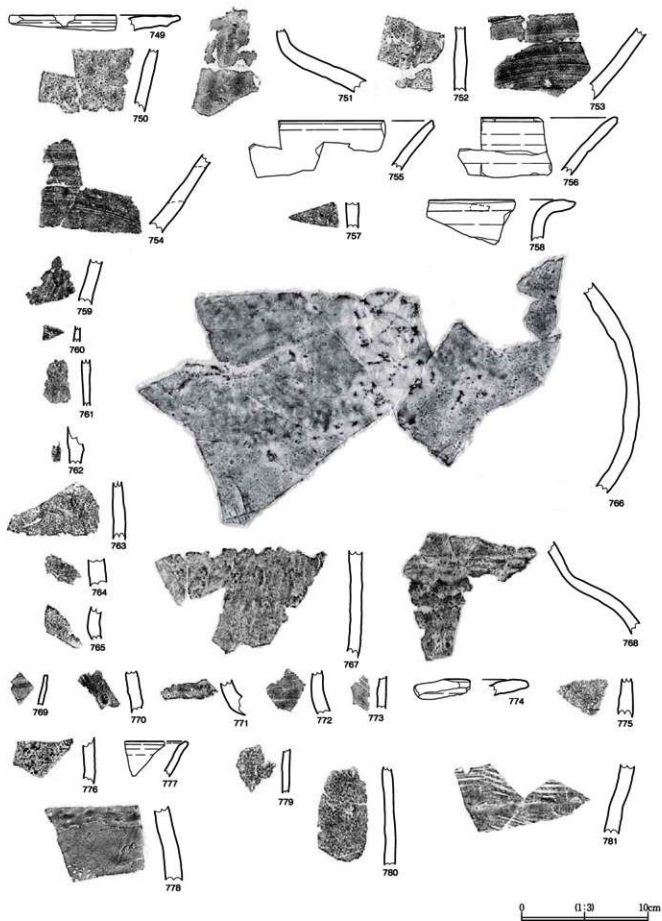


图27 21SD1 出土土器類実測图15

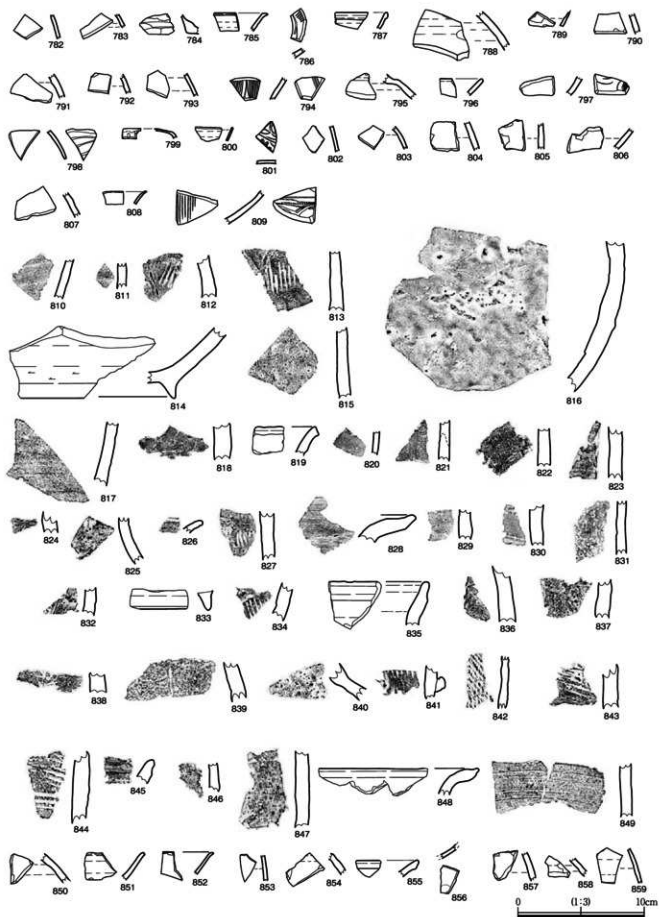


图28 21SD1 出土土器類実測图16

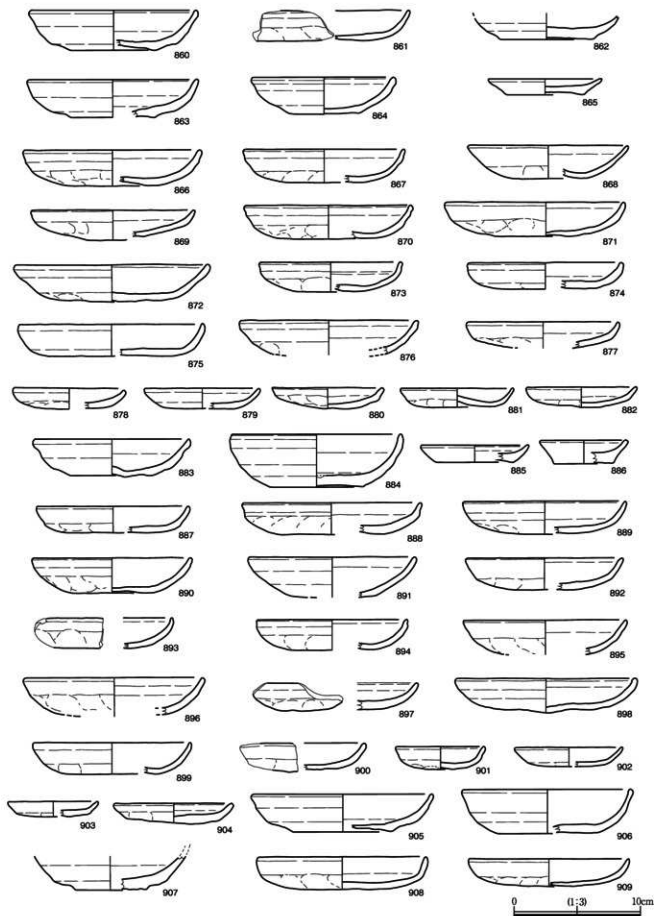


图29 21SD2 出土土器類実測図 1

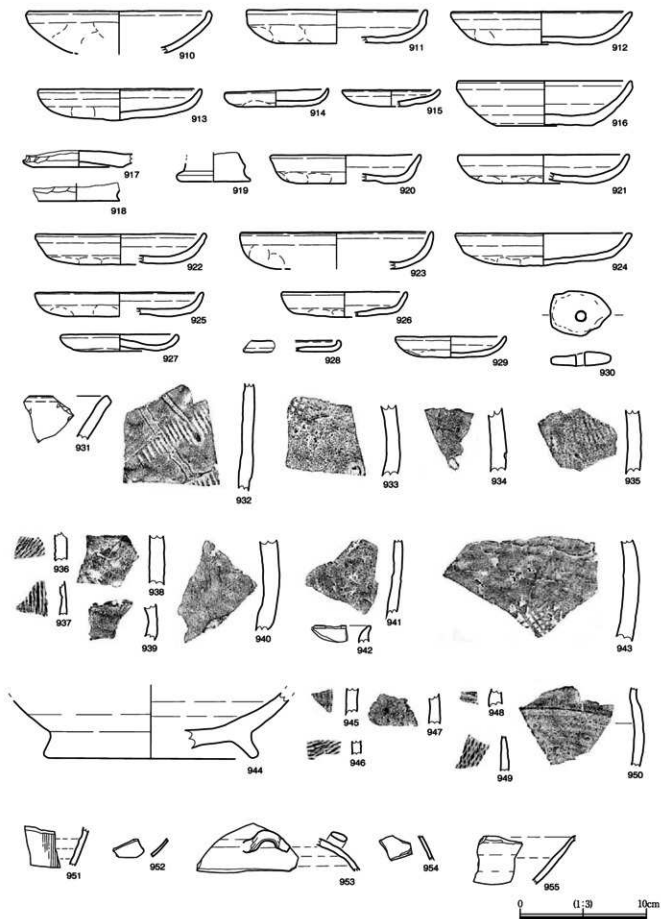


图30 21SD2 出土土器類実測图 2

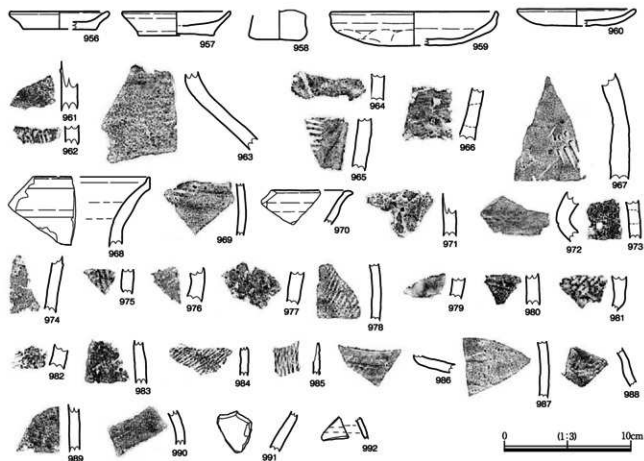


図31 遺構外出土器類実測図

その他遺構外出土遺物

かわらけ5点、国産陶器類30点、輸入陶磁器類2点を図示した(956~992)。958は柱状高台である。961~990は国産陶器類である。壳類の体部片が多く、押印も複数みられる。また須恵器および須恵器系陶器も含む。991、992は輸入陶磁器類である。

【瓦】

瓦は図示できる資料は少ないが、瓦当面が残る軒丸瓦2点、軒平瓦3点と丸瓦、平瓦を9点図示した。1005は軒丸瓦片で剣頭文の一部が確認できる。1006は軒丸瓦片で巴文の端部が確認できる。珠文はみられず、三巴文軒丸瓦と考えられる。1007は軒平瓦片で剣頭文が、1008は軒平瓦片で剣頭文と三巴文の一部が、1009は軒平瓦片で三巴文が確認できる。いずれもこれまでの柳之御所遺跡の調査で確認されてきたものに含まれる既出の瓦当文様である。今回の調査範囲では瓦片が2856.4gと定量出土したが、いずれも細片である。平瓦片および丸瓦片が多く、これらは表14に掲載した。

【木製品】

木製品はいずれも掘跡からの出土だが、出土量は少ない。加工痕跡のある資料を中心に12点を図示したが、機能がわかる資料は少ない。21・23・69・70次調査では多くの木製品が得られており、出土位置は大きくは異ならないが、差異がみられる。

993は21SD2の最下層から出土した資料で木槌とみられる。全体の長さが約72cmと大型の資料で、持ち手の部分は径が5cmほどと全体の大きさに比して細かい印象を受ける。この部分は縦方向に粗いケズリが行われる。杵の部分は径15cmほど円形で大型の製品である。全体は粗いケズリにより整形されるが、中央付近は使用時のものとみられる摩耗が著しい。用途は判然としないが、使用時は持ち手部分を持って、この中央付近を使用したとみられる。タタキなどの用途での使用には持ち手の細さからは不適とみられ、中央付近を用いて小さいタタキや転がしてならすなどの用途も想定できる。なお、頂部は不定方向のランダムなケズリが行われ、摩滅等は確認できないことから、この部位を使用したものではないとみられる。13世紀前後でやや時期が後出する資料だが仙台市中野高柳遺跡でも類似した横槌が出土している（宮城県教育委員会2006『中野高柳遺跡Ⅳ』宮城県文化財調査報告書第204集）。995は樹皮で、町内でも志摩山遺跡などで出土している。木製品の加工が想起されるが、その他の資料では加工品や未製品等は少ない。この他の資料は加工痕跡はあるものの、製品としての用途は不明である。今回の出土範囲では木製品の出土は少なく、これまでの調査で多くの木製品が得られてきた21SD1でも、木製品が出土する範囲が限定されることがわかる。

【その他の遺物】

今回の調査範囲では鉄製品などの出土は少なく、特記すべき遺物は多くないが、壁土が一定量出土している点は注目できる。小破片が多く図示できないが、重量は4225.2gと量は比較的まとまり、特に人為的な堆積土層の特徴をもつ21SD1のC層から多く出土している。壁土は周囲の遺物跡との関係も想定でき、遺跡南端部の様相を検討する上でも注目できる。

(櫻井)

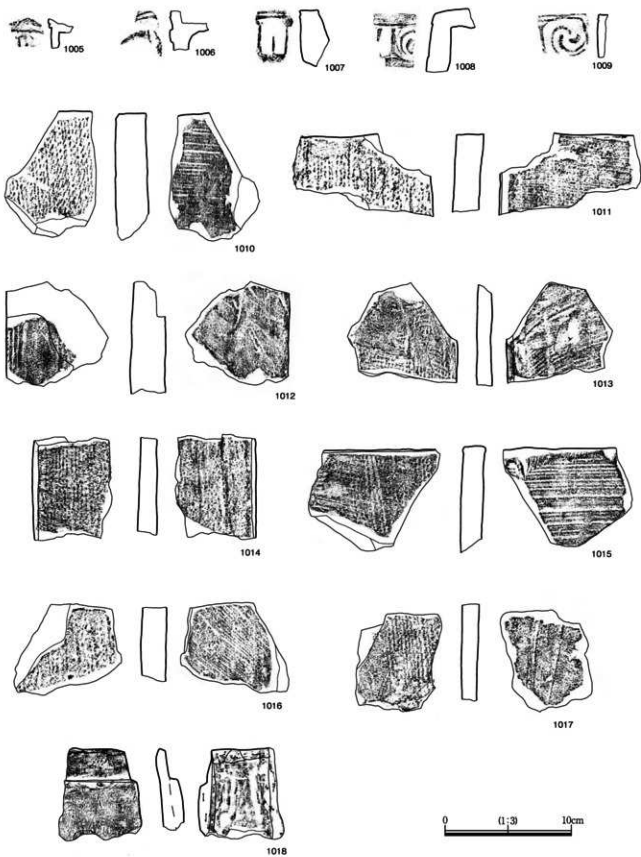


图32 瓦類実測図

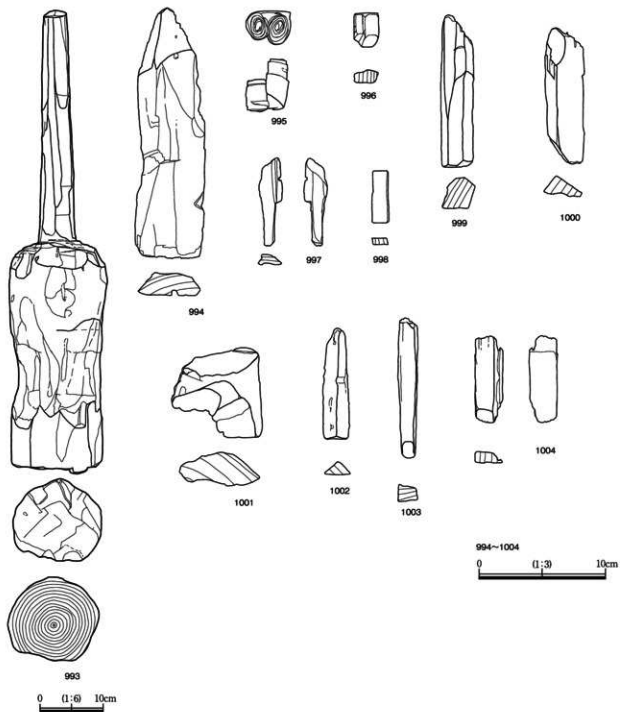


图33 木製品実測図

Ⅲ 自然科学分析

岩手県平泉町柳之御所遺跡の自然科学分析調査および木製品の保存処理報告

パリオ・サーヴェイ株式会社

はじめに

岩手県平泉町に所在する柳之御所遺跡では、これまでの発掘調査により12世紀後半を中心とする遺構・遺物が多く確認されており、奥州藤原氏に関連する遺跡として注目されている。本遺跡で実施された第76次調査では、12世紀代のもと考えられている堀跡、柱穴、溝跡が検出されている。本分析調査では、堀跡の年代に関する資料を得るために放射性炭素年代測定を、当時の植生に関する資料を得るために微細物洗い出しによる植物遺体の同定を実施する。また、75次調査で堀跡から出土した木製の下駄歯2点について、木製品の材料に関する情報を得るために樹種同定を実施する。

I 柳之御所跡第76次調査

1. 放射性炭素年代測定

(1) 試料

試料は、21SD1の人為堆積層から採取された炭化材5試料および21SD2の人為堆積層から採取された炭化材1試料の計6試料である。SD1は遺跡の中心を囲うとされる堀跡の内、内側に位置するもので、人為堆積層とされる層は覆土中に厚さ2m、幅2m程度の範囲で確認された。この層の上部から下部にかけて、21SD1(82-105)C1、SD1(82-105)C3、SD1(82-105.106)C5、SD1(82-105.106)C6、SD1(82-105.106)C8とされる炭化材5試料が採取されている。SD1(82-105)C1は、5片ある中から柵目板状の破片1片を選択した。樹皮は残っておらず、残存する中での最外年輪を含む5年分を測定試料とした。SD1(82-105)C3は、分割状の炭化材2片のうち、大きい1片を選択した。樹皮は残っておらず、残存する中での最外年輪を含む10年分を測定試料とした。SD1(82-105.106)C5は、7片ある中から最も大きい柵目状の破片を選択した。樹皮は残っておらず、残存する中での最外年輪を含む5年分を測定試料とした。SD1(82-105.106)C6は、5片ある中から状態の良い分割状の破片1片を選択した。樹皮は残っておらず、残存する中での最外年輪を含む10年分を測定試料とした。SD1(82-105.106)C8は、14片の破片の中から最も大きいミカン割状の破片を選択した。樹皮は残っておらず、残存する中での最外年輪を含む5年分を測定試料とした。

21SD2は遺跡の中心を囲うとされる堀跡の内、外側に位置するものであり、発掘調査所見では21SD1より古いとされる。人為堆積層とされる層は覆土上位に堆積し、層中から炭化材1試料(21SD2 11層)が採取されている。21SD2 11層には炭化材2片が確認され、そのうちミカン割状の1片を選択した。樹皮は残っておらず、残存する中での最外年輪を含む10年分を測定試料とした。

(2) 分析方法

測定試料に土壌や根等の目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、これらをピンセット、超音波洗浄等により物理的に除去する。その後、HClによる炭酸塩等酸可溶成分の除去、NaOHによる腐植酸等アルカリ可溶成分の除去、HClによりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分の除去を行う(酸・アルカリ・酸処理)。

試料をバイコール管に入れ、1gの酸化銅(Ⅱ)と銀箔(砒化物を除去するため)を加えて、管内

を真空にして封じきり、500℃（30分）850℃（2時間）で加熱する。液体窒素と液体窒素+エタノールの温度差を利用し、真空ラインにてCO₂を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製したCO₂と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを650℃で10時間以上加熱し、グラファイトを生成する。化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径1mmの孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。

測定機器は、3MV小型タンデム加速器をベースとした14C-AMS専用装置（NEC Pelletron 9SDH-2）を使用する。AMS測定時に、標準試料である米国国立標準局（NIST）から提供されるシウ酸（IHOX-II）とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に13C/12Cの測定も行うため、この値を用いて $\delta^{13}C$ を算出する。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma；68%）に相当する年代である。暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV7.1.0.（Copyright 1986-2014 M Stuiver and PJ Reimer）を用い、誤差として標準偏差（One Sigma）を用いる。

暦年較正とは、大気中の14C濃度が一定で半減期が5568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の14C濃度の変動、及び半減期の違い（14Cの半減期5,730±40年）を較正することである。暦年較正は、CALIB 7.1.0.のマニュアルに従い、1年単位まで表された同位体効果の補正を行った年代値および北半球の大気中炭素に由来する較正曲線を用いる。

暦年較正結果は $\sigma \cdot 2\sigma$ （ σ は統計的に真の値が68.2%の確率で存在する範囲、 2σ は真の値が95.4%の確率で存在する範囲）の値を示す。また、表中の相対比は、 $\sigma \cdot 2\sigma$ の範囲をそれぞれ1とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。なお、較正された暦年代は、将来的に暦年較正曲線等の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、1年単位で表された値を記す。

(3) 結果

各炭化材の同位体効果による補正を行った測定結果（補正年代）は、SD1(82-105)C1が $920 \pm 30BP$ 、SD1(82-105)C3が $970 \pm 20BP$ 、SD1(82-105.106)C5が $1,020 \pm 20BP$ 、SD1(82-105,106)C6が $970 \pm 20BP$ 、SD1(82-105.106)C8が $960 \pm 20BP$ 、SD2の11層が $960 \pm 30BP$ である（表6）。

また、これらの補正年代に基づく暦年較正結果（ 1σ ）は、SD1(82-105)C1がcalAD1,045-1,155、SD1(82-105)C3がcalAD1,022-1,147、SD1(82-105,106)C5がcalAD996-1,023、SD1(82-105,106)C6がcalAD1,024-1,147、SD1(82-105,106)C8がcalAD1,027-1,148、SD2の11層が1,025-1,148である。

なお、測定に用いた炭化材は、測定前に実体顕微鏡観察で可能な範囲で樹種同定を実施し、結果を表6に記した。全て落葉広葉樹であり、イヌシデ節、ブナ属、コナラ節、モクレン属が認められた。人為①下-2については、散孔材の道管配列を有する広葉樹材であるが、実体顕微鏡観察では種類の同定が難しく、種類不明である。

(4) 考察

SD1の各層から出土した炭化材の年代測定結果は、 $920 \pm 30BP \sim 1,020 \pm 20BP$ の間に入っており、C1とその他での有意な年代差は認められない。暦年較正結果をみると、C1が他より若干古いものの、その他は10～12世紀の範囲を示しており、12世紀代の遺構と考えられていることも調和的である。年代測定結果から、C1とその他も短い時間に堆積した可能性が考えられる。なお、やや古い値が得られたC5も樹齢による測定誤差の範囲内であり、ほぼ同時期の炭化材と考えることができる。

SD2の11層から採取された炭化材は、補正年代が $960 \pm 20BP$ 、暦年較正結果がcalAD1,025-1,148であり、SD1と近似した年代値を示す。

表6 柳之御遺跡の放射性炭素年代測定結果

遺跡 層位	材質 種類	測定年代 BP	$\delta^{13}C$ (‰)	暦年代 (暦年数±1σ) BP	暦年校正前値				Code No.
					測定	cal BC/AD	cal BP	相対年	
SD1 (82-105) C1	炭化材 コナラ節	930±30	-25.16 ± 0.56	920±30 (924±25)	#	cal AD 1,045 - cal AD 1,096 est AD 1,120 - est AD 1,142 cal AD 1,146 - cal AD 1,155	cal HP 905 - 854 cal BP 830 - 808 est BP 804 - 793	0.613 0.279 0.107	1AAA- 142510
					2#	cal AD 1,032 - cal AD 1,163	cal HP 918 - 787	1,000	
SD1 (82-105) C3	炭化材 モクレン属	970±20	-21.97 ± 0.69	970±20 (969±24)	#	cal AD 1,022 - cal AD 1,046 cal AD 1,092 - cal AD 1,120 est AD 1,140 - cal AD 1,147	cal BP 928 - 904 cal BP 838 - 830 cal BP 810 - 803	0.463 0.415 0.092	1AAA 142511
					2#	cal AD 1,017 - cal AD 1,056 cal AD 1,076 - cal AD 1,151	cal BP 933 - 894 cal HP 874 - 796	0.400 0.400	
SD1 (82-105,106) C5	炭化材 イヌナギ節	1,000±20	-23.66 ± 0.35	1,020±20 (1,021±22)	#	cal AD 996 - cal AD 1,023	cal BP 954 - 927	1,000	1AAA- 142512
					2#	cal AD 985 - cal AD 1,032	cal BP 965 - 918	1,000	
SD1 (82-105,106) C6	炭化材 栗葉節	910±20	-21.80 ± 0.51	970±30 (963±23)	#	cal AD 1,024 - cal AD 1,046 cal AD 1,092 - cal AD 1,121 est AD 1,140 - cal AD 1,147	cal BP 926 - 901 cal BP 838 - 829 est BP 810 - 803	0.419 0.470 0.111	1AAA- 142513
					2#	cal AD 1,019 - cal AD 1,056 cal AD 1,076 - cal AD 1,154	cal HP 931 - 891 cal BP 874 - 796	0.271 0.629	
SD1 (82-105,106) C8	炭化材 イヌナギ節	970±20	-25.29 ± 0.37	960±20 (937±23)	#	cal AD 1,027 - cal AD 1,047 cal AD 1,088 - cal AD 1,122 est AD 1,128 - cal AD 1,148	cal BP 923 - 903 cal HP 862 - 828 est BP 812 - 802	0.335 0.525 0.140	1AAA- 142514
					2#	cal AD 1,022 - cal AD 1,059 cal AD 1,067 - cal AD 1,073 cal AD 1,075 - cal AD 1,154	cal BP 928 - 891 cal BP 883 - 877 cal BP 875 - 796	0.314 0.414 0.672	
SD2 11層	炭化材 ブナ材	950±20	-24.48 ± 0.49	960±20 (960±21)	#	cal AD 1,025 - cal AD 1,047 est AD 1,089 - cal AD 1,122 cal AD 1,139 - cal AD 1,148	cal HP 925 - 903 cal BP 861 - 838 cal BP 811 - 802	0.333 0.500 0.138	1AAA- 142515
					2#	cal AD 1,021 - cal AD 1,056 cal AD 1,068 - cal AD 1,072 cal AD 1,070 - cal AD 1,151	cal BP 929 - 892 cal BP 882 - 878 cal BP 875 - 796	0.333 0.908 0.629	

1) 試料はいずれも前処理として酸処理、アルカリ処理、酸処理(AAA処理)を実施している。

2) 暦年代値の算出には、Libbyの半減期5688年を使用した。

3) BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。

4) 付記した誤差は、測定誤差σ (測定値の68%が入る範囲) を年代値に換算した値。

5) 暦年の算出には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV7.1.0 (Copyright 1986-2014 M. Stuiver and P.J. Reimer) を使用した。

6) 暦年の算出には、暦年代に(暦年数±1σ)を乗じて示した。1σ値を定める前の値を使用している。

7) 暦年代は、1σ日を含めるのが原則だが、暦年校正曲線や暦年校正プログラムが改正された場合の対応値と比較が行いやすいように、暦年校正暦年代は1σ範囲を丸めている。

8) 統計的に真の値が入る確率はσは68.2%、2σは95.4%である。

9) 相対年は、σ、2σのそれぞれを1とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対年として示したものである。

2. 微細物分析

(1) 試料

試料は、遺跡の中心を囲うとされる内側の堀跡である21SD1の底面付近から採取された2点の試料(SD1葉4枚目サンプル14.10.28、SD1葉4枚目サンプル14.10.30)である。

(2) 分析方法

試料200ccを水に浸して双眼実体顕微鏡下で観察し、ピンセットと面糊筆を用いて、同定が可能な葉や種実などの大型植物遺体を抽出する。抽出後の試料を水に径径0.5mmの篩を通して水洗し、篩内の試料を粒径別に双眼実体顕微鏡下で観察し、ピンセットを用いて、同定が可能な種実遺体を抽出する。

大型植物遺体の同定は、現生標本および古山・石川(1992)、石川(1994)、中山ほか(2000)、濱野(2005)、鈴木ほか(2012)等を参考に実施する。同定結果は、一覧表と図版で示す。抽出同定対象外の分析残渣は、植物片主体と砂礫主体とに大分類し、一覧表の下部に示す。

分析後は、大型植物遺体を分類群別に容器に入れ、約70%のエタノール溶液で液浸保存する。なお、1試料(14.10.30)より得られた枝の一部を切片作製観察対象としている。

(3) 結果

結果を表7に示す。また、大型植物遺体各分類群の写真を図34に、計測値等を表7に併記して同定根拠とする。2試料400ccより、草本6分類群(オモダカ科、イネ、サナエタア近似種、アカザ属、ヒ

ユ属、キュウリグサ属)245個以上の種実遺体が同定された。以下に試料別出土状況を述べる。

1) 14.10.28

試料200cc(279g)より、栽培種のイネの炭化した穎が1個、穎の破片が1個と、草本のサナエタデ近似種の果実が4個、ヒユ属の種子が16個、キュウリグサ属の果実が1個確認された。

分析残渣は、葉や芽、木材、炭化材等の植物片が分析試料200ccとほぼ同量の他に、砂礫類が約2cc確認された。径が細く枝と考えられる木材が多く(図34)、一部の切片作製観察の結果、ヤナギ属に同定された。樹種同定の詳細は別項に述べる。

2) 14.10.30

試料200cc(224g)より、栽培種のイネの穎の破片が1個と、草本のオモダカ科の種子が1個、多量のアカザ属の種子(200個上限)とヒユ属の種子(20個上限)が確認された。アカザ属は数千個、ヒユ属は数百個程度が確認されるため、アカザ属200個を上限とした抽出同定にとどめている。分析残渣は、及び葉類の葉や芽、木材、炭化材等の植物片が分析試料200ccとほぼ同量の他に、砂礫類が約0.5cc確認された。

多量確認された双子葉類の葉は、洋紙質で脆く、水洗により破壊されるため、一部を水洗前に拾い上げた(図34)。葉遺体は、おそらく同一種に由来すると考えられ、落葉広葉樹の可能性が高い。葉裏が灰白色を呈し、側脈間の連絡が確認されたが、同定根拠となる頂部や基部、葉縁が確認されなかった。また、葉裏をマイクロスコop(KEYENCE,VHX-1000)で観察した結果、毛や腺点は確認されなかった(図34)。

(4) 考 察

微細物分析の結果、堀跡SD1から採取された2試料では、栽培種のイネの穎が確認された。イネは、当時利用された植物食糧と示唆される。また、一部のイネは穎内に胚乳が入る状態で炭化していることから、食用前の初がついた状態で火を受けたと考えられる。

栽培種を除いた種実遺体群は、全て草本類から成り、抽水～湿生植物のオモダカ科と、乾いた場所にも生育可能な中生草本のサナエタデ近似種、アカザ属、ヒユ属、キュウリグサ属が確認された。当時の調査区周辺の明るく開けた草地環境に生育していたと考えられ、抽水植物を含むオモダカ科が生育可能な水深1m以浅の水湿地の存在も推定される。なお、「14.10.30」の試料からは、種子生産量が多いアカザ属やヒユ属が多量に、採取日で組成が異なっていた。試料採取地点近くにアカザ属やヒ

表7 柳之御所遺跡の微細物分析・種実同定結果

分類名	部位・状態	YG76 SD1 葉4枚目サンプル		備考	
		14.10.28	14.10.30		
		種実遺体			
オモダカ科	種子	定形	-	1	
イネ	炭化穎	定形	1	1	長さ6.91mm、幅2.62mm、厚さ2.39mm
	穎	破片	1	1	
サナエタデ近似種	果実	定形	1	-	
		破片	3	-	
アカザ属	種子	定形	-	200+	多量(数千個程度)、200個上限
ヒユ属	種子	定形	16	201	多量(数百個程度)
キュウリグサ属	果実	定形	1	-	
分析残渣(同定対象外)					
双子葉類	葉	破片	-	10+	葉裏灰白色、同一種の可能性
植物片主体	葉片・芽・木材・炭化材等	>4mm	150	80	浮積(cc)、10.28: 枝主体、一部切片作製観察対象
		4-2mm	30	60	浮積(cc)
		2-1mm	10	40	浮積(cc)
		1-0.5mm	8	20	浮積(cc)
砂礫主体			2	2	容積(cc)
分析量			200	200	容積(cc)
			279	224	湿重(g)

ユ属が生育していた可能性が高いが、多産の要因に関しては、発掘調査所見とともに検討することが照まれる。

3. 樹種同定

(1) 試料

試料は、75次調査の堀跡72SD1の1トレンチ5層砂から出土した木製品(RW3)と、堀跡SD1の中層-下から出土した木製品(RW6)の2点である。また、前述の微細物分析において21SD1葉4枚目サンプル14.10.28から抽出された枝材についても併せて同定を実施する。

(2) 分析方法

木取り・形状を観察した上で、剃刀を用いて木口(横断面)・柀目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の徒手切片を直接採取する。切片は、ガム・クロラール(抱水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液)で封入し、プレバラートとする。プレバラートは、生物顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類(分類群)を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、高地・伊東(1982)やWheeler他(1998)を参考にする。また、日本産木材の組織配列については、林(1991)や伊東(1995,1996,1997,1998,1999)を参考にする。

(3) 結果

樹種同定結果を表8に示す。木製品は、いずれも広葉樹で、ヤナギ属とクリに同定された。各分類群の解剖学的特徴等を記す。

・ヤナギ属 (Salix) ヤナギ科

散孔材で、道管は単独または2-3個が複合して散在し、年輪界付近で径を減少させる。道管は、単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、単列、1-15細胞高。

・クリ (Castanea crenata Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

環孔材で、孔圈部は3-4列、孔圈外で急激に径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15細胞高。

(4) 考察

2点の木製品は、いずれも木口が広い板状を呈しており、その形状から速歯下駄の歯と考えられる。RW3は、2片に割れており、歯の中央付近に樹芯があり、破損状況から台表が板目(木表)になる木取りと推定される。RW6は接地面が破損しているが、状況から台表が板目(木裏)になる木取りと推定される。これらの速歯下駄は、ヤナギ属とクリに同定された。ヤナギ属は、河畔等に生育する落葉低木~高木で、木材は軽軟で強度と保存性は低い。クリは二次林等に生育する落葉高木で、木材は重硬で強度と耐朽性が高い。

柳之御所遺跡では、これまでも多くの下駄について樹種同定を実施している(伊東・山田,2012)。その結果をみると、ケヤキの利用が多く、他に針葉樹のアスナロ、スギ、広葉樹のモクレン属、クリ、トチノキ、キハダが認められる。

表8 柳之御所遺跡の樹種同定結果

遺物No.	遺構	位置	層位	器種	木取り	種類
75RW3	72SD1(堀跡)	1トレンチ	5層砂	速歯下駄	台が板目	クリ
75RW6	72SD1(堀跡)	2-3グリット間	中層-下	速歯下駄	台が板目	ヤナギ属
	SD1(堀跡)	葉4枚目		小枝	芯持丸木	ヤナギ属

今回確認された樹種の内、クリは既往の調査でも確認されており強度や耐朽性が高い。ヤナギ属については、これまでの調査では確認されていない。

II 柳之御所遺跡第74次調査出土木製品の樹種同定

1. 試料

試料は、74次調査で出土した処理No 1～8、13の計9点である。試料の詳細は表9に示す。

2. 分析方法

資料の木取りを観察した上で、剃刀を用いて木口(横断面)・柀日(放射断面)・板日(接線断面)の3断面の徒手切片を直接採取する。切片をガム・クロラール(抱水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液)で封入し、プレパラートとする。プレパラートは、生物顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類(分類群)を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東(1982)やWheeler他(1998)を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林(1991)や伊東(1995,1996,1997,1998,1999)を参考にする。

3. 結果

樹種同定結果を表9に示す。木製品は、広葉樹2分類群(クリ・ケヤキ)に同定された。各分類群の解剖学的特徴等を記す。

・クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

環孔材で、孔圏部は3-4列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、隙孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15細胞高。

・ケヤキ (*Zelkova serrata* (Thunb.) Makino) ニレ科ケヤキ属

環孔材で、孔圏部は1-2列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、塊状に複合して接線・斜方向に紋様状あるいは帯状に配列し、年輪界に向かつて径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、隙孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん壁厚が認められる。放射組織は異性、1-6細胞幅、1-50細胞高。放射組織の上下縁辺部を中心に結晶細胞が認められる。

表9 樹種同定結果

処理No.	登録番号	器種	遺構名	層位	木取り	種類	備考
1	74RW7	碗底?	72SD1	23層中-下位	横木地径目取	ケヤキ	
2	74RW3	漆碗	72SD1	18-19層・23-29層西端No.81	横木地径目取	ケヤキ	
3	74RW10	漆碗	72SD1	29-30層	横木地径目取	ケヤキ	
4	74RW4	漆碗	72SD1	29-30層	横木地径目取	ケヤキ	
5	74RW11	漆碗	72SD1	32層	横木地径目取	ケヤキ	
6	74RW5	漆碗	72SD1	32層	横木地径目取	ケヤキ	
7	74RW80	漆塗り下駄歯	72SD1	29-30層	木口板状	ケヤキ	迷南下駄(白表が板目)
8	74RW93	漆塗り下駄歯	72SD1	29-30層	木口板状	クリ	迷南下駄(白表が板目)
13	74RW9	漆碗	72SD2	18層	横木地径目取	ケヤキ	

4. 考 察

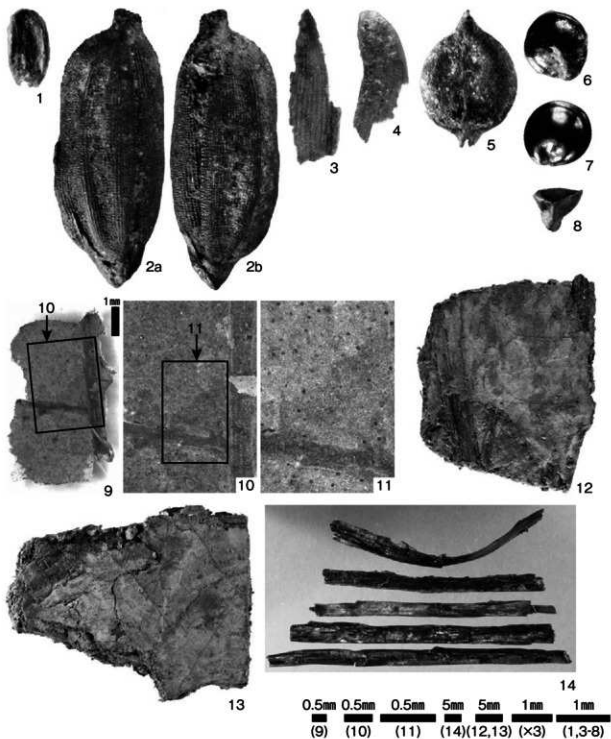
漆器および下駄には、ケヤキを中心にクリが混じる組成が認められた。クリは二次林等に生育する落葉高木であり、木材は重硬で強度と耐久性が高い。ケヤキは平地から山地の河川沿い等に生育する落葉高木であり、木材は重硬で強度・耐久性が高い。

器種別にみると、漆碗と椀底？はいずれも横木地目取りであり、全てケヤキに同定されたことから、選択的な木材の利用が推定される。伊東・山田(2012)のデータベースによれば、柳の御所道跡から出土した漆碗はそのほとんどがケヤキである。また、近い時期の資料として平泉町志羅山遺跡等で分析が行われているが、同じくケヤキが利用される。東北地方では古墳時代から鎌倉時代にかけて、挽物容器にケヤキが利用される傾向が指摘されているが(荒井,2012)、本道跡でも同様の傾向が認められる。

漆塗り下駄歯はいずれも木口面が広い板状を呈しており、台側に被損が認められることから連歯下駄の歯と考えられる。この場合、下駄の台面が板になる木取りが想定される。下駄にはクリとケヤキが認められ、強度や耐久性の高い木材を利用したことが推定される。柳の御所道跡のこれまでの調査では、連歯下駄にはケヤキの利用が多く、他に針葉樹のアスナロ、スギ、広葉樹のクリ、モクレン属が少数混じるとされる(伊東・山田,2012)。

引用文献

- 荒井 格,2012,東北 一青森県・秋田県・岩手県・山形県・宮城県・福島県一,伊東隆夫・山田昌久(編)「木の考古学 出土木製品用材データベース」,海青社,147-156.
- 浪野周季,2005,原寸図鑑雲っぽでおぼえる樹木,柏書房,334p.
- 林 昭三,1991,日本産木材 顕微鏡写真集,京都大学木質科学研究所.
- 石川茂雄,1994,原色日本植物種子写真図鑑,石川茂雄図鑑刊行委員会,328p.
- 伊東隆夫,1995,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ,木材研究・資料,31,京都大学木質科学研究所,81-181.
- 伊東隆夫,1996,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ,木材研究・資料,32,京都大学木質科学研究所,66-176.
- 伊東隆夫,1997,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ,木材研究・資料,33,京都大学木質科学研究所,83-201.
- 伊東隆夫,1998,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ,木材研究・資料,34,京都大学木質科学研究所,30-166.
- 伊東隆夫,1999,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ,木材研究・資料,35,京都大学木質科学研究所,47-216.
- 伊東隆夫・山田昌久(編),2012,木の考古学 出土木製品用材データベース,海青社,449p.
- 中山至大・井之口希秀・南谷忠志,2000,日本植物種子図鑑(2010年改訂版),東北大学出版会,678p.
- 島地 謙・伊東隆夫,1982,図説木材組織,地球社,176p.
- 鈴木朋夫・高橋 冬・安延尚文,2012,ネイチャーウォッチングガイドブック 草木の種子と果実-形態や大きさが一目でわかる植物の種とと果実632種-,誠文堂新光社,272p.
- Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E. (編),1998,広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト,伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩 (日本語版監修),海青社,122p. [Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E. (1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].
- 古山 寛・石川美枝子,1992,原寸イラストによる落葉図鑑,文 総合出版,372p.



- | | |
|---------------------|----------------------------|
| 1. オモダカ科 種子(SD1) | 2. イネ 炭化穎(SD1) |
| 3. イネ 穎(SD1) | 4. イネ 穎(SD1) |
| 5. サナエタデ近似種 果実(SD1) | 6. アカザ属 種子(SD1) |
| 7. ヒユ属 種子(SD1) | 8. キュウリグサ属 果実(SD1) |
| 9. 双子葉類 葉片(SD1) | 10. 双子葉類 葉片(SD1) |
| 11. 双子葉類 葉片(SD1) | 12. 双子葉類 葉片(SD1) |
| 13. 双子葉類 葉片(SD1) | 14. 不明 枝(最長:切片作製観察対象)(SD1) |

図34 柳之御所遺跡の大型植物遺体

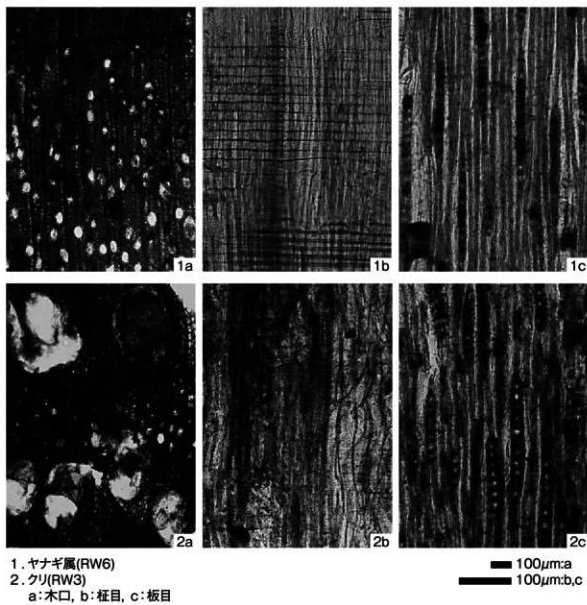
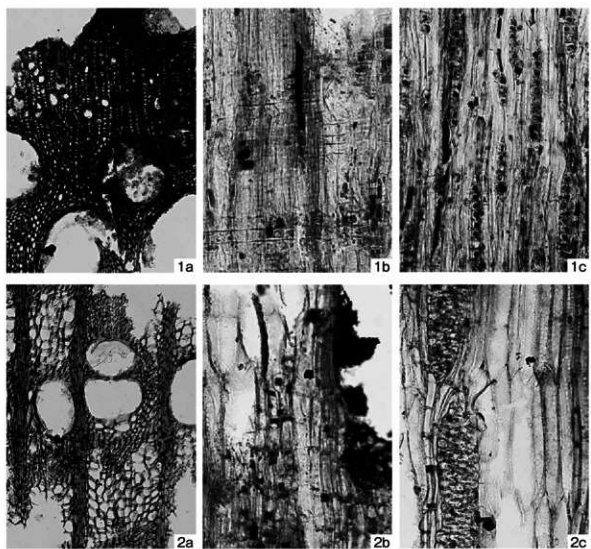


図35 柳之御所遺跡の木材



1. クリ(処理No.8;登録No.74RW93)
 2. ケヤキ(処理No.4;登録No.74RW4)
 a:木口, b:柁目, c:板目

100μm:a
 100μm:b,c

図36 木 材

IV 総 括

今年度の調査成果についてまとめ、今後の調査の課題を述べる。

1 堀跡の調査成果

(1) 堀跡と関連する遺構の概要

今回の調査範囲では2条の堀跡を調査した。まず堀跡の調査所見とそこから位置等の内容をまとめる。内側の堀跡(21SD1)は幅11mほど、深さが今回の調査の検出面から2.5mで確認している。土層は自然堆積である。遺物の様相は、下層のD層とした土層からの出土資料でも手づくねかわらけの出土が多く、ロクロかわらけも含むもの出土量が少ない。手づくねかわらけは大皿でも口径が13cmほどの小型のものから少量だが15cmと大型のものがあり、全体の傾向としては12世紀後半の特徴を示す。自然堆積土層のため、時間幅のある資料が含まれる可能性があるが、12世紀後半のうちでも後出の様相をもつ資料が多い。21SD1の堆積土ではC層とした人為的な特徴をもつ土層が目目できる。今回の調査範囲では21SD1にのみ確認できるが、南方向から堆積したことが斜行する土層の堆積状況から確認でき、21SD1と21SD2の間の平坦な範囲から崩落した土層と考えられる。これは、21SD2で確認できる人為堆積土層とは層の様相も異なり、遺物の状況や堆積のあり方からも一連の堆積による同一の性質とみなす根拠は少ない。本来の位置においては一連の構築の可能性は残るが、現状では21SD2は現地性のもの、21SD1は崩落したものと同層がある。遺物の特徴からは12世紀後半の資料に位置づけることができ、古相の特徴を顕著に示す資料は少ない。

外側の堀跡(21SD2)は幅6mほど、深さは今回の調査の検出面から1.5mで確認している。堀跡の機能時に近い下層の自然堆積土層からは土器類の出土が少なく、機能時や開削時点を特定できる資料は得られていない。ただし、土器類の少なさは、遺物量の多い12世紀後半以前の堆積と構築の可能性を窺わせる。この点は他地点と合わせて位置づける必要がある。人為堆積および上層の自然堆積のうち下層では12世紀後半の資料が出土しており、その中での特徴をみると漸移的なものだが人為堆積土層ではやや古相の特徴をもつ資料を含み、自然堆積土層では後出の特徴が顕著である。

これらの特徴はこれまで確認されてきた各遺構の特徴と基本的に同様の内容である。今回の調査範囲では2条の堀跡の構築時期について、遺構の性格は不明だが76SD3を介して、21SD2から21SD1の順に構築されたと判断できる。この両者の構築の時期についての前後関係は69次調査で確認した前後関係を、異なる遺構から改めて補強できる内容である。ただし、この時期の実年代上の位置づけや埋没の時点での様相については必ずしも明確ではない。21SD1については下層の土器類が12世紀後半の特徴をもち、堆積層の様相から下層は遺跡機能時に堆積が始まり、その年代は12世紀後半代に位置づけることができる。その中で細別は必ずしも明確ではないが、後半代の中でも後出の特徴をもつ資料が多い。次に、21SD2についても人為堆積で埋め戻された時期があり、その時期を基本的な廃絶とすれば12世紀後半代にあたる。12世紀後半の中で古相の様相は顕著ではないが、後半の中でも後出の資料は多くない。遺構の切り合い関係を勘案すると、21SD1の開削時期に近く、やや古い段階と想定できる。ただし、21SD2についても、上層部分は自然堆積土層が堆積しており、人為堆積を削り自然堆積土が堆積したか、深みとしての形状を保ち堀跡が維持されていた可能性が想定できる。21SD1が構築されて以降の21SD2については、それ以前のような大きな改修は少ないが、地点ごとの差も含めて検討する必要がある。

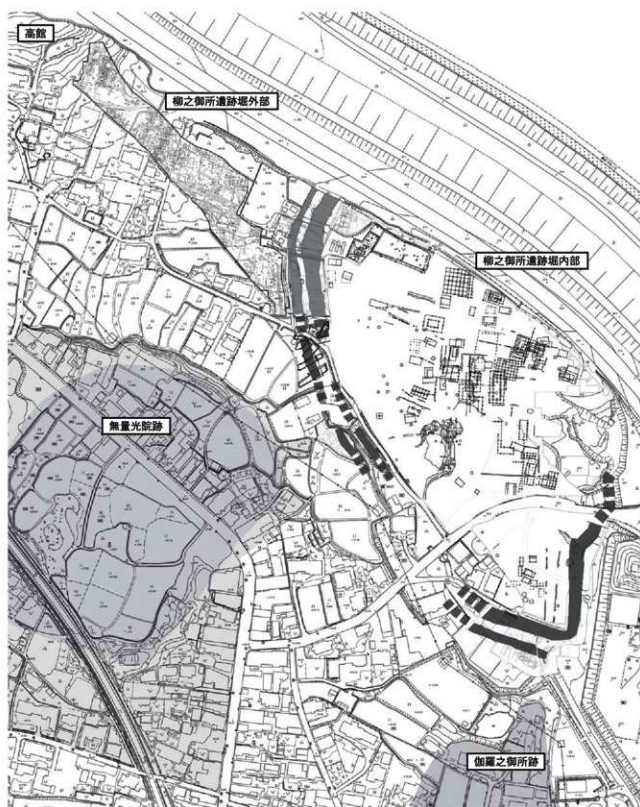


図37 柳之御所遺跡の堀跡の位置

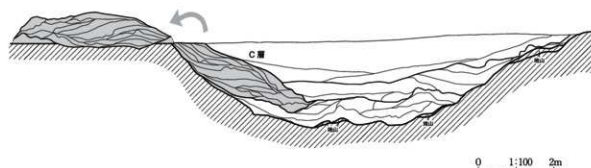


図38 21SD1-C層模式図

(2) 今回の調査区と周囲の様相

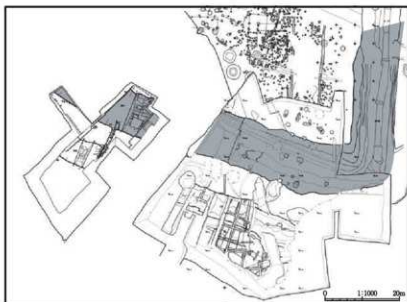
今回の調査範囲は21次、69次、70次に近接しており、それらと合わせて追跡内を区画する堀跡の位置が明確になってきている。今回の調査範囲では内側の堀跡の走向方向がやや外側の猫間ヶ淵跡方向に広がって延びることが確認できている。また、無量光院跡と近接する位置で確認している堀跡との接続は今後これらの中間地点を検討する必要がある。

21・69・70次調査では伽羅之御所跡と接続する位置を調査している(図39)。ここでは21SD1(内側の堀跡)、21SD2(外側の堀跡)、21SX4(21SD2を切るように上部に堆積し、21SD1に壊されて確認できる溝状の人為堆積土層)の3つの遺構を確認している。この他にも21SD2の外側に溝跡等を確認しているが、今回の調査範囲で確認できた遺構と関連が想定できるものはこの3つである。これらは平面的な位置関係や土層の様相も類似しており、同一の遺構が連続したことがわかる。21SD1および21SD2については遺跡全体を両んで外側、内側の堀跡が陸認されていることから、改めて述べるまでもないが連続して位置が確認できる。ここで注目できるのは21SX4とした遺構も連続する可能性が高いことである。21SX4は人為堆積土で埋め戻されており、今回の21SD2で確認した人為堆積土と土質も類似し、平面的な位置からも同一のものの可能性が高い。これは平面形では溝状に確認できるが、堀の改修などの造作なのか何らかの構築物の下部にあたるのか、単純な整地土層とみなしうのか現在の資料では確定できないが、位置を考えるとその性格が注目できる。なお、今回の調査区と以前の調査区の間を土層の確認を目的として平成27年度の77次調査で確認しており、この範囲で遺構の所見は次年度の概報に記す。

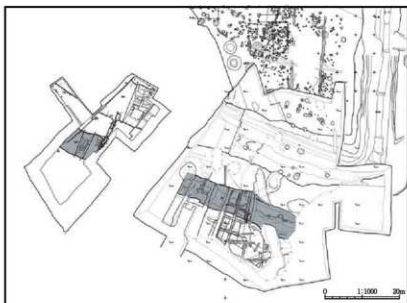
また、前述の今回の調査範囲で確認した21SD1のC層とした土層は、南端部の様相を検討する上でも重要なものである。76次調査では21SD1にのみ堆積が確認できることから、この段階に伴う遺構とみなしうが、周囲では類似の土層は確認されておらず性格については今後の課題となる。現時点では21SD1と21SD2の間の整地などで地業に関わる土層としての把握にとどまる。ただし、この土層を本来の位置に復元した場合には田表上面からの高さが1m弱となる(図38)。この土量は、単純に復元した高さでは土岸状の施設としてはやや低い、基底部の幅等の複数の要因にも規制されるものであり確言できない。一方で整地地業としては現時点で確認できている土層は厚く、土量が多い。今後近接する範囲での土層の堆積を含めて検討していきたい。



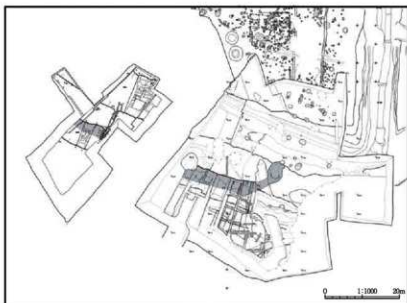
柳之御所遺跡遺構配置図



21SD1



21SD2



21SX4

図39 柳之御所遺跡の南端部の関連遺構

2 まとめ

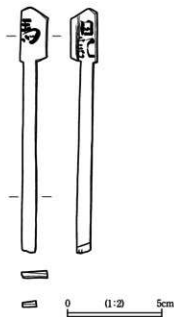
- 1) 柳之御所遺跡の堀内部の南端部の猫間が淵跡の周辺部を調査し、堀跡2条、溝跡などを確認した。両者が平行して走ることを確認し、他の調査区と合わせて柳之御所遺跡を囲む堀跡の位置が確認できた。また、21SD1では南側の21SD2との間の平坦な範囲に積まれたとみられる人為堆積土層が崩落したことを確認できた。
- 2) 21SD2の人為堆積土層を切り、21SD1と時間的には近いが先行する、両者に直交する溝跡を確認できた。溝跡は人為堆積土で埋め戻されており、土層の状況からは長期間の機能を想定したがたいが性格等は不明である。21SD1と21SD2の時期関係について、構築時期について多くの情報を得られた。
- 3) 遺物では21SD1、21SD2ともにかわらけなどの土器類を中心に多くの量が出土した。21SD1では自然堆積土層から下層も含めて12世紀後半代の資料が多く、21SD2では下層でやや古相の遺物を含むものの多くは12世紀後半代の資料が出土した。器形の特徴からは12世紀後半の中でもやや古相の資料を含む。また、21SD2の下層からは横植が出土した。

(櫻井)

訂正図

岩手県教育委員会2015『柳之御所遺跡—第75次発掘調査概報—』岩手県文化財調査報告書第144集

61ページ図47について、縮尺の標記に誤記があったことからここに訂正する。なお本文の記載及び図30については標記の通りである。



V 付章 高館跡第7次調査の概要

1 高館跡の概要と調査計画

高館跡は柳之御所遺跡の遺跡範囲に隣接し、西側の丘陵に位置する。中尊寺が所在する関山丘陵から東側にのびる丘陵にあたる。現在丘陵の頂部には義経堂が所在し、源義経の伝説とともに著名な範囲でもある。これまで数度の発掘調査が行われてきたものの、遺跡の遺構内容や時期、柳之御所遺跡との関係などには不明な点が多く残されてきた。

現在、岩手県教育委員会では柳之御所遺跡の世界遺産拡張登録を目指して各種の事業に取り組んでいる。その中で高館跡についても調査研究を進め柳之御所遺跡との関係を検討することが柳之御所遺跡の位置づけや内容の評価にも必要と考えられた。そこで高館跡についても調査研究を行うこととし、上記のように考古学的情報にも不十分な点が多いと考えられたことから、3カ年の調査計画を立て発掘調査を実施することとした。平成26年度はその1年日に当たる。

表10 高館跡の調査計画

年次	調査目的
平成26年(2014)	堀跡の位置、遺構分布の確認
平成27年(2015)	堀跡の位置、遺構分布の確認(高館 南側斜面)
平成28年(2016)	堀跡の位置、遺構分布の確認(高館 南側斜面及び平坦面)
平成29年(2017)	報告書刊行

なお、高館跡の発掘調査成果については、3カ年の調査実施後に発掘調査報告書を刊行する計画としている。しかし、各年度の発掘調査の内容について正式な報告までの間に、得られた成果の速報的な報告も必要と考えられることから、柳之御所遺跡の概報と合わせて概要報告を行うこととした。なお遺物等を含めた報告の詳細は計画通り、一連の調査終了後にまとめる予定である。

高館跡の調査では隣接する柳之御所遺跡の調査成果と総合して検討を行なう必要性が高いものの、現在の遺跡範囲が異なり旧来の柳之御所遺跡のグリッド上からは外れる部分も広い。さらに、局地的なグリッド範囲としてもきわめて広い範囲になってしまうため、位置関係の把握にも必ずしも有用な点だけではないことが想定された。そのため、ここでは世界測地系の座標に基づいてグリッド表記を行っている。

柳之御所遺および周辺との位置関係の把握については旧測地系の座標を把握しており、これにより行うことも可能である。

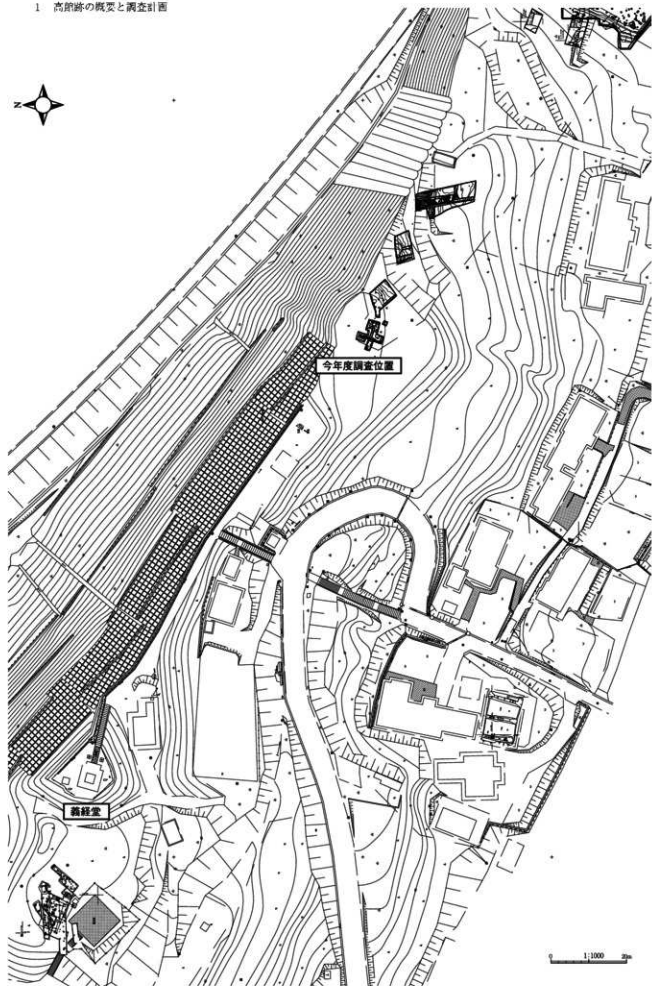


图40 高麗跡調査位置

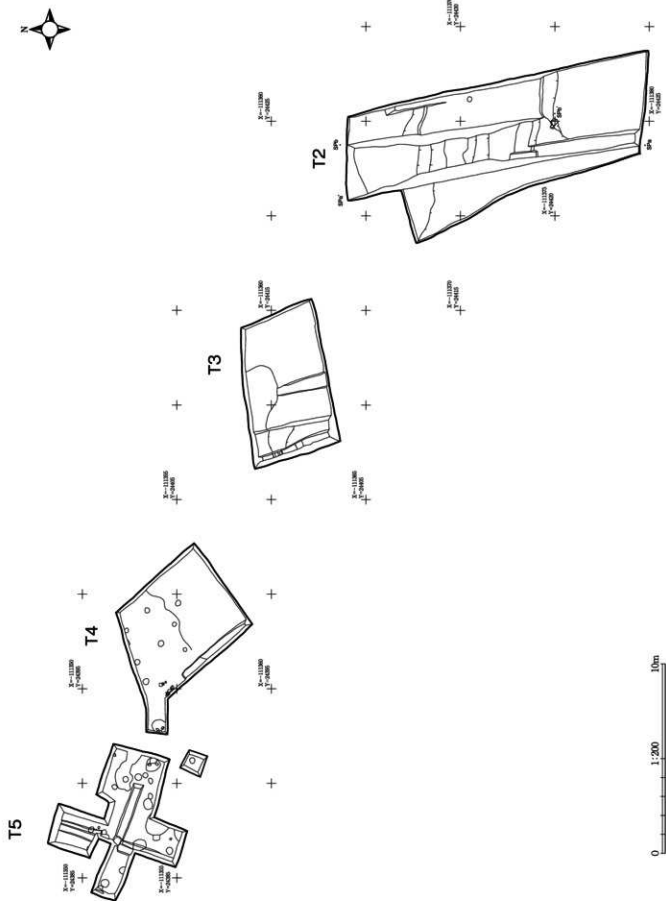


図41 高館跡第7次調査遺構配置図

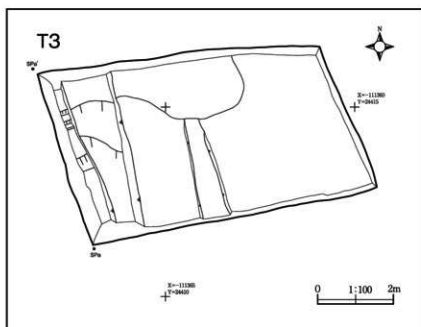
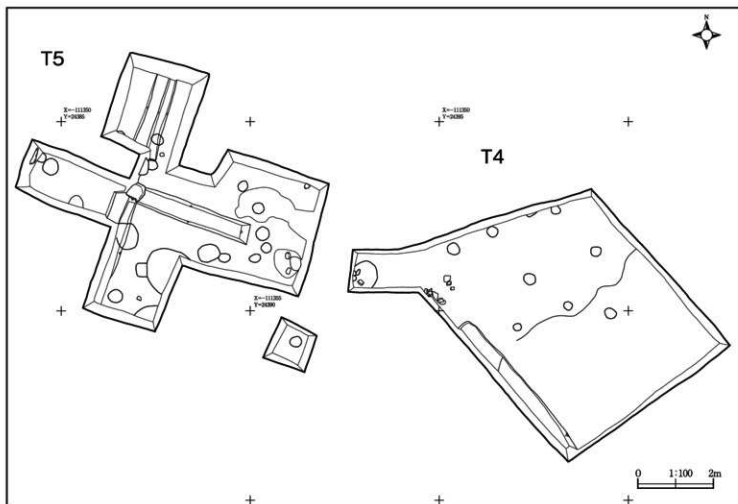


図42 高館跡第7次調査平面図

2 高館跡第7次調査の概要

① 調査の概要

高館跡第7次調査では高館が位置する丘陵の柳之御所遺跡側に近い範囲で平坦面を中心に遺構の分布を確認することを目的とした(図39)。遺構分布の状況を把握するため、5カ所にトレンチを設定した。

② 各トレンチの内容

1 トレンチ (T1)

平泉町教育委員会が実施した高館跡第3次調査で堀跡を確認していたが、詳細な位置の把握や今後の調査位置を定めるため旧調査区の位置を確認したものである。上層の除去による検出にとどめたが、堀の目部分を確認し、旧調査区の位置を確認できた。

2 トレンチ (T2)

1 トレンチの西側に設定し、堀跡の位置と規模を確認した。この範囲では堀跡を検出し一部の葺き削りを行った。検出は表土を除去した後の黄褐色の土層で行っているが、斜面の低部に当たる南側部分は全体が整地されており、その面で検出している。SD1については、トレンチでの所見を中心に概略を記す。

SD1は調査区内で幅10-12mで確認した。深さは2.5mで、底面は幅2m程の平坦面があるもののV字に近い逆台形の形状である。立ち上がりはいずれも30°ほどの急な傾斜である。段等の造成はみられない。

土層の堆積はいずれも自然堆積で、上層は遺物が少なく時期の特定は難しいが、土質もしまりが弱く後世の堆積を含むとみられる。中層には焼土や炭化物を含む土層が確認できるものの、その時期の特定はできない。ただし、これらは上方からの崩落等に伴う土層である。下層の土層で褐鉄が発生する上層があることから、この段階での堆積が長く、遺構機能時の土層とも考えられる。いずれの土層も斜面上方からの自然堆積が多いが、底面付近は両肩方向から崩落がみられる。遺物は上層の自然堆積土層には多く含まれるものの、中層以下はきわめて少ない。かわらけが多く、国産陶器も少量だが含まれる。下層付近からの出土遺物も12世紀代のかわらけと国産陶器である。

SD1から斜面下方の南側にかけは、旧表土とみられる黒色土層の上面に人為堆積の黄褐色土層が厚く堆積している。厚さは1.5m程で、しまりが強い土層である。なお、この整地土層は遺物を含んでおらず、堆積からもSD1の掘削時の排土をそのまま斜面下方に盛り上げたことがわかる。また、幅2-3m程の平坦面が造成されたことになるが、この上面では柱穴等の遺構は確認されなかった。

3 トレンチ (T3)

3 トレンチは斜面中腹の平坦面に設定した。土層の堆積からは、本来の地形は大きく南方に向かって傾斜することがわかる。遺物も表土では近現代のものを含み平坦面の造成はこの段階のものとみられる。したがって、現在の地形造成は後世のもので、2 トレンチで確認したSD1にそのまま傾斜したとみられる。

一部を掘り下げたが、土層は斜行し、SD1を確認したトレンチが位置する平坦面方向へ下ることがわかる。

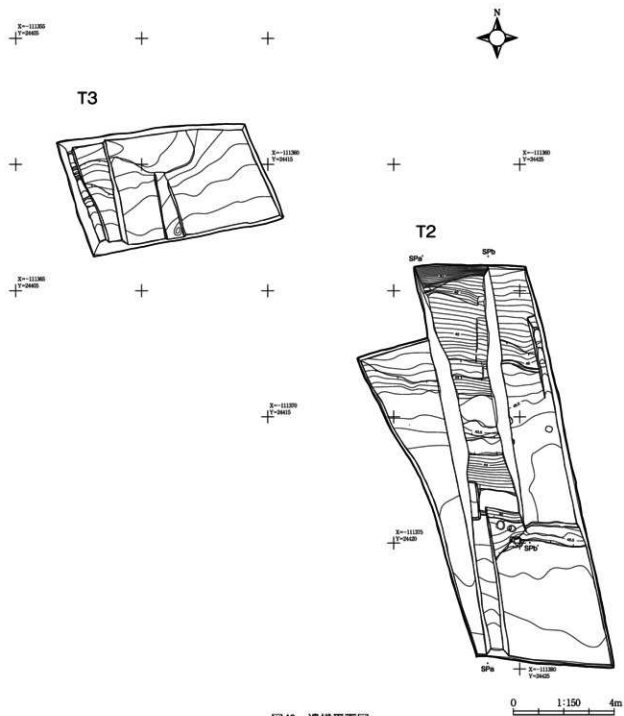


図43 遺構平面図

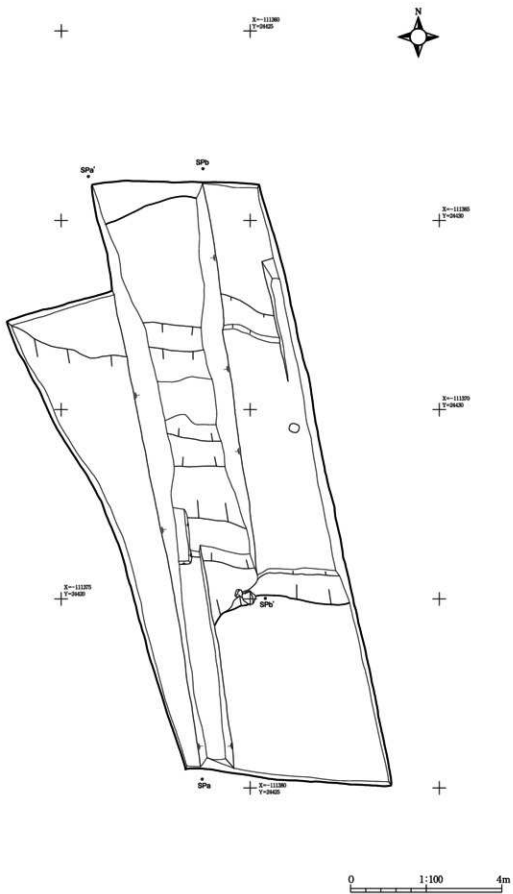


図44 堀跡平面図

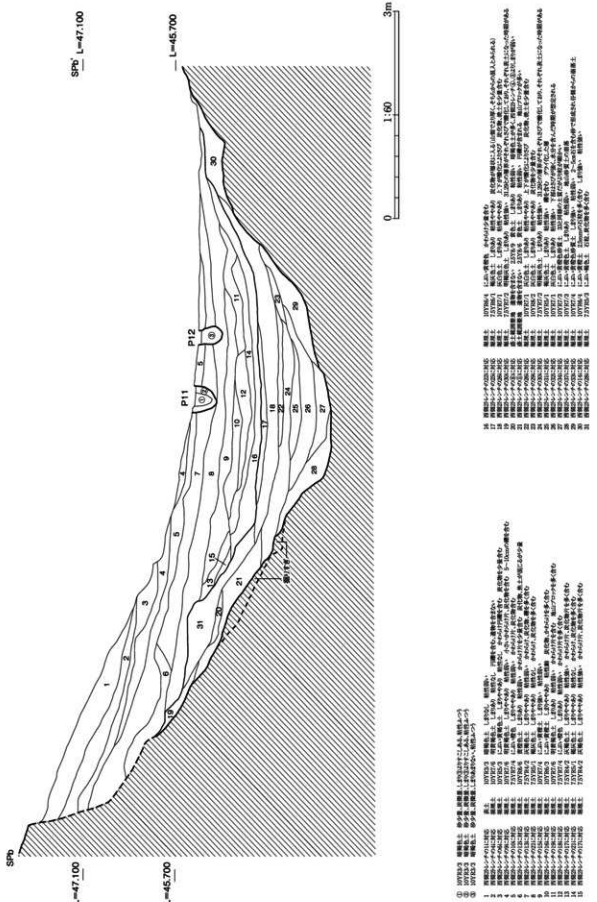
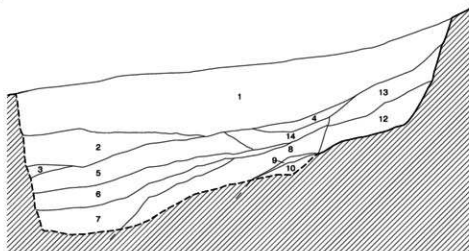


図46 地誌断面図 2 (東側断面)

L=50.500

SPa

SPa'



0 1:40 1m

T07

1	掘しこん埋埋 平削層造成	T2YK3/2	黒褐色土、土質軟弱、掘しこん埋土層
2	掘しこん埋埋 平削層造成	10YK2/4	土色均一褐色土、土質やや硬い、硬底土
3	石の埋埋 斜土層造成	10YK5/1	黒褐色土、土質やや硬、石が多、硬底の埋埋 砂礫多い
4	石の埋埋 斜土層造成	10YK2/1	土色均一褐色土、石が多、硬底の埋埋
5	灰褐色土の砂み混層の埋埋	10YK6/2	灰褐色粘土、黒いアフラ、炭化物を多く含む
6	灰褐色土の砂み混層の埋埋	10YK6/6	赤褐色土、土質軟弱、炭化物を多く含む、黒いアフラの炭化物を多く含む
7	灰褐色土の砂み混層の埋埋	T2YK7/1	赤褐色土、黒いアフラ、炭化物を多く含む、下層より砂み混層を多く含む
8	灰褐色土の砂み混層の埋埋	10YK7/1	灰褐色土、黒いアフラ、炭化物を多く含む
9	灰褐色土の砂み混層の埋埋	10YK2/2	土色均一褐色土、黒いアフラ、炭化物を多く含む
10	灰褐色土の砂み混層の埋埋	10YK3/2	赤褐色粘土、黒いアフラ、炭化物を多く含む
12	粘土	10YK6/6	硬質粘土
13	灰褐色土の砂み混層	T2YK5/4	赤褐色粘土、アフラ等を多く含む、均質粘土化、砂質土少
14	灰褐色土の砂み混層	T2YK5/6	赤褐色粘土、土質硬弱、多量アフラ、アフラを多く含む

図47 3 トレンチ断面図

4 トレンチ (T4)・5 トレンチ (T5)

高館の丘陵の中で現在の義経堂として整備されている範囲から東に下った部分の平坦面を対象に調査区を設定した。T4が丘陵の端部、T5が丘陵平坦部の中央に近づいた範囲である。この範囲では30-50cm大の石を複数確認したほか、さらに一段下げた面では柱穴を複数確認している。ただし、この調査では建物跡を構成できていない。

遺物は12世紀代のかわらけ、円底陶器が出土し、輸入陶磁器も少量ながら出土している。

③ 調査成果の概要

高館跡第7次調査では、高館跡が所在する丘陵中腹で、大きな堀跡を確認することができた。遺物は12世紀代に限定されており、これまで得られている成果からは当該時期の遺構の可能性が高いと判断できる。今後の調査でこの堀跡の位置を確認し、囲繞された範囲を特定していくことが必要と考えられる。また囲繞された内部の平坦な地形をもつ範囲でもトレンチを設定し調査を行った。この範囲では12世紀代の遺物の出土もあり、時期には不明な点が残るが遺構の分布は確認できた。ただし、地形的な制約も大きく不明な点が多く残されている。

なお、既述の通り高館跡の正式な報告は調査終了後に行う予定とし、遺物の報告や全体の位置づけはその際に行うこととしたい。

(櫻井)

引用・参考文献

- 愛知県史編さん委員会 2012 『愛知県史 別編 窯業3 中世・近世 常滑系』
- 岩手県教育委員会 2003 『柳之御所遺跡-第56次発掘調査概報-』岩手県文化財調査報告書第117集
- 岩手県教育委員会 2008 『柳之御所遺跡-第65次発掘調査概報-』岩手県文化財調査報告書第125集
- 岩手県教育委員会 2010 『柳之御所遺跡-第69次発掘調査概報-』岩手県文化財調査報告書第130集
- 岩手県教育委員会 2011 『柳之御所遺跡-第70次発掘調査概報-』岩手県文化財調査報告書第133集
- 岩手県教育委員会 2012 『柳之御所遺跡-第72次発掘調査概報-』岩手県文化財調査報告書第135集
- 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1995 『柳之御所跡』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第228集
- 太宰府市教育委員会 2000 『太宰府条坊跡X V-陶磁器分類編-』太宰府市の文化財第49集
- 平泉町教育委員会 1993 『柳之御所跡発掘調査報告書-第35次調査概報-』岩手県平泉町文化財調査報告書第32集
- 平泉町教育委員会 1993 『平泉遺跡群範囲確認調査報告書-柳之御所跡第38次・39次・40次発掘調査-』岩手県平泉町文化財調査報告書第33集
- MIHO MUSEUMほか 2010 『古南の語 中世のやきもの』
- 宮城県教育委員会2006 『中野高柳道跡Ⅳ』宮城県文化財調査報告書第204集
- 柳之御所遺跡調査事務所 2008 『柳之御所遺跡埋内部地区の遺構変遷 (中間報告 その4)』『平泉文化研究年報』第8号 pp.65-75

表11-1 遺物観察表 (かわらけ) (以下、表の遺物名では次数を省略して記す)

遺物番号	遺物名	遺物名	単位	寸法	高さ	口径	底径(平均)	色 象	備 考	登録番号	
1	ロタロ 大	SD1	106	-	(1.2)	8.8	33	2.318/3底溝		7600x138	
2	ワカラ 大	SD1	D9	14.8	3.1	7.0	35	10Y85/29黄褐		7600x155	
3	ロタロ 大	SD1	109	14.0	3.8	8.0	70	7.317/21黄い殻	産地不明を含む	7600x171	
4	チづくね 大	SD1	D1	15.7	2.7	-	35	5.377/29黄		7600x163	
5	チづくね 大	SD1	D1	15.5	3.3	-	70	2.317/3底溝		7600x165	
6	チづくね 大	SD1	D1	12.8	2.6	-	45	2.317/29黄		7600x165	
7	チづくね 大	SD1	D1	13.3	2.7	-	100	2.317/2底溝		7600x168	
8	チづくね 大	SD1	D1	(12.0)	2.7	-	25	2.318/29白		7600x168	
9	チづくね 大	SD1	D1	14.1	3.3	-	60	2.317/3底溝		7600x185	
10	チづくね 大	SD1	D5	15.5	-	-	20	10Y88/29白		7600x179	
11	チづくね 大	SD1	105	12.0	2.1	-	20	10Y88/29白		7600x180	
12	チづくね 大	SD1	D5	13.5	2.8	-	80	10Y87/41黄い黄緑		7600x191	
13	チづくね 大	SD1	105	(14.0)	2.6	-	45	2.317/3底溝	産地不明を含む	7600x198	
14	チづくね 大	SD1	D0	14.2	3.2	-	40	2.318/29白		7600x111	
15	チづくね 大	SD1	106	(12.0)	2.2	-	15	2.317/3底溝		7600x135	
16	チづくね 大	SD1	D0	13.0	2.6	-	25	2.318/196白		7600x138	
17	チづくね 大	SD1	D1	12.6	2.6	-	15	2.318/29白		7600x178	
18	チづくね 大	SD1	D0	-	3.2	-	20	2.317/29黄		7600x143	
19	チづくね 大	SD1	109	(13.4)	2.3	-	25	2.318/29白		7600x141	
20	チづくね 大	SD1	D9	14.1	2.6	-	30	10Y88/29白		7600x145	
21	チづくね 大	SD1	D9	13.7	3.0	-	40	10Y88/29白		7600x172	
22	チづくね 大	SD1	D0	-	2.0	-	30	10Y88/29白		7600x181	
23	チづくね 大	SD1	D9	11.7	2.5	-	20	2.317/2底溝		7600x182	
24	チづくね 大	SD1	D0	12.6	2.6	-	15	2.318/29白		7600x158	
25	チづくね 小	SD1	D1	9.0	1.6	-	45	7.317/19白		7600x161	
26	チづくね 小	SD1	D1	8.8	2.2	-	90	2.317/29黄		7600x162	
27	チづくね 小	SD1	D1	9.0	1.8	-	45	5Y8/29白		7600x177	
28	チづくね 小	SD1	D0	9.5	2.2	-	60	10Y88/3底溝黄		7600x153	
29	チづくね 小	SD1	D6	8.6	1.9	-	30	2.317/2底溝		7600x131	
30	チづくね 小	SD1	D0	9.0	1.7	-	20	2.317/3底溝		7600x160	
31	丸筒瓦	SD1	D9	-	0.8	-	13	5Y7/29白	内径小 産地不明を含む	7600x183	
35	ワカラ 大	SD1	C1-C9	-	-	0.0	-	7.318/49黄		7600x111	
36	ロタロ 大	SD1	C1-C9	(12.7)	3.6	(7.2)	40	7.318/3底溝黄	産地不明を多く含む	7600x122	
47	ワカラ 大	SD1	C1-C9	(2.8)	(2.8)	(6.8)	50	10Y88/4底溝黄	産地不明を含む	7600x121	
48	ロタロ 大	SD1	C1-C9	(14.0)	3.1	(6.6)	33	7.318/41黄い殻		7600x122	
49	ワカラ 大	SD1	C1-C9	(10.0)	2.7	6.0	50	5Y88/3底溝	産地不明を含む	7600x125	
50	ロタロ 大	SD1	C1-C9	(11.2)	3.3	(3.8)	20	7.318/3底溝	産地不明を含む	7600x188	
51	ワカラ 大	SD1	C1-C9	15.8	2.6	-	15	7.318/29白		7600x127	
52	ロタロ 大	SD1	C1-C9	(14.0)	3.3	-	30	2.318/3底溝	産地不明を含む	7600x138	
53	ワカラ 大	SD1	C1-C9	(2.0)	2.0	7.0	30	10Y88/29白	産地不明を含む	7600x129	
54	ロタロ 大	SD1	C1-C9	-	(2.7)	(6.4)	35	7.318/3底溝黄	産地不明を含む	7600x139	
55	ワカラ 大	SD1	C10-C13	-	(4.0)	-	15	10Y87/31黄い黄緑	内径小 半分は底溝片	7600x195	
56	ロタロ 小	SD1	C1-C9	9.6	1.8	6.1	30	10Y87/31黄い黄緑	産地不明を含む	7600x123	
57	ワカラ 小	SD1	C1-C9	(8.0)	1.8	(6.0)	30	7.318/3底溝黄	産地不明を含む	7600x125	
58	ワカラ 小	SD1	82-105	C1-C9	9.8	1.0	6.0	40	10Y87/41黄い黄緑	産地不明を含む	7600x118
59	ワカラ 小	SD1	C1-C9	9.0	1.8	6.6	40	10Y87/31黄い黄緑	産地不明を含む	7600x118	
60	ワカラ 小	SD1	C1-C9	8.6	2.8	(5.9)	40	10Y88/29白	産地不明を含む	7600x130	
61	ワカラ 小	SD1	C10-C13	-	1.4	4.6	45	7.318/41底溝黄	産地不明を含む	7600x97	
62	ワカラ 小	SD1	C10-C13	-	-	4.7	40	7.318/41底溝黄		7600x98	
63	ワカラ 小	SD1	C10-C13	(8.0)	1.6	(7.0)	30	2.318/29黄		7600x161	
64	柱状高弁	SD1	C10-C13	-	(1.7)	(4.6)	-	5Y87/31黄い黄	産地不明を含む	7600x95	
65	チづくね 大	SD1	C1-C9	13.0	2.9	-	15	10Y88/29白	産地不明を含む	7600x91	
66	チづくね 大	SD1	C1-C9	12.2	2.2	-	45	10Y88/3底溝黄		7600x102	
67	チづくね 大	SD1	82-105 + 106	C1-C9	(11.0)	2.1	-	15	2.317/3底溝	産地不明を含む	7600x114
68	チづくね 大	SD1	82-105 + 106	C1-C9	-	2.5	-	20	2.318/29白		7600x113
69	チづくね 大	SD1	82-105	C1-C9	-	2.0	-	15	2.317/3底溝		7600x115
70	チづくね 大	SD1	C1-C9	12.1	2.4	-	25	2.318/3底溝		7600x122	
71	チづくね 大	SD1	C1-C9	12.2	2.3	-	15	5Y7/29白		7600x118	
72	チづくね 大	SD1	82-105 + 106	C1-C9	12.8	2.7	-	20	2.318/3底溝		7600x127
73	チづくね 大	SD1	82-105 + 106	C1-C9	9.8	2.0	-	20	2.318/29白		7600x124

表11-2 遺物観察表(かわらけ)

番号	器名	器種名	層位	口径	器高	片数	発見 状況	色 調	備 考	登録番号
74	手づくね 大	SD1	C1-C9	12.8	-	-	15	10YR8/2灰白	海鏡塚	760K129
75	手づくね 大	SD1	C1-C9	12.8	2.6	-	10	10YR7/1灰白黄赤		760K130
76	手づくね 大	SD1	C1-C9	-	2.4	-	15	10YR8/2灰白		760K131
77	手づくね 大	SD1	C1-C9	(13.0)	3.0	-	10	10YR8/2灰白		760K132
78	手づくね 大	SD4	C1-C9	(14.1)	3.0	-	10	10YR8/2黄緑		760K133
79	手づくね 大	SD1	C1-C9	(12.6)	2.2	-	20	2.5YR/5灰白		760K134
80	手づくね 大	SD1	C1-C9	13.5	3.2	-	100	10YR8/2黄緑		760K136
81	手づくね 大	SD1	C1-C9	-	(2.0)	-	10	2.5YR/5灰白		760K140
82	手づくね 大	SD1	C1-C9	-	3.4	-	15	10YR8/2灰白		760K136
83	手づくね 大	SD1	C10-C15	12.4	(2.0)	-	15	2.5Y7/5灰白		760K149
84	手づくね 大	SD1	C10-C15	(11.2)	2.5	-	15	2.5YR/2灰白		760K102
85	手づくね 大	SD1	C10-C15	(12.2)	2.6	-	20	2.5YR/5灰白		760K103
86	手づくね 大	SD1	C10-C15	(13.2)	2.3	-	15	3YR/1灰白		760K106
87	手づくね 小	SD1	C1-C9	(8.0)	1.8	-	60	10YR8/2灰白		760K100
88	手づくね 小	SD1	C1-C9	8.8	1.7	-	15	10YR8/2灰白		760K105
89	手づくね 小	SD1	C1-C9	10.6	1.7	-	20	2.5YR/2黄赤		760K110
90	手づくね 小	SD1	C10-C15	9.9	-	-	20	2.5Y7/5黄赤		760K98
91	手づくね 小	SD1	C10-C15	7.5	1.6	-	30	2.5YR/5灰白		760K101
92	手づくね 小	SD1	C1-C9	7.8	1.6	-	10	2.5YR/2灰白		760K120
95	11ヶ穴 大	SD1	B1	(14.2)	3.6	(8.0)	30	1.5YR8/1黄赤	海鏡塚 土台	760K211
116	10ヶ穴 大	SD1	B1	14.2	3.2	8.0	10	10YR7/2灰白黄赤	海鏡塚 土台	760K250
117	11ヶ穴 大	SD1	B1	(12.8)	3.0	-	25	10YR8/2灰白		760K251
118	10ヶ穴 大	SD1	B1	(12.2)	3.0	-	15	10YR8/2灰白		760K252
119	11ヶ穴 大	SD1	B1-B5	12.4	2.3	6.7	50	2.5YR/1黄赤	海鏡塚 土台	760K203
120	10ヶ穴 大	SD1	B1-B6	-	3.4	-	20	7.5YR6/2		760K186
121	11ヶ穴 大	SD1	B1-B6	(14.2)	3.3	(6.8)	20	2.5Y7/3灰白		760K180
122	10ヶ穴 大	SD1	B6	(13.4)	3.4	(8.0)	30	7.5YR7/2		760K271
123	11ヶ穴 大	SD1	B6	12.0	2.3	7.8	15	1.5YR7/1灰白黄赤		760K272
124	10ヶ穴 大	SD1	B6	14.3	3.3	7.5	35	10YR8/2灰白		760K273
125	11ヶ穴 大	SD1	B6	(12.8)	2.6	(8.6)	20	10YR7/2灰白黄赤		760K282
126	10ヶ穴 大	SD1	B6	(12.9)	3.5	(7.2)	50	3YR7/2		760K286
127	11ヶ穴 大	SD1	B7	12.0	3.1	7.4	10	1.5YR8/1黄赤		760K170
128	10ヶ穴 大	SD1	B7-B8・D5	13.2	3.4	6.2	25	2.5YR/2灰白		760K117
129	11ヶ穴 大	SD1	B7-D5	(12.0)	3.0	10	2.5Y7/5灰白	海鏡塚 土台	760K140	
130	10ヶ穴 小	SD1	B1-B6	(8.4)	2.1	5.8	70	7.5YR7/1灰白黄赤		760K175
131	11ヶ穴 小	SD1	B6	8.6	1.9	6.8	10	7.5YR7/1灰白黄赤		760K231
132	10ヶ穴 小	SD1	B6	-	(1.4)	(8.2)	10	3YR7/1灰白黄赤		760K289
133	11ヶ穴 小	SD1	B6	-	(1.3)	-	25	10YR7/2灰白黄赤	海鏡塚 土台	760K270
134	10ヶ穴 小	SD1	B6	(9.0)	1.7	(6.2)	10	7.5YR8/1黄赤	海鏡塚 土台	760K288
135	11ヶ穴 小	SD1	B7	8.4	1.5	6.2	50	10YR7/2灰白黄赤		760K167
136	手づくね 大	SD1	B1	(12.8)	2.5	-	15	2.5Y7/2黄赤	海鏡塚 土台(9.9. 砂较多)	760K212
137	手づくね 大	SD1	B1	(12.2)	2.5	-	20	2.5YR/2黄赤		760K213
138	手づくね 大	SD1	B1	-	2.8	-	20	10YR8/2黄緑		760K214
139	手づくね 大	SD1	B1	(14.6)	2.2	-	35	10YR7/2灰白黄赤		760K215
140	手づくね 大	SD1	B1	(12.4)	2.6	-	20	2.5YR/2黄赤		760K216
141	手づくね 大	SD1	B1	14.8	2.3	-	15	10YR8/2灰白		760K217
142	手づくね 大	SD1	B4	-	2.4	-	10	2.5Y7/2灰白		760K253
143	手づくね 大	SD1	B1	13.2	2.6	-	100	2.5Y7/5灰白	海鏡塚 土台	760K254
144	手づくね 大	SD1	B4	14.2	2.9	-	25	10YR8/2黄赤		760K255
145	手づくね 大	SD1	B1	12.8	2.6	-	20	2.5Y7/5灰白	海鏡塚 土台	760K256
146	手づくね 大	SD1	B4-B5	12.5	3.3	-	80	10YR8/2灰白		760K207
147	手づくね 大	SD1	B1-B5	12.4	2.8	-	60	10YR8/2灰白		760K208
148	手づくね 大	SD1	B4-B5	(12.6)	2.9	-	40	10YR8/2灰白		760K209
149	手づくね 大	SD1	B1-B5	(13.4)	2.3	-	20	2.5Y7/5灰白		760K218
150	手づくね 大	SD1	B4-B5	(14.0)	2.8	-	50	2.5YR/2灰白		760K219
151	手づくね 大	SD1	B1-B5	(13.6)	2.6	-	60	2.5YR/2黄赤		760K220
152	手づくね 大	SD1	B4-B5	-	(2.2)	-	15	10YR8/2灰白		760K221
153	手づくね 大	SD1	B1-B5	(11.6)	(2.3)	-	10	10YR8/2黄赤		760K222
154	手づくね 大	SD1	B4-B5	11.0	2.5	-	20	2.5YR/2灰白		760K223
155	手づくね 大	SD1	B1-B5	11.8	3.0	-	20	2.5Y7/5灰白		760K226

表11-3 遺物観察表(かわらけ)

遺物番号	器種名	遺物名	層位	出寸	器高	口径	底径(平均)	色 象	備 考	登録番号
136	テブク内 大	SD1	H4-H5	(12.2)	2.8	-	23	2.3V7/2灰青		7600x227
137	テブク内 大	SD1	D1-D5	(13.2)	3.7	-	30	2.3V7/2灰青	黒底青しい	7600x153
138	テブク内 大	SD1	H4-H6	(13.3)	2.2	-	23	5V7/2灰白		7600x173
139	テブク内 大	SD1	D1-D6	10.7	2.9	-	30	5V6/2灰+リープ	灰緑青封合も	7600x171
160	テブク内 大	SD1	H4-H6	14.0	2.7	-	23	2.3V8/2灰白		7600x187
161	テブク内 大	SD1	D1-D6	13.1	2.5	-	23	2.3V7/2灰青		7600x186
182	テブク内 大	SD1	H4-H6	12.9	2.4	-	15	10V8/2灰青型		7600x190
163	テブク内 大	SD1	D1-D6	12.0	(2.3)	-	20	2.3V7/2灰青		7600x191
164	テブク内 大	SD1	H4-H6	12.7	2.9	-	13	10V8/2灰白		7600x192
105	テブク内 大	SD1	D1-D6	13.9	2.4	-	20	10V8/2灰白		7600x193
166	テブク内 大	SD1	H4-H6	-	(2.3)	-	10	2.3V8/2灰青	黒底青封合も(少)	7600x238
167	テブク内 大	SD1	D1-D6	13.2	2.4	-	01	10V8/2灰青型		7600x239
168	テブク内 大	SD1	H4-H6	13.4	2.3	-	20	2.3V7/2灰青		7600x260
169	テブク内 大	SD1	D1-D6	12.2	-	-	10	2.3V6/2灰青		7600x261
170	テブク内 大	SD1	H3	12.2	3.0	-	99	10V8/2灰白		7600x195
171	テブク内 大	SD1	D3	11.6	2.6	-	20	2.3V6/2灰青		7600x242
172	テブク内 大	SD1	H3	(13.7)	(2.3)	-	20	2.3V7/2灰青	内面滑り付	7600x243
173	テブク内 大	SD1	D3	(13.8)	2.3	-	20	2.3V6/2灰白		7600x244
174	テブク内 大	SD1	H3	(13.4)	2.7	-	33	5V7/2灰白		7600x249
175	テブク内 大	SD1	D6	12.4	-	-	10	10V8/2灰白		7600x250
176	テブク内 大	SD1	H6	13.0	2.3	-	23	2.3V7/2灰青		7600x245
177	テブク内 大	SD1	D6	(12.6)	3.0	-	20	2.3V7/4灰青		7600x252
178	テブク内 大	SD1	H6	13.6	2.4	-	15	2.3V7/4灰青		7600x258
179	テブク内 大	SD1	D6	-	2.6	-	20	7V7/2灰白	灰緑青封合(少)	7600x259
180	テブク内 大	SD1	H6	-	(2.4)	-	10	2.3V8/2灰白	内面滑り付	7600x240
181	テブク内 大	SD1	D6	(13.4)	2.4	-	30	10V8/2にこい交雜		7600x246
182	テブク内 大	SD1	H6	(13.4)	3.1	-	23	10V8/2にこい交雜		7600x248
183	テブク内 大	SD1	D6	(13.4)	2.2	-	15	2.3V8/2灰白	灰緑青封合も	7600x247
184	テブク内 大	SD1	H6	(12.2)	2.3	-	23	5V7/2灰白		7600x262
185	テブク内 大	SD1	D6	(12.1)	3.0	-	20	2.3V8/2灰青		7600x263
186	テブク内 大	SD1	H6	(13.3)	2.1	-	20	5V7/2灰白		7600x264
187	テブク内 大	SD1	D6	12.6	3.0	-	33	2.3V8/2灰青		7600x265
188	テブク内 大	SD1	H6	-	2.1	-	33	10V8/2灰白		7600x266
189	テブク内 大	SD1	D6	(13.0)	2.4	-	20	7.3V8/2灰白	灰緑青封合も	7600x267
190	テブク内 大	SD1	H6	(12.0)	3.0	-	33	10V8/2灰白		7600x276
191	テブク内 大	SD1	H6	13.2	2.5	-	15	2.3V8/2灰白		7600x275
192	テブク内 大	SD1	H6	12.8	2.6	-	13	2.3V7/2灰青		7600x277
193	テブク内 大	SD1	H6	(13.2)	2.9	-	23	2.3V7/2灰青		7600x279
194	テブク内 大	SD1	H6	(13.0)	2.6	-	13	2.3V7/4灰青	黒底青封合も、ヌス封合	7600x280
195	テブク内 大	SD1	H6	(11.3)	2.8	-	40	10V8/2灰白		7600x281
196	テブク内 大	SD1	H6	12.1	2.7	-	15	10V8/2灰白		7600x285
197	テブク内 大	SD1	H6	13.4	2.5	-	23	10V8/2灰白		7600x287
198	テブク内 大	SD1	H6	14.6	3.1	-	20	2.3V7/2灰青		7600x288
199	テブク内 大	SD1	H6	-	3.3	-	15	2.3V7/2灰青	底付者	7600x290
200	テブク内 大	SD1	H6	14.4	(3.0)	-	60	2.3V7/2灰青		7600x291
201	テブク内 大	SD1	H6	(13.0)	2.2	-	20	10V8/2にこい交雜		7600x292
202	テブク内 大	SD1	H6	10.3	2.3	-	20	2.3V8/2灰白		7600x293
203	テブク内 大	SD1	H6	11.8	2.5	-	20	10V8/2にこい交雜		7600x295
204	テブク内 大	SD1	H7	-	2.4	-	10	2.3V8/2灰白		7600x121
205	テブク内 大	SD1	H7	14.0	3.1	-	33	2.3V7/2灰青		7600x133
206	テブク内 大	SD1	H7	(11.3)	2.4	-	20	2.3V8/2灰白		7600x146
207	テブク内 大	SD1	H7・H8・H5	-	1.5	-	20	2.3V8/2灰白		7600x145
208	テブク内 大	SD1	H4-H5	-	(2.7)	-	15	10V8/2灰青型	黒底青封合も(少)	7600x229
209	テブク内 大	SD1	H6	(11.4)	2.0	-	40	10V8/2灰白		7600x271
210	テブク内 小	SD1	H4	8.5	1.8	-	100	5V8/2灰白		7600x194
211	テブク内 小	SD1	H1	7.3	1.3	-	33	10V8/2灰青型		7600x241
212	テブク内 小	SD1	H4-H5	19.2	2.2	-	45	2.3V7/2灰青		7600x296
213	テブク内 小	SD1	H4-H5	8.8	1.6	-	45	10V8/2灰白		7600x206
214	テブク内 小	SD1	H4-H5	9.0	1.5	-	45	2.3V7/3灰青		7600x220
215	テブク内 小	SD1	H4-H5	8.0	1.6	-	33	10V8/2灰白		7600x219

表11-4 遺物観察表(かわらけ)

番号	器種名	池番号	層位	口径	器高	片数	発見 層位	色 調	備 考	登録番号		
216	手づくり 小	SD1	H1-H3	8.2	1.7	-	25	2.5Y7/2灰青		760C225		
217	手づくり 小	SD1	H1-H3	8.80	2.0	30	2.5Y7/2灰青			760C228		
218	手づくり 小	SD1	H1-H6	9.80	1.8	-	25	3Y7/2灰白	海船戸部を含む	760C257		
219	手づくり 小	SD1	H6	9.6	1.7	15	2.5Y7/2灰青			760C231		
220	手づくり 小	SD4	H6	9.1	1.5	-	25	2.5Y7/2灰青		760C234		
221	手づくり 小	SD1	H6		1.1	20	3Y7/2灰白		内河川化物件云	760C236		
222	手づくり 小	SD4	H6	10.0	1.8	-	25	2.5Y8/2灰白		760C248		
223	手づくり 小	SD1	H6	8.4	2.0	15	10YR8/3灰黄緑			760C278		
224	手づくり 小	SD1	H6	7.2	1.6	-	30	2.5Y7/2灰青		760C281		
225	手づくり 小	SD1	H6	8.2	2.0	-	10	2.5Y7/2灰青		760C294		
226	手づくり 小	SD1	H7	9.0	1.8	-	25	2.5Y8/2灰白		760C352		
227	手づくり 小	SD1	H7	8.0	1.1	25	2.5Y8/2灰白			760C350		
228	手づくり 小	SD1	H7	8.80	1.6	-	15	10YR8/2灰		760C389		
229	内割れ	SD1	H1-H3		1.2	15	3Y7/2灰白			760C304		
230	内割れ	SD1	H1-H6	7.4	1.3	-	10	10YR8/2	内割れ	760C376		
231	内割れ	SD1			1.1	15	3Y7/2灰白			760C383		
232	内割れ	SD1			-	1.2	-	10	2.5Y8/2灰白	760C296		
320	ロタロ 大	SD1	83 10'	A1	(1.8)	(7.0)	-	15	1.5YR8/3灰黄緑	760C372		
321	ロタロ 大	SD1	83-10'	A1	-	(1.6)	7.0	20	2.5YR6/4黄	海船戸部を含む	760C374	
322	ロタロ 大	SD1		A1	(1.1)	7.5	15	10YR7/2C.5灰黄緑	海船戸部を含む	760C380		
323	ロタロ 小	SD1	83-10'	A1	-	1.4	6.8	30	10YR7/2C.5灰黄緑	海船戸部を含む	760C371	
324	ロタロ 小	SD1	83 10'	A1	(8.2)	1.2	(6.2)	25	10YR7/2C.5灰黄緑	海船戸部を含む	760C373	
325	ロタロ 小	SD1	83-10'	A1	8.0	1.4	6.2	80	7.5Y7/4C.5灰	海船戸部を含む	760C390	
326	ロタロ 小	SD1	83 10'	A1	9.0	1.9	4.4	-	15	10YR7/2C.5灰黄緑	海船戸部を含む	760C391
327	手づくり 大	SD1		A1	11.0	2.2	-	30	2.5Y7/2灰青		760C381	
328	手づくり 大	SD1		A1	12.6	3.1	30	1.5YR7/2C.5灰	海船戸部を含む	760C381		
329	手づくり 大	SD1	82-10'	A1	(13.2)	2.8	-	25	10YR8/2灰白		760C387	
330	手づくり 大	SD1	82 10'	A1		(2.2)	5	2.5Y7/2灰青	海船戸部を含む	760C388		
331	手づくり 大	SD1	82-10'	A1	14.0	2.9	-	85	2.5Y8/2灰青		760C389	
332	手づくり 小	SD1		A1	(9.2)	2.1	-	15	2.5Y7/2灰青		760C379	
333	手づくり 小	SD1	82-10'	A1	-	(1.5)	-	10	3Y7/2灰白	海船戸部を含む	760C392	
334	手づくり 小	SD1		A1	7.8	1.7	-	10	2.5Y8/2灰白		760C390	
335	手づくり 小	SD1		A1	8.2	1.6	-	15	2.5Y7/2灰青		760C200	
336	内割れ	SD1		A1		0.5	15	2.5Y7/2灰青		760C382		
337	内割れ	SD1		A1	-	1.1	-	10	10YR8/2灰白		760C383	
338	内割れ	SD1	83 10'	A1		0.8	15	2.5Y7/2灰青		760C204		
860	ロタロ 大	SD2		14	(13.0)	3.1	(6.6)	25	7.5YR7/4C.5灰	海船戸部を含む	760C356	
861	手づくり 大	SD2		14		2.4	30	10YR8/3灰黄緑		760C355		
862	ロタロ 大	SD2		11-12	-	-	(7.6)	-	10	7.5YR8/3灰黄緑	760C332	
863	ロタロ 大	SD2		11-12	(12.2)	2.2	(6.6)	25	7.5YR7/4C.5灰		760C355	
864	ロタロ 大	SD2		11-12	(11.1)	2.9	(5.5)	25	2YR6/4C.5灰		760C345	
865	ロタロ 小	SD2		11-12	(8.5)	1.3	(6.2)	60	10YR5/1黄灰	海船戸部を含む	760C346	
866	手づくり 大	SD2		11-12	(13.5)	2.8	-	10	10YR8/4灰黄緑		760C320	
867	手づくり 大	SD2		11-12	(12.6)	2.7	-	20	10YR8/3灰黄緑		760C331	
868	手づくり 大	SD2		11-12	(12.6)	2.6	-	15	2.5Y7/2灰青		760C324	
869	手づくり 大	SD2		11-12	(12.8)	2.4	-	25	10YR8/3灰黄緑		760C326	
870	手づくり 大	SD2		11-12	13.0	2.7	-	30	10YR8/2灰白		760C327	
871	手づくり 大	SD2		11-12	(14.0)	2.7	-	85	10YR8/2灰白		760C328	
872	手づくり 大	SD2		11-12	15.8	2.9	-	25	10YR8/2灰白		760C340	
873	手づくり 大	SD2		11-12	(11.0)	2.3	-	15	10YR8/3灰黄緑		760C341	
874	手づくり 大	SD2		11-12	(12.0)	2.1	-	25	2.5Y8/2灰白		760C342	
875	手づくり 大	SD2		11-12	(14.8)	2.5	-	25	10YR8/2灰白	海船戸部を含む	760C344	
876	手づくり 大	SD2		11-12	(12.6)	2.7	-	15	2.5Y7/2灰青		760C347	
877	手づくり 大	SD2		11-12	(11.8)	(2.1)	-	15	2.5Y8/2灰白		760C349	
878	手づくり 小	SD2		11-12	8.8	1.7	-	25	10YR8/3灰黄緑		760C350	
879	手づくり 小	SD2		11-12	(9.8)	1.6	-	50	10YR8/3灰黄緑		760C348	
880	手づくり 小	SD2		11-12	8.8	1.7	-	35	7.5YR8/2灰白		760C323	
881	手づくり 小	SD2		11-12	(9.2)	1.5	-	15	2.5Y8/2灰黄緑		760C320	
882	手づくり 小	SD2		11-12	8.8	1.6	-	50	2.5Y8/2灰白	海船戸部を含む	760C342	
883	ロタロ 大	SD2		9-10	(12.1)	2.6	(6.6)	30	4.5YR8/3灰黄緑	海船戸部を含む	760C348	

表11-5 遺物観察表(かわらけ)

遺物番号	器種名	遺物名	層位	口径	高さ	底径	厚(有平%)	色 象	備 考	登録番号
886	ロタロ 大	S02	9-10	(13.2)	4.2	(7.6)	43	5YR7/6黄		780Ck19
885	ワタリ 小	S02	9-10	8.1	1.3	6.0	70	5YR7/6黄		780Ck19
888	ロタロ 小	S02	9-10	6.8	1.9	(4.7)	30	7.5YR7/1に黄		780Ck19
889	チづくね 大	S02	9-10	(12.0)	2.1		70	2.5YR/3黄		780Ck1
888	チづくね 大	S02	9-10	(14.0)	2.3	-	20	2.5YR/3黄		780Ck3
889	チづくね 大	S02	9-10	12.8	2.6		40	10YR8/3黄		780Ck4
890	チづくね 大	S02	9-10	(12.2)	2.8	-	40	10YR8/3黄		780Ck5
891	チづくね 大	S02	9-10	12.0	2.1		30	10YR8/3黄		780Ck6
892	チづくね 大	S02	9-10	(12.2)	2.3	-	13	2.5Y/2黄		780Ck7
893	チづくね 大	S02	9-10		2.4		15	2.5YR/2黄		780Ck9
894	チづくね 大	S02	9-10	(11.8)	2.4	-	20	10YR8/3黄		780Ck10
895	チづくね 大	S02	9-10	(12.0)	(2.8)		13	2.5YR/2黄		780Ck11
896	チづくね 大	S02	9-10	(14.6)	(2.1)	-	15	2.5YR/3黄		780Ck12
897	チづくね 大	S02	9-10		2.2		15	2.5YR/1黄		780Ck15
898	チづくね 大	S02	9-10	14.0	2.7	-	70	2.5YR/2黄		780Ck16
899	チづくね 大	S02	9-10	(12.6)	2.3		20	10YR8/3黄		780Ck20
900	チづくね 大	S02	9-10	-	2.1	-	10	10YR8/3黄		780Ck21
901	チづくね 小	S02	9-10	7.0	1.8		45	10YR7/2黄		780Ck8
902	チづくね 小	S02	9-10	(8.4)	1.3	-	33	2.5YR/3黄		780Ck17
903	チづくね 小	S02	9-10	7.2	1.2		20	2.5Y/3黄		780Ck22
904	チづくね 小	S02	9-10	9.2	1.6	-	60	2.5YR/2黄		780Ck23
905	ワタリ 大	S02	8	(14.0)	3.0	(0.3)		10YR8/2黄		780Ck29
906	ロタロ 大	S02	8	(13.3)	3.3	(7.0)	20	7.5YR7/6黄	黒鉛着色を含む	780Ck37
907	ワタリ 小	S02	8		(1.8)	(6.2)		10YR8/1に黄		780Ck39
908	チづくね 大	S02	8	12.2	2.6	-	43	10YR8/3黄		780Ck27
909	チづくね 大	S02	8	(12.1)	2.2		43	7.5YR8/3黄		780Ck27
910	チづくね 大	S02	8	(14.2)	(2.3)	-	13	2.5Y/3黄		780Ck31
911	チづくね 大	S02	8	(14.0)	2.6		20	2.5YR/1黄		780Ck33
912	チづくね 大	S02	7	(14.0)	2.6	-	40	2.5Y/3黄		780Ck25
913	チづくね 大	S02	7	(12.1)	2.3		10	10YR8/2黄		780Ck26
914	チづくね 小	S02	8	(8.1)	1.4	-	40	10YR8/3黄		780Ck28
915	チづくね 小	S02	8	0.80	1.2		20	2.5YR/3黄		780Ck32
916	ロタロ 大	S02	2	(13.4)	3.3	(7.6)	40	5YR8/6黄	管針を含む	780Ck38
917	ワタリ 大	S02	2			7.0		10YR7/1に黄		780Ck36
918	ロタロ 大	S02	2	-	(1.4)	6.4	-	2.5YR/2黄	黒鉛着色を含む	780Ck70
919	柱状両面	S02	2	(2.2)	(3.8)			5YR8/1に黄		780Ck69
920	チづくね 大	S02	2	(11.4)	2.2	-	23	2.5YR/2黄		780Ck60
921	チづくね 大	S02	2	(13.2)	2.2		20	2.5Y/3黄		780Ck61
922	チづくね 大	S02	2	(13.6)	2.4	-	33	2.5YR/2黄		780Ck63
923	チづくね 大	S02	2	13.0	(2.0)		13	10YR8/2黄		780Ck66
924	チづくね 大	S02	2	13.7	2.6	-	40	2.5Y/3黄		780Ck68
925	チづくね 大	S02	2	(13.2)	1.9	-	30	10YR8/2黄		780Ck67
926	チづくね 小	S02	2	(9.6)	2.0	-	43	5Y7/2黄		780Ck59
927	チづくね 小	S02	2	(9.0)	1.4	-	43	5Y7/3黄		780Ck62
928	大銅丸	S02	2	-	0.9	-	3	5Y7/2黄		780Ck75
929	チづくね 小	S02	1	(8.2)	1.7	-	60	10YR8/1黄		780Ck76
930	S02		2	(10.5/4.8)	1.1	-	-	2.5YR/2黄	穿孔	780Ck202
936	ワタリ 小	表上-松山南	1上-日磨	(8.0)	1.4	5.8	30	10YR7/1に黄		780Ck78
937	ロタロ 小	松山南	2上	8.3	1.9	6.9	70	7.2YR8/4に黄		780Ck86
938	柱状両面	表上-松山南	1上-日磨	-	2.4	-		10YR7/1に黄	黒鉛着色を含む	780Ck77
939	チづくね 大	表上-松山南	1上-日磨	13.0	2.7	-	23	2.5YR/3黄		780Ck78
940	チづくね 小	松山南	日磨	(9.2)	1.3	-	30	7.5YR8/3黄		780Ck85
女1	大銅丸	S01	83-104	A1						780Ck207
女1	チづくね 小	S01	82-104	A1					黒鉛着色	780Ck20
女1	S01		B6						黒鉛着色	780Ck208
女1	チづくね 大	S01	117・118・115	-	-	-	13	2.5YR/1黄	黒鉛着色	780Ck144
女1	チづくね	S02	9-10							780Ck2

表12-1 遺物観察表 (国産陶器)

発掘 層(1)	産地	形状	器種	片の種類	厚径 (mm)	重量 (g)	備考	登録番号
32	沢丸	壺	体	SD1	D6	307.3		R06705
33	深美	壺	口	SD1	D6	23.4		R06706
34	沢丸	壺	口	SD1	D6	46.5		R06670
35	深美	壺	体	SD1	D6	112.2	270 902-904 703H	R06692
36	沢丸	壺	体	SD1	D5	67.5		R06693
37	深美	壺	体	SD1	D5	27.5	押印	R06694
38	沢丸	壺	体	SD1	D5	48.3		R06696
39	深美	壺	体	SD1	D5	142.6	押印	R06699
40	須磨器系	壺	体	SD1	D4	55.1		R06712
41	常白	鉢	体	SD1	D5	7.7		R06701
42	沢丸	壺	体	SD1	D5	57.6	押印	R06695
43	深美	壺	口	SD1	D5	33.6		R06697
44	常白	片口鉢	体	SD1 (H1-105) SD1	D5	370.0		R06729 R06700
50	深美	片口鉢	口一休	SD1 (SD2-109) SD1 (SD2-105-106)	CI-C9	27.1		R06763 R06762
54	常陸	片口鉢	体	SD1	CI-C5	13.7		R06743
55	常白	片口鉢	口	SD1	CI-C5	1.5	茶山香?	R06707
56	深美	壺	体	SD1 SD1 ドレンチ	CI-C9	20.3		R06720
57	深美	壺	体	SD1	CI-C5	33.7		R06711
58	須磨器系	壺	体	SD1	CI-C5	21.5	クサキ	R06740
59	深美	壺	体	SD1 (H2-103)	CI-C9	43.6	押印	R06721
100	深美	壺	体	SD1	CI-C5	66.9		R06725
101	深美	壺	体	SD1	CI-C9	29.4		R06731
102	深美か	山形瓶	体	SD1 (H3-103)	CI-C9	2.5		R06719
103	深美	壺	体	SD1	CI-C9	71.2		R06731
104	深美	壺	体	SD1	CI-C5	65.1		R06727
105	深美	壺	体	SD1	CI-C9	49.1		R06735
106	常陸	壺	体	SD1 (H2-105-106)	CI-C9	31.4		R06728
107	常白	壺	体	SD1	CI-C9	27.6		R06729
108	常陸	片口鉢	体	SD1	CI-C9	19.5	75と同一	R06730
109	常陸	安心	体	SD1	CI-C9	6.5		R06742
110	須磨器系	壺	体	SD1 (H2-103)	CI-C9	41.6	クサキ	R06723
233	深美	壺	体	SD1 (H3-200)	B6	15.2		R06579
234	深美	壺	胴一休部	SD1	B6	219.8	押印 562H	R06261
235	深美	壺	体	SD1	B6	107.2	押印	R06582
236	深美	壺	体	SD1	D6	78.2	押印	R06583
237	沢丸	壺	体	SD1	H6	72.0	押印	R06584
238	深美	壺	体	SD1	H6	7.6		R06585
239	深美	壺	体	SD1	H6	150.6	押印	R06591
240	深美	壺	体	SD1	B6	129.4	押印	R06592
241	深美	壺	体	SD1	B6	40.9	押印	R06629
242	深美	壺	体	SD1	B6	8.8		R06630
243	深美	壺	体	SD1	D6	147.4	押印	R06579
244	沢丸	壺	体	SD1	H6	166.2	押印	R06595
245	深美	壺	体	SD1	H6	12.1	押印	R06625
246	深美	壺	体	SD1 (H5-104)	H6	21.7	押印	R06631
247	深美	壺	体	SD1	B6	37.2	押印	R06632
248	深美	壺	体	SD1	B6	45.7	押印	R06633
249	深美	壺	体	SD1	H6	248.9	押印	R06636
250	深美	壺	体	SD1	B6	32.7		R06629
251	深美	壺	体	SD1	D6	90.4		R06640
252	深美	壺	体	SD1	H6	26.3		R06641
253	深美	壺	体	SD1	B6	78.2		R06640
254	深美	壺	体	SD1	D6	7.8		R06645
255	常陸	安心	体	SD1 (H2-105)	H6	81.7		R06378
256	常白	壺	体	SD1	H6	18.5	押印	R06690
257	深美	壺	体	SD1	D6	390.5	押印	R06644 R06695 R06686
258	深美	壺	体	SD1	B6	447.3	押印	R06641 R06637 R06538
259	常白	壺	体	SD1	H6	28.8		R06381
260	常白	壺	体	SD1	B6	39.5		R06386
261	常陸	壺	体	SD1	D6	12.0		R06396
262	常陸	壺	体	SD1	H6	15.2		R06902
263	常白	壺	体	SD1	B6	121.7	押印	R06388 R06670
264	常陸	安心	体	SD1	H6	88.0		R06641
265	常白	鉢	口	SD1	H6	2.5		R06903
266	常白	壺	体	SD1	B6	12.9		R06695
267	常陸	壺	体	SD1	D6	4.7		R06698
268	常陸	壺	体	SD1	H6	12.1	押印	R06698
269	常白	壺	体	SD1	B6	11.4		R06610
270	常白	壺	体	SD1 (H3-104)	B6	70.7		R06618
271	常陸	安心	体	SD1 (H3-104)	H6	13.5		R06610
272	常白	壺	体	SD1 (H3-104)	H6	29.4		R06621
273	常白	壺	体	SD1	B6	30.5		R06622
274	常陸	壺	体	SD1	D6	30.2		R06623
275	常陸	壺	体	SD1	H6	16.2		R06624
276	常白	壺	体	SD1	B6	29.7	押印	R06625
277	常白	壺	体	SD1	B6	13.3		R06670
278	常陸	安心	体	SD1	H6	88.2	75(同)	R06628
279	常白	壺	体	SD1	H6	15.2		R06611
280	常白	壺	体	SD1	B6	17.7		R06612
281	常陸か	片口鉢	胴一休部	SD1 (H3-104)	D6	178.0		R06617
282	常陸	安心	体	SD1 (H3-104)	H6	8.0		R06620
283	須磨器系	壺	道	SD1	B6	7.9		R06611 R06627 R06390
284	常陸	壺	体	SD1	D6	37.1		R06627 R06390
285	須磨器系	壺	体	SD1	H6	36.6	クサキ 66と同一	R06617
286	須磨器系	壺	体	SD1	B6	122.2		R06648
287	常陸	片口鉢	口一休部	SD1	D6	16.3		R06649 R06611 R06388 R06644 R06688 R06689
288	須磨器系	壺	体	SD1 (H5-105)	H6	120.2	クサキ	R06654 R06688 R06689

表12-2 遺物観察表 (国産陶器)

序番号	産地	形状	部位	口上直径	口径	重量 (g)	備考	記録番号	序番号	産地	形状	部位	口上直径	口径	重量 (g)	備考	記録番号
289	相摩曲	甕	体	SD1	B3	36.5	リヤキ	RO680	335	常滑	山口鉢	盛一休口	SD1(80-100)	A1	189.4		RO6492
290	鹿火	甕	体	SD1	H1	109.9	2竹湯	RO6577									
								RO6533									
291	鹿島	甕	体	SD1	H3-H6	189.8	押印	RO6584	336	阿美	甕	体	SD1	A3	37.3	押印	RO5548
292	常滑	甕	体	SD1	H3-H6	41.3		RO6538									
293	常滑	甕	体	SD1	H5-H6	39.4		RO6539	337	那由曲	甕	体	SD1	A8	10.8	リヤキ	RO6503
294	阿美	甕	体	SD1	H4	52.1		RO6518									
295	阿美	甕	体	SD1	B4	62.7		RO6579	338	阿美	甕	体	SD1	A3	169.8		RO5589
296	鹿火	甕	体	SD1(82-100)	H1	9.2		RO6581									
297	阿美	甕	体	SD1	H1	35.1	押印	RO6682	339	阿美	甕	体	SD1	A2	247.0	3竹湯合 押印	RO5541
298	阿美	甕	体	SD1	B4	179.9	押印	RO6683									
299	阿美	甕	体	SD1	H1	31.8	押印	RO6587	340	那由曲	甕	体	SD1	A3	31.8		RO5549
300	鹿火	甕	体	SD1	H1	61.2	押印	RO6555									
301	阿美	甕	体	SD1	H4	39.5		RO6688	342	常滑	山口鉢	1:1	SD1	A3	8.6		RO5531
302	阿美	甕	体	SD1	B1	22.7		RO6571									
303	鹿火	甕	体	SD1	H1	32.9		RO6573	343	常滑	甕	体	SD1	A3	12.3		RO5536
304	常滑	甕	体	SD1	H1	39.4		RO6537									
305	常滑	甕	式一押形	SD1	B4	62.9		RO6600	344	常滑	甕	体	SD1	A3	14.9		RO5534
306	常滑	甕	体	SD1	H1	82.6		RO6681									
307	常滑	甕	体	SD1	H1	41.8		RO6562	346	常滑	甕	体	SD1	A3	25.8	押印	RO5528
308	常滑	甕	体	SD1	B4	36.7		RO6683									
309	常滑	甕	体	SD1	H1	30.4		RO6684	347	常滑	甕	体	SD1	A3	9.5	550-261 阿一押印合	RO5529
310	常滑	甕	体	SD1	H1	11.4		RO6685									
311	常滑	甕	体	SD1	H1	13.5		RO6686	348	常滑	甕	体	SD1	A3	6.3		RO5560
312	常滑	甕	体	SD1	B4	17.2		RO6687									
313	常滑	甕	体	SD1	H1	10.6		RO6572	349	常滑	甕	体	SD1	A3	9.2		RO5561
314	常滑	甕	体	SD1	H1	132.3		RO6574									
315	常滑	甕	体	SD1	H1	184.7		RO6536	350	常滑	甕	体	SD1	A3	39.0	盆合調具	RO5573
316	阿美	甕	式一押形	SD1	B1	136.7		RO6689									
317	阿美	甕	体	SD1(82-100)	A4	60.0		RO6486	381	鹿島	甕	体	SD1	A2	63.9	押印	RO5571
318	鹿火	甕	体	SD1(82-100)	A1	81.7		RO6487									
319	阿美	甕	体	SD1(83-100)	A1	35.9	2竹湯合	RO6488	382	常滑	甕	体	SD1	A2	122.4		RO6607
320	阿美	甕	体	SD1(82-100)	A4	60.0		RO6486									
321	阿美	甕	体	SD1(83-100)	A1	35.9	2竹湯合	RO6488	383	阿美	甕	体	SD1	A2	220.9	押印	RO5507
322	阿美	甕	体	SD1(82-100)	A1	117.5	押印	RO6703									
323	鹿火	甕	体	SD1(82-100)	A1	29.8	押印	RO6491	384	阿美	甕	体	SD1	A2	22.1		RO5497
324	阿美	甕	体	SD1(83-100)	A4	34.6		RO6494									
325	阿美	甕	体	SD1(82-100)	A1	21.0		RO6489	385	阿美	甕	体	SD1	A2	32.0	押印	RO6498
326	鹿火	甕	体	SD1(82-100)	A1	38.7	押印	RO6490									
327	常滑	甕	体	SD1(82-100)	A1	101.5		RO6481	386	阿美	甕	体	SD1	A7	30.3		RO5501
328	常滑	甕	式一押形	SD1(82-100)	A4	97.0		RO6485									
329	常滑	甕	式一押形	SD1(83-100)	A1	33.0		RO6495	387	阿美	甕	体	SD1	A2	37.0		RO5502
330	鹿火	甕	体	SD1	A3	37.0	押印	RO5505									
331	阿美	甕	体	SD1	A3	32.1	押印	RO5545	388	阿美	甕	体	SD1	A2	37.3	押印	RO5503
332	鹿火	甕	体	SD1	A3	101.8	押印	RO5566									
333	鹿火	甕	体	SD1	A3	107.8	押印	RO5543	389	阿美	甕	体	SD1	A7	41.5	押印	RO5504
334	鹿火	甕	体	SD1	A3	68.9	3竹湯合	RO5547									

表12-3 遺物觀察表 (国産陶器)

発掘 層号	産地	形状	器種	片寸 寸法	厚さ (mm)	重量 (g)	備考	登録番号	発掘 層号	産地	形状	器種	片寸 寸法	厚さ (mm)	重量 (g)	備考	登録番号
301	奈良	壺	体	SD1	A2	73.1		K06505	40	奈良	壺	体	SD1 (82-103)	A1	12.5		K06171
302	奈良	壺	体	SD1	A2	29.1	押印	K06506	41	奈良	壺	体	SD1 (82-103)	A1	27.3		K06172
303	奈良	壺	体	SD1	A2	93.9		K06508	42	奈良	壺	体	SD1 (82-103)	A1	9.0		K06173
304	奈良	壺	体	SD1	A2	89.6		K06509	43	奈良	壺	体	SD1 (82-103)	A1	13.9		K06174
305	奈良	壺	体	SD1	A2	11.2	押印	K06510	44	奈良	壺	体	SD1 (82-103)	A1	19.2		K06175
306	奈良	壺	部一作証	SD1	A2	11.2	押印	K06511	45	奈良	壺	体	SD1 (82-103)	A1	28.9		K06176
307	奈良	壺	体	SD1	A2	131.7		K06513	46	奈良	片口鉢	体	SD1 (82-103)	A1	21.0		K06177
308	奈良	壺	体	SD1	A2	85.6		K06511	47	奈良	壺	体	SD1 (82-106)	A1	18.8	押印	K06211
309	奈良	壺	体	SD1	A2	151.4	押印	K06515	48	奈良	壺	体	SD1 (82-106)	A1	18.6	押印	K06212
310	奈良	鉢	体	SD1	A2	13.6		K06516	49	奈良	壺	体	SD1 (82-106)	A1	31.7		K06213
311	奈良	壺	体	SD1	A2	23.6		K06517	50	奈良	壺	体	SD1 (83-103)	A1	12.6	押印	K06343
312	奈良	壺	体	SD1	A2	18.3		K06518	51	奈良	壺	体	SD1 (83-103)	A1	30.5		K06342
313	奈良	壺	体	SD1	A2	43.9	押印	K06520	52	奈良	壺	体	SD1 (83-103)	A1	11.9		K06344
314	奈良	壺	体	SD1	A2	41.8		K06521	53	奈良	壺	体	SD1 (83-103)	A1	6.4	展開文	K06345
315	奈良	壺	体	SD1	A2	42.4	押印	K06522	54	奈良	壺	体	SD1 (83-103)	A1	63.2	押印	K06346
316	奈良	壺	体	SD1	A2	111.2		K06523	55	奈良	壺	体	SD1 (83-103)	A1	17.9	押印	K06347
317	奈良	壺	口	SD1	A2	6.5		K06525	56	奈良	壺	体	SD1 (83-103)	A1	17.8		K06348
318	香川	筒小	口	SD1	A2	5.7		K06528	57	奈良	壺	体	SD1 (82-104)	A1	31.1		K06278
319	香川	壺	体	SD1	A2	7.0		K06527	58	奈良	片口鉢小	口	SD1 (82-104)	A1	2.4		K06280
320	香川	壺	体	SD1	A2	15.9		K06528	59	奈良	壺	体	SD1 (82-104)	A1	3.2		K06289
321	香川	壺	体	SD1	A2	5.3		K06490	60	奈良	壺	体	SD1 (82-104)	A1	43.1		K06281
322	徳島	壺	体	SD1	A2	18.7	夕夕キ	K06529	61	奈良	壺	体	SD1 (82-104)	A1	31.7	押印	K06286
323	徳島	壺	体	SD1	A2	13.3		K06530	62	奈良	壺	体	SD1 (82-104)	A1	36.8	押印	K06287
324	徳島	壺	体	SD1	A2	42.8		K06531	63	奈良	壺	体	SD1 (82-104)	A1	22.1	押印	K06288
325	徳島	壺	体	SD1	A2	7.1		K06532	64	奈良	壺	体	SD1 (82-104)	A1	45.9	押印	K06289
326	奈良	壺	体	SD1 (82-104)	A1	11.1	押印	K0661	65	奈良	壺	体	SD1 (82-104)	A1	31.4	押印	K06291
327	奈良	壺	口	SD1 (82-104)	A1	5.4		K0691	66	奈良	壺	体	SD1 (82-104)	A1	13.5	押印	K06292
328	奈良	壺	口	SD1 (82-104)	A1	3.3		K0696	67	奈良	壺	体	SD1 (82-104)	A1	32.3	押印	K06293
329	奈良	壺	体	SD1 (82-104)	A1	13.1		K0697	68	奈良	壺	体	SD1 (82-104)	A1	23.9	押印	K06294
330	奈良	壺	体	SD1 (82-104)	A1	9.5		K0698	69	奈良	壺	体	SD1 (82-104)	A1	32.2	押印	K06295
331	奈良	壺	体	SD1 (82-104)	A1	12.6	押印	K0699	70	奈良	壺	体	SD1 (82-103)	A1	76.4		K06300
332	奈良	壺	体	SD1 (82-104)	A1	21.3		K06100	71	奈良	壺	体	SD1 (82-103)	A1	32.4	押印	K06301
333	奈良	壺	体	SD1 (82-104)	A1	12.5	押印	K06101	72	奈良	壺	体	SD1 (82-103)	A1	117.4	押印	K06302
334	奈良	壺	体	SD1 (82-104)	A1	15.3	押印	K06102	73	奈良	壺	体	SD1 (82-103)	A1	16.3		K06303
335	奈良	壺	体	SD1 (82-104)	A1	33.2	押印	K06103	74	奈良	片口鉢	体	SD1 (82-103)	A1	75.4		K06305
336	奈良	壺	体	SD1 (82-104)	A1	38.4	押印	K06104	75	奈良	壺	体	SD1 (82-103)	A1	6.8		K06306
337	奈良	壺	体	SD1 (82-104)	A1	70.2	押印	K06105	76	奈良	壺	体	SD1 (82-103)	A1	77.7		K06307
338	奈良	壺	体	SD1 (82-104)	A1	18.8	押印	K06106	77	奈良	壺	体	SD1 (82-103)	A1	33.3		K06308
339	奈良	壺	体	SD1 (82-104)	A1	70.2		K06107	78	奈良	壺	体	SD1 (82-103)	A1	10.0		K06309
340	奈良	鉢小	体	SD1 (82-104)	A1	6.0		K06108	79	奈良	壺	体	SD1 (82-103)	A1	23.7		K06310
341	奈良	壺	体	SD1 (82-104)	A1	20.2		K06109	80	奈良	壺	体	SD1 (82-103)	A1	30.9	押印	K06312
342	奈良	壺	体	SD1 (82-104)	A1	6.6		K06163	81	奈良	壺	体	SD1 (82-103)	A1	3.3	押印	K06313
343	奈良	壺	体	SD1 (82-104)	A1	28.7		K06162	82	奈良	壺	体	SD1 (82-103)	A1	18.8		K06315
344	奈良	壺	体	SD1 (82-104)	A1	10.1		K06164	83	奈良	壺	体	SD1 (82-103)	A1	12.5		K06316
345	奈良	壺	体	SD1 (82-104)	A1	70.8		K06165	84	奈良	壺	部鉢小	SD1 (82-103)	A1	14.2		K06317
346	奈良	壺	体	SD1 (82-104)	A1	41.9	押印	K06166	85	奈良	壺	部鉢小	SD1 (82-103)	A1	10.4		K06318
347	奈良	壺	体	SD1 (82-104)	A1	7.0	押印	K06167	86	奈良	壺	口	SD1 (82-103)	A1	5.6		K06340
348	奈良	鉢小	体	SD1 (82-104)	A1	5.5		K06168	87	奈良	壺	体	SD1 (82-104)	A1	30.3	押印	K06368
349	奈良	壺	部一作証	SD1 (82-103)	A1	60.1		K06170	88	奈良	壺	体	SD1 (82-104)	A1	30.4	押印	K06270

表12-4 遺物觀察表 (國産陶器)

序 号	産地	器名	部位	口上直径	口径	重量 (g)	備考	記録番号	序 号	産地	器名	部位	口上直径	口径	重量 (g)	備考	記録番号
389	奈良	甕	体	S01(83-104)	A1	76.8	押印	RO371									
490	奈良	甕	体	SD1(83-104)	A1	29.7	押印	RO372									RO326
491	奈良	甕	体	SD1(83-104)	A1	11.9	押印	RO373									RO329
492	奈良	甕	体	S01(83-104)	A1	22.2	押印	RO373									RO627
493	奈良	甕	体	SD1(83-104)	A1	17.2	押印	RO376									RO33
494	奈良	甕	体	SD1(83-104)	A1	41.0	押印	RO378									RO329
495	近云	甕	体	S01(83-104)	A1	21.7		RO379									RO328
498	奈良	甕	器部	S01(83-104)	A1	23.2		RO381									RO169
497	奈良	甕	体	SD1(83-104)	A1	9.3		RO386									RO320
498	奈良	甕	体	SD1(83-104)	A1	5.5		RO386									RO383
499	奈良	甕	体	S01(83-104)	A1	30.7		RO388									RO285
500	奈良	甕	体	SD1(83-105)	A1	26.6	押印	RO393									RO329
501	奈良	甕	体	SD1(83-105)	A1	44.1		RO394									RO320
502	近云	甕	体	S01(83-105)	A1	20.3		RO396									RO283
503	奈良	甕	体	S01(83-105)	A1	30.0		RO399									RO371
504	奈良	甕	体	SD1(83-105)	A1	32.3		RO394									RO334
505	奈良	甕	体	SD1(83-105)	A1	21.3		RO403									RO387
506	奈良	甕	体	SD1(83-105)	A1	21.6		RO406									RO368
507	奈良	甕	体	SD1(83-105)	A1	21.6		RO406									RO382
508	奈良	甕	体	SD1(83-105)	A1	37.9		RO407									RO381
509	近云	甕	器一休部	S01(83-105)	A1	38.3		RO408									RO391
510	奈良	甕	体	S01(83-105)	A1	28.8	押印	RO409									RO383
511	奈良	甕	体	SD1(83-105)	A1	66.5		RO410									RO391
512	奈良	甕	体	SD1(83-105)	A1	31.0		RO412									RO400
513	奈良	甕	体	S01(83-105)	A1	23.6		RO413									RO473
514	奈良	甕	体	SD1(83-105)	A1	11.4	押印	RO414									RO472
515	奈良	甕	体	SD1(83-105)	A1	19.8	押印	RO415									RO320
516	近云	甕	体	S01(83-105)	A1	35.6		RO416									RO434
517	奈良	甕	体	S01(83-105)	A1	21.6		RO417									RO432
518	奈良	甕	体	SD1(83-105)	A1	7.8		RO418									RO456
519	奈良	甕	体	SD1(83-105)	A1	33.7		RO419									RO463
520	奈良	甕	体	S01(83-105)	A1	51.3		RO420									RO464
521	奈良	甕	体	SD1(82-104)	A1	39.8		RO468									RO465
522	奈良	甕	器	SD1(82-104)	A1	40.3		RO469									RO462
523	奈良	甕	体	S01	A1	16.1		RO473									RO320
524	奈良	甕	体	S01	A1	17.8	押印	RO481									RO451
525	奈良	甕	体	SD1	A1	12.3		RO482									RO437
526	奈良	甕	体	SD1	A1	40.6		RO483									RO457
527	奈良	甕	体	S01(83-104)	A1	90.9		RO471									RO458
528	奈良	甕	体	SD1(83-105)	A1	85.9	押印	RO395									RO460
529	奈良	甕	体	S01(83-105)	A1	28.0	押印	RO411									RO463
530	奈良	甕	体	S01(83-104)	A1	135.0	押印	RO459									RO457
531	奈良	甕	体	S01(82-105)	A1	19.0	押印	RO389									RO464
532	奈良	甕	体部	SD1(82-106)	A1	302.1	押印	RO341									RO468
333	奈良	甕	体	SD1(83-104)	A1	112.1											RO456
334	奈良	甕	体	SD1(83-104)	A1	79.3	押印										RO429
335	奈良	甕	体部	SD1(82-104)	A1	40.9	押印										RO453
336	奈良	甕	体部	SD1(82-105)	A1	14.5											RO429
337	奈良	甕	体	SD1(82-104)	A1	33.4											RO428
338	奈良	甕	体部	SD1(82-104)	A1	1.3											RO469
339	奈良	甕	体	SD1(82-105)	A1	11.8											RO420
340	奈良	甕	体	SD1(82-104)	A1	18.4											RO428
341	奈良	甕	体	SD1(82-104)	A1	38.0											RO453
342	奈良	甕	体	SD1(82-104)	A1	21.4											RO429
343	奈良	甕	体部	SD1(82-105)	A1	38.2											RO420
344	奈良	甕	体	SD1(82-105)	A1	14.5											RO411
345	奈良	甕	口	SD1(82-105)	A1	1.7											RO434
346	奈良	甕	体	SD1(82-104)	A1	14.1	押印										RO467
347	奈良	甕	体	SD1(82-104)	A1	30.6											RO456
348	奈良	甕	体	S01(82-104)	A1	66.9	押印										RO471
349	奈良	甕	体	SD1(82-104)	A1	15.8											RO432
350	奈良	甕	体	S01(82-104)	A1	3.6											RO431
351	奈良	甕	体	SD1(82-104)	A1	1.0											RO439
352	奈良	甕	体	S01(82-104)	A1	11.9											RO463
353	奈良	甕	体	SD1(82-105)	A1	63.2	押印										RO429
354	奈良	甕	体	S01(82-105)	A1	17.3											RO400
355	奈良	甕	体	SD1(82-105)	A1	1.3	蓋部?										RO473
356	奈良	甕	口	S01(82-105)	A1	6.9											RO472
357	奈良	甕	体	SD1(82-105)	A1	9.9											RO420
358	奈良	甕	体	S01(82-105)	A1	8.4											RO434
359	奈良	甕	体	SD1(82-105)	A1	11.6											RO432
360	奈良	甕	体	S01(82-105)	A1	22.9											RO456
361	奈良	甕	体	SD1(82-104)	A1	30.2											RO463
362	奈良	甕	体	SD1(82-104)	A1	38.7											RO464
363	奈良	甕	体	SD1(82-104)	A1	3.7											RO465
364	奈良	甕	体	S01(82-104)	A1	21.7											RO462
365	奈良	甕	体	SD1(82-105)	A1	15.7											RO320
366	奈良	甕	体	SD1(82-104)	A1	40.9											RO451
367	奈良	甕	体	SD1(82-105)	A1	36.5											RO437
368	奈良	甕	体	SD1(82-105)	A1	10.3											RO457
369	奈良	甕	体	SD1(82-104)	A1	19.5											RO458
370	奈良	甕	体	SD1(82-104)	A1	36.2											RO460
371	奈良	甕	体	SD1(82-104)	A1	4.7											RO463
372	奈良	甕	体	SD1(82-104)	A1	36.2	押印										RO459
373	奈良	甕	体部	SD1(82-104)	A1	7.6											RO457
374	奈良	甕	体	S01(82-104)	A1	36.7	蓋部										RO464
375	奈良	甕	体	SD1(82-104)	A1	36.6											RO465
376	奈良	甕	体	S01(82-104)	A1	7.1											RO464
377	奈良	甕	体	SD1(82-104)	A1	7.5											RO468
378	奈良	甕	体	S01(82-104)	A1	43.0											RO457
379	奈良	甕	体	SD1(82-104)	A1	26.0											RO465

表12-5 遺物観察表 (国産陶器)

調査 番号	産地	形状	器種	出土遺物	母体	重量 (g)	備考	登録番号	調査 番号	産地	形状	器種	出土遺物	母体	重量 (g)	備考	登録番号
580	常陸	壺	体	SD1(82-100)	A1	26.5	押印	K0171	629	常陸	壺	体	SD1(83-104)	A1	8.9		K0136
581	常陸	壺	口	SD1(82-104)	A1	2.8		K0172	630	常陸	壺	体	SD1(83-104)	A1	31.0		K0139
582	常陸	片山形	体	SD1(82-104)	A1	17.3	タヌリあり	K0173	631	常陸	壺	体	SD1(83-104)	A1	6.7		K0140
583	常陸	壺	体	SD1(82-104)	A1	6.3		K0176	632	常陸	壺	体	SD1(83-104)	A1	3.9		K0141
584	常陸	壺	体	SD1(82-104)	A1	7.5		K0178	633	常陸	壺	体	SD1(83-104)	A1	4.4		K0142
585	常陸	与左瓶	口	SD1(82-104)	A1	1.4		K0179	634	常陸	壺	体	SD1(83-104)	A1	31.8		K0143
586	常陸	具左	体	SD1(82-104)	A1	7.3		K0181	635	常陸	壺	体	SD1(83-104)	A1	9.2		K0144
587	常陸	壺	体	SD1(82-104)	A1	7.3		K0177	636	常陸	壺	体	SD1(83-104)	A1	22.3		K0145
588	常陸	壺	体	SD1(82-104)	A1	27.5		K0179	637	常陸	壺	体	SD1(83-104)	A1	10.4		K0146
589	常陸	壺	体	SD1(82-104)	A1	101.3		K0180	638	常陸	壺	体	SD1(83-104)	A1	20.3	押印	K0147
590	常陸	鉢	口一休	SD1(82-104)	A1	28.1		K0181	639	常陸	壺	体	SD1(83-104)	A1	9.8		K0148
591	常陸	壺	体	SD1(82-104)	A1	78.5		K0182	640	常陸	壺	体	SD1(83-104)	A1	30.5		K0149
592	常陸	壺	体	SD1(82-104)	A1	33.0		K0183	641	常陸	山形瓶	体	SD1(83-104)	A1	6.3		K0152
593	常陸	壺	体	SD1(82-104)	A1	5.9		K0185	642	常陸	壺	体	SD1(83-104)	A1	34.6		K0154
594	常陸	壺	口	SD1(82-104)	A1	10.8		K0186	643	常陸	壺	体	SD1(82-105)	A1	21.6		K0159
595	常陸	壺	体	SD1(82-104)	A1	7.2		K0187	644	常陸	壺	体	SD1(82-105)	A1	17.5		K0189
596	常陸	壺	体	SD1(82-104)	A1	17.9		K0188	645	常陸	壺	体	SD1(82-105)	A1	7.5		K0182
597	常陸	壺	体	SD1(82-104)	A1	10.0		K0189	646	常陸	壺	体	SD1(82-105)	A1	11.9		K0183
598	常陸	壺	体	SD1(82-104)	A1	28.0	押印	K0190	647	常陸	壺	体	SD1(82-105)	A1	23.0		K0184
599	常陸	壺	体	SD1(82-104)	A1	25.4		K0191	648	常陸	壺	体	SD1(82-105)	A1	2.5		K0185
600	常陸	具左	体	SD1(83-100)	A1	5.9		K0196	649	常陸	壺	体	SD1(82-105)	A1	10.7		K0186
601	常陸	片山形	体	SD1(83-100)	A1	6.5		K0197	650	常陸	壺	体	SD1(82-105)	A1	17.4	押印	K0187
602	常陸	片山形	体	SD1(83-100)	A1	3.1		K0198	651	常陸	壺	体	SD1(82-105)	A1	4.5		K0188
603	常陸	壺	体	SD1(83-100)	A1	17.4		K0199	652	常陸	壺	体	SD1(82-105)	A1	3.9	押印	K0191
604	常陸	壺	口	SD1(83-100)	A1	7.4		K0110	653	常陸	壺	体	SD1(82-105)	A1	2.0		K0193
605	常陸	壺	体	SD1(83-100)	A1	3.9		K0111	654	常陸	壺	体	SD1(82-105)	A1	3.3		K0195
606	常陸	壺	体	SD1(83-100)	A1	29.6		K0112	655	常陸	壺	体	SD1(82-105)	A1	2.7		K0199
607	常陸	壺	体	SD1(83-100)	A1	5.8	押印	K0113	656	常陸	壺	体	SD1(82-105)	A1	8.7		K0201
608	常陸	壺	体	SD1(83-100)	A1	11.2		K0114	657	常陸	壺	体	SD1(82-105)	A1	21.5	押印	K0190
609	常陸	壺	体	SD1(83-100)	A1	19.1		K0115	658	常陸	壺	体	SD1(82-105)	A1	23.3		K0192
610	常陸	壺	体	SD1(83-100)	A1	13.1		K0116	659	常陸	壺	体	SD1(82-105)	A1	15.3		K0195
611	常陸	壺	体	SD1(83-100)	A1	22.2		K0117	660	常陸	壺	体	SD1(82-105)	A1	6.9		K0197
612	常陸	壺	体	SD1(83-100)	A1	15.2		K0118	661	常陸	壺	体	SD1(82-105)	A1	18.7	押印	K0190
613	常陸	壺	体	SD1(83-100)	A1	13.4		K0119	662	常陸	壺	体	SD1(82-106)	A1	12.1		K0210
614	常陸	壺	体	SD1(83-104)	A1	6.7		K0170	663	常陸	壺	体	SD1(83-105)	A1	19.5	押印	K0175
615	常陸	壺	体	SD1(83-104)	A1	5.3		K0121	664	常陸	壺	体	SD1(83-105)	A1	43.9	押印	K0217
616	常陸	壺	体	SD1(83-104)	A1	13.4		K0176	665	常陸	壺	体	SD1(83-105)	A1	83.6	押印	K0178
617	常陸	壺	体	SD1(83-104)	A1	12.5		K0125	666	常陸	壺	体	SD1(83-105)	A1	7.7		K0219
618	常陸	壺	体	SD1(83-104)	A1	60.5		K0179	667	常陸	壺	口	SD1(83-105)	A1	7.4		K0271
619	常陸	壺	体	SD1(83-104)	A1	22.5		K0127	668	常陸	壺	体	SD1(83-105)	A1	20.1		K0225
620	常陸	壺	体	SD1(83-104)	A1	10.7		K0130	669	常陸	壺	体	SD1(83-105)	A1	22.4		K0179
621	常陸	壺	口	SD1(83-104)	A1	7.0		K0132	670	常陸	壺	体	SD1(83-105)	A1	13.7		K0221
622	常陸	壺	体	SD1(83-104)	A1	56.6		K0134	671	常陸	壺	体	SD1(83-105)	A1	14.4	押印	K0174
623	常陸	壺	体	SD1(83-104)	A1	2.6		K0129	672	常陸	壺	体	SD1(83-105)	A1	20.2	押印	K0226
624	常陸	壺	体	SD1(83-104)	A1	5.1		K0131	673	常陸	壺	体	SD1(83-105)	A1	3.8	押印	K0179
625	常陸	壺	口	SD1(83-104)	A1	5.7		K0133	674	常陸	壺	体	SD1(83-105)	A1	4.8		K0231
626	常陸	壺	体	SD1(83-104)	A1	12.2		K0135	675	常陸	壺	体	SD1(83-105)	A1	6.4		K0171
627	常陸	壺	体	SD1(83-104)	A1	35.4		K0138	676	常陸	壺	体	SD1(83-105)	A1	4.2		K0232
628	常陸	壺	体	SD1(83-104)	A1	11.1		K0137	677	常陸	壺	口	SD1(83-105)	A1	12.9	折ノ股形	K0233

表12-6 遺物観察表 (国産陶器)

序番号	産地	器種	部位	口上直径	口径	重量 (g)	備考	記録番号	序番号	産地	器種	部位	口上直径	口径	重量 (g)	備考	記録番号
678	香清	甕	体	SD1(83-105)	A1	5.1	口上内巻	RO324	727	香清	甕	口	SD1(83-104)	A1	3.5		RO366
679	香清	甕	体	SD1(83-105)	A1	3.2		RO325	728	香清	甕	体	SD1(83-105)	A1	26.6		RO321
680	香清	甕	体	SD1(83-105)	A1	5.0		RO326	729	香清	甕	体	SD1(83-105)	A1	32.6		RO325
681	香清	甕	体	SD1(83-105)	A1	16.2		RO327	730	香清	甕	体	SD1(83-105)	A1	6.3		RO328
682	香清	甕	体	SD1(83-105)	A1	10.9		RO328	731	香清	甕	底一体形	SD1(83-105)	A1	6.4		RO329
683	香清	甕	体	SD1(83-105)	A1	11.5		RO329	732	香清	甕	蓋	SD1(83-105)	A1	13.9		RO328
684	香清	甕	体	SD1(83-104)	A1	23.8		RO330	733	香清	片山鉢	体	SD1(83-105)	A1	32.8		RO329
685	香清	甕	体	SD1(82-104)	A1	13.1		RO331	734	香清	甕	口	SD1(83-105)	A1	4.5		RO333
686	香清	甕	体	SD1(82-104)	A1	20.1		RO332	735	香清	甕	体	SD1(83-105)	A1	10.1		RO334
687	香清	甕	体	SD1(82-104)	A1	7.0		RO360	736	香清	甕	体	SD1(83-105)	A1	41.7		RO335
688	香清	甕	体	SD1(82-104)	A1	5.0		RO361	737	香清	片山鉢	口	SD1(83-105)	A1	21.5		RO336
689	香清	片山鉢	口	SD1(82-104)	A1	10.1		RO362	738	香清	片山鉢	体	SD1(83-105)	A1	9.5		RO337
690	香清	片山鉢	口	SD1(82-104)	A1	7.6		RO363	739	香清	甕	口	SD1(83-105)	A1	2.0		RO339
691	香清	甕	口	SD1(82-104)	A1	17.5		RO364	740	香清	甕	体	SD1(83-105)	A1	31.0		RO341
692	香清	甕	底	SD1(82-104)	A1	33.5		RO365	741	香清	甕	体	SD1(83-105)	A1	35.5	片手	RO342
693	香清	甕	体	SD1(82-104)	A1	18.9		RO367	742	香清	甕	体	SD1(83-105)	A1	17.2		RO341
694	香清	甕	口縁部	SD1(82-104)	A1	45.6		RO372	743	香清	甕	体	SD1(83-105)	A1	19.5	片手	RO343
695	香清	甕	体	SD1(82-104)	A1	6.2		RO366	744	香清	甕	体	SD1(83-105)	A1	8.7		RO346
696	香清	甕	体	SD1(82-104)	A1	3.1		RO369	745	香清	甕	体	SD1(83-105)	A1	5.8		RO347
697	香清	甕	口	SD1(82-104)	A1	23.4		RO373	746	香清	甕	体	SD1(83-105)	A1	3.8		RO348
698	香清	甕	底	SD1(82-104)	A1	33.8	口縁合	RO374	747	香清	甕	体	SD1	A1	20.4		RO349
699	香清	甕	体	SD1(82-104)	A1	37.8		RO375	748	香清	甕	体	SD1(82-104)	A1	15.5		RO373
700	香清	甕	体	SD1(82-104)	A1	22.5		RO376	749	香清	甕	口縁部	SD1	A1	44.9		RO377
701	香清	甕	体	SD1(82-104)	A1	7.4		RO377								RO380	
702	香清	甕	体	SD1(82-105)	A1	3.8		RO378								RO379	
703	香清	片山鉢	体	SD1(82-105)	A1	43.0		RO379	750	香清	甕	体	SD1(82-104)	A1	31.0		RO383
704	香清	甕	口	SD1(82-105)	A1	8.5		RO385								RO382	
705	香清	甕	体	SD1(82-105)	A1	19.7		RO387	751	香清	甕	体	SD1(82-104)	A1	32.1	口縁合	RO340
706	香清	甕	体	SD1(82-105)	A1	102.8		RO390	752	香清	甕	体	SD1(82-104)	A1	31.0		RO338
707	香清	片山鉢	体	SD1(82-105)	A1	19.0		RO391								RO354	
708	香清	片山鉢	口	SD1(82-105)	A1	7.7		RO395								RO375	
709	香清	片山鉢	口	SD1(82-105)	A1	0.9		RO396	753	香清	片山鉢	体	SD1(83-105)	A1	71.2		RO364
710	香清	片山鉢	体	SD1(83-105)	A1	6.8	口縁合	RO397								RO366	
711	香清	甕	体	SD1(81-105)	A1	8.6		RO398								RO323	
712	香清	片山鉢	口一体	SD1(83-105)	A1	34.8		RO399	754	香清	片山鉢	体	SD1(83-105)	A1	11.2	ケズリ	RO344
713	香清	片山鉢	口	SD1(83-104)	A1	4.9		RO396								RO388	
714	香清	甕	体	SD1(83-104)	A1	3.7		RO340								RO347	
715	香清	甕	体	SD1(83-104)	A1	13.5		RO347								RO380	
716	香清	甕	口	SD1(83-104)	A1	5.7		RO349								RO343	
717	香清	甕	体	SD1(83-104)	A1	9.7		RO351								RO353	
718	香清	甕	体	SD1(83-104)	A1	11.1		RO352								RO361	
719	香清	甕	体	SD1(83-104)	A1	27.4		RO354								RO363	
720	香清	甕	体	SD1(83-104)	A1	3.7		RO356								RO345	
721	香清	甕	口	SD1(83-104)	A1	2.7		RO357	755	香清	片山鉢	体	SD1(83-104)	A1	25.4		RO342
722	香清	甕	体	SD1(83-104)	A1	37.4		RO359								RO357	
723	香清	甕	体	SD1(83-104)	A1	13.4		RO360	757	香清	甕	体	SD1(83-105)	A1	31.0		RO373
724	香清	甕	体	SD1(83-104)	A1	4.5		RO361								RO355	
725	香清	甕	体	SD1(83-104)	A1	14.4		RO362	758	香清	甕	口縁	SD1(82-104)	A1	47.7		RO357
726	香清	片山鉢	体	SD1(83-104)	A1	4.1		RO363	759	香清	甕	体	SD1(83-105)	A1	17.1		RO321
																	RO350

表12-7 遺物観察表 (国産陶器)

遺物番号	産地	形状	器種	出土遺物	埋蔵	重量 (g)	備考	登録番号	産地	形状	器種	出土遺物	埋蔵	重量 (g)	備考	登録番号		
700	宮津小	山車瓶	体	SD1 (92-107)	A1	1.3		K0631	822	宮津	壺	体	SD1 (92-103-104)	カクラン	22.7		K0630	
741	宮津小	壺	体	SD1 (92-103)	A1	8.6	中央陶器片欠	K0632	823	宮津	壺	体	SD1 (91-101)	カクラン	13.7		K0625	
742	宮津小	壺	体	SD1 (92-104)	A1	6.0		K0681	824	宮津	壺	胴	SD1 (91-101)	カクラン	7.9		K0626	
743	宮津	壺	体	SD1 (92-104)	A1	38.5		K0692	825	宮津	壺	体	SD1 (91-101)	カクラン	11.6		K0627	
744	宮津	壺	体	SD1 (93-104)	A1	15.2		K06123	826	宮津	鉢	口縁部	SD1 (91-101)	カクラン	2.1		K0628	
745	宮津	壺	体	SD1 (93-104)	A1	11.8		K06149	827	宮津小	壺	体	SD1 (91-101)	カクラン	18.9	福岡文小	K0630	
746	宮津	壺	体	SD1	A1	726.3	押印	K06205	828	宮津	壺	口縁部	SD1 (91-101)	カクラン	31.2		K0631	
								K06237	829	宮津	壺	体	SD1 (93-101)	カクラン	8.3		K0633	
								K06328	830	宮津小	壺	体	SD1 (93-101)	カクラン	9.5	押印	K0634	
								K06312	831	宮津	壺	体	SD1 (93-101)	カクラン	16.6		K0635	
								K06547	832	宮津	壺	体	SD1 (92-103)	カクラン	7.0		K0639	
								K06611	833	宮津	鉢	口縁部	SD1 (92-101)	カクラン	10.5		K0611	
747	宮津	壺	体	SD1 (93-104)	A1	121.2		K06305	834	宮津	壺	体	SD1 (92-103)	カクラン	19.3	押印	K0642	
								K06338	835	宮津	壺	口縁部	SD1 (92-103)	カクラン	21.2		K0633	
								K0675	836	宮津	壺	体	SD1 (92-103)	カクラン	11.4		K0644	
								K06780	837	宮津	壺	体	SD1 (92-103)	カクラン	21.9		K0643	
748	宮津	壺	体	SD1	A1	80.3		K06493	838	宮津	壺	体	SD1 (92-103)	カクラン	19.3		K0646	
								K06413	839	宮津	壺	体	SD1 (92-103)	カクラン	38.9		K0647	
								K06673	840	宮津	壺	体	SD1 (92-103)	カクラン	21.7		K0648	
								K06792	841	宮津	壺	体	SD1 (93-101)	カクラン	18.1	押印	K0649	
749	宮津	鉢	体	SD1 (93-104)	A1	2.0		K06133	842	須磨器	壺	体	SD1 (93-103)	カクラン	8.7	タタキ	K0650	
770	宮津	壺	体	SD1 (93-104)	A1	9.8		K06135	843	須磨器	壺	体	SD1 (93-103)	カクラン	22.1	タタキ	K0651	
771	宮津	壺	体	SD1 (92-103)	A1	19.4		K06178	844	須磨器	壺	体	SD1 (92-103)	カクラン	23.7	タタキ	K0652	
772	宮津	壺	体	SD1 (92-103)	A1	11.7		K06181	845	宮津	壺	口縁部	SD1 (91-104)	カクラン	6.1		K0653	
773	宮津小	壺	体	SD1 (92-103)	A1	7.8		K06197	846	宮津	鉢	口縁部	SD1 (92-104)	カクラン	3.6	乳白	K0657	
774	宮津	壺	口縁部	SD1 (92-104)	A1	11.8		K06230	847	宮津	壺	体	SD1 (91-104)	カクラン	38.9		K0656	
775	宮津	壺	体	SD1 (92-103)	A1	16.7		K06227	848	宮津	壺	口縁部	SD1	カクラン	33.2		K0640	
776	宮津	壺	体	SD1 (93-103)	A1	17.4		K06421										
777	宮津	壺	口縁部	SD1 (93-103)	A1	5.0		K06422										
778	宮津	壺	体	SD1 (93-104)	A1	92.8	押印 尻一穴	K06460										
779	宮津	壺	体	SD1 (93-104)	A1	66.5		K06461										
779	宮津	壺	体	SD1 (93-104)	A1	8.1	右上裏面(輸入欠)	K06468										
780	筑山群	壺	体	SD1 (92-105)	A1	38.5		K06433	931	須磨器	片口鉢	口縁部	SD1	11	13.2		K0658	
781	筑山群	壺	体	SD1	A1	72.0	タタキ	K06476	932	宮津	壺	体	SD1	8	96.3	371番合	押印	K06465
								K06448	933	宮津	壺	体	SD1	8	72.0	押印	K06466	
840	宮津	鉢	体	SD1 (93-103)	カクラン	9.2	輪合	K0636	934	宮津	壺	体	SD1	8	75.7		K06467	
841	宮津	鉢	体	SD1 (92-103)	カクラン	2.6		K0637	935	宮津	壺	体	SD1	7	49.0		K06463	
842	宮津	壺	体	SD1	カクラン	16.1	押印	K06477	936	須磨器	壺	体	SD1 (92-103)	タタキ	7.0	タタキ	K0659	
843	宮津	壺	体	SD1	カクラン	29.0	押印	K06478	937	須磨器	壺	体	SD1	2	3.8	タタキ	K06738	
844	宮津	片口鉢	口縁部	SD1	カクラン	172.2		K06479	938	宮津	壺	体	SD1	2	32.3		K0659	
845	宮津	壺	体	SD1	カクラン	32.7		K06716	939				SD1	2	9.0		K0674	
846	宮津	壺	体	SD1	カクラン	75.8	714番合	K06113	940	宮津	壺	体	SD1	2	19.4		K06469	
								K06711	941	宮津	壺	体	SD1	2	31.9		K06461	
846	宮津	壺	体	SD1 (92-103)	カクラン	332.4		K06711	942	宮津	壺	口縁部	SD1	2	4.2		K06467	
847	宮津	片口鉢	体	SD1 (92-103)	カクラン	37.2		K06718	943	宮津	壺	体	SD1 (92-103)	カクラン	117.2		K06467	
848	宮津	壺	体	SD1 (92-103)	カクラン	21.8		K06466	944	宮津	片口鉢	口縁部	SD1 (92-103)	カクラン	1180.5		K06740	
849	宮津	片口鉢	口縁部	SD1 (92-103)	カクラン	7.7		K06466	945	須磨器	壺	体	SD1 (92-103)	カクラン	3.8		K06731	
850	宮津	片口鉢	口縁部	SD1 (92-103)	カクラン	3.0		K06466	946	須磨器	壺	体	SD1 (92-103)	カクラン	3.8	タタキ	K06737	
851	宮津	山車瓶	体	SD1 (92-103)	カクラン	8.5		K06466	947	宮津	壺	体	SD1 (92-103)	カクラン	11.2		K06735	
852	宮津	壺	体	SD1 (92-103)	カクラン	8.5		K06466	948	宮津小	壺	体	SD1 (92-103)	カクラン	1	4.1		K06735

表12-8 遺物観察表 (国産陶器)

序 号	産地	器種	部位	口上遺構	口径	重量 (g)	備考	記録番号	序 号	産地	器種	部位	口上遺構	口径	重量 (g)	備考	記録番号		
949	相摩岳	甕	体	SD2 トロンク	1	3.1	ナキキ	RO6736		常滑	甕	腹部	SD4(82-104)	A1	1.6		RO122		
950	常滑	井口鉢	体	S02(79-105) I	42.0			RO749		常滑	甕	体	SD4(82-105)	A1	2.9		RO130		
961	奈良	甕	体	東馬	耳取	30.3		RO6		常滑	甕	体	SD4(82-105)	A1	3.4		RO189		
962	奈良	甕	体	東馬	耳取	8.4	押取	RO7		常滑	甕	体	SD4(82-105)	A1	1.9		RO198		
963	奈良	甕	体	東馬	耳取	71.3		RO23		常滑	甕	体	SD4(82-104)	A1	1.8		RO269		
964	奈良	甕	体	東馬	耳取	19.2		RO20		常滑	甕	体	SD4(82-104)	A1	2.5		RO275		
965	奈良	甕	体	東馬	耳取	25.0	押取	RO21		常滑	甕	体	SD4(82-104)	A1	3.9		RO279		
966	奈良	甕	体	東馬	耳取	31.3		RO22		常滑	甕	体	SD4(82-104)	A1	2.3		RO298		
967	奈良	甕	体	クレーニング		80.4	押取	RO477		常滑	甕	体	SD4(82-105)	A1	0.9		RO329		
968	奈良	甕	体	クレーニング		39.5		RO478		常滑	甕	体	SD4(82-104)	A1	2.5		RO330		
969	奈良	甕	体	南朝鉢巻部	耳取	16.9		RO479		常滑	甕	体	SD4(82-104)	A1	2.3		RO353		
970	奈良	甕	体	南朝鉢巻部	耳取	10.7		RO479		常滑	甕	体	SD4(82-104)	A1	2.6		RO353		
971	常滑	甕	体	東馬	耳取	30.2		RO9		奈良	甕	腹部	SD4(83-104)	A1	6.1		RO377		
972	常滑	甕	体	東馬	耳取	31.9		RO12		奈良	甕	腹部	SD4(83-104)	A1	0.7		RO380		
973	常滑	甕	体	東馬	耳取	13.8		RO15		奈良	甕	腹部	SD4(83-104)	A1	0.5		RO380		
974	常滑	甕	体	東馬	耳取	11.5	ナズリ	RO16		奈良	甕	腹部	SD4(83-104)	A1	0.3		RO380		
975	常滑	甕	体	東馬	耳取	2.8	押取	RO13		奈良	甕	腹部	SD4(83-104)	A1	2.8		RO399		
976	常滑	甕	体	東馬	耳取	9.7		RO14		奈良	甕	腹部	SD4(83-104)	A1	3.8	押取	RO401		
977	常滑	甕	体	東馬	耳取	20.4		RO17		常滑	甕	体	SD4(82-104)	A1	3.2		RO467		
978	常滑	甕	体	南朝鉢巻部	耳取	35.3	押取	RO475		常滑	甕	体	SD4(83-105)	耳取	1.7		RO467		
979	常滑	甕	体	南朝鉢巻部	耳取	7.4		RO49		常滑	甕	体	SD4(82-105)	耳取	3.4		RO56		
980	常滑	鉢	体	東馬	耳取	9.1	ナズリ	RO10		常滑	甕	体	SD4(82-105)	C1-C8	4.9		RO722		
981	常滑	甕	体	東馬	耳取	14.5	押取	RO11		常滑	井口鉢	体	SD1	C1-C9	13.2		RO725		
982	奈良	甕	体	東馬	耳取	9.2	押取	RO18		奈良	甕	体	SD1(82-105+106)	C1-C9	9.9	9e	RO736		
983	奈良	甕	体	東馬	耳取	13.4	押取	RO18		奈良	甕	体	SD1	C1-C9	4.2	9e	RO737		
984	奈良	甕	体	東馬	耳取	9.6	ナズリ	RO15		奈良	甕	体	SD1	C1-C13	20.9		RO741		
985	奈良	甕	体	東馬	耳取	3.6	ナズリ	RO1		奈良	甕	体	SD1	C1-C15	2.0		RO749		
986	奈良	甕	体	東馬	耳取	12.7		RO779		奈良	甕	体	SD1		1.0	0.3	RO782		
987	奈良	甕	体	東馬	耳取	23.4		RO774		不明	甕	体	SD1	C1-C9	1.0	0.8	0.7	RO781	
988	奈良	甕	体	東馬	耳取	8.1		RO773		奈良	甕	体	SD1		13.7	0e	RO799		
989	奈良	甕	体	東馬	耳取	13.1	ナズリ	RO2		奈良	甕	体	SD2		11	2.1	9e	RO770	
990	奈良	甕	体	東馬	耳取	11.3		RO3		奈良	甕	体	SD2		7	3.3		RO764	
	奈良	甕	体	東馬	耳取	3.6		RO490		奈良	甕	体	SD1		1.6	1.0	0.8	RO319	
	奈良	甕	体	東馬	耳取	44.5	9e	RO471		奈良	甕	体	SD1		1.6	1.0	0.8	RO320	
	奈良	甕	体	東馬	耳取	0.7		RO583		奈良	甕	体	SD1		37.0	0e	0.8	RO708	
	奈良	甕	体	東馬	耳取	0.8		RO604		奈良	甕	体	SD1		11	0.8		RO709	
	奈良	甕	体	東馬	耳取	1.6	557と混合	RO606		奈良	甕	体	SD1		A3	1.7	0e	RO551	
	奈良	甕	体	東馬	耳取	2.1		RO676		奈良	甕	体	SD1		A1	3.2	9e	RO689	
	奈良	甕	体	東馬	耳取	2.5		RO639		奈良	甕	体	SD1		A1	3.9	9e	RO661	
	奈良	甕	体	東馬	耳取	3.4		RO564		奈良	甕	体	SD1		A1	3.9	9e	RO450	
	奈良	甕	体	東馬	耳取	1.3		RO567		奈良	甕	体	SD1		A1	37.0	0e	0.8	RO429
	奈良	甕	体	東馬	耳取	3.1		RO568		奈良	甕	体	SD1		A1	3.3	0e	RO460	
	奈良	甕	体	東馬	耳取	1.4		RO569		奈良	甕	体	SD1		A1	6.3	0e	RO710	
	奈良	甕	体	東馬	耳取	0.6		RO570		奈良	甕	体	SD1		A1	0.6		RO3	
	奈良	甕	体	東馬	耳取	2.3		RO571		奈良	甕	体	SD1		A1	4.9	0e	RO34	
	奈良	甕	体	東馬	耳取	1.4		RO572		奈良	甕	体	SD1		A1	3.5	0e	RO772	
	奈良	甕	体	東馬	耳取	2.9		RO499		奈良	甕	体	SD1		A2	2.9		RO4	

表13 遺物観察表 (輸入陶磁器)

品目番号	産別	器種	遺物名	器立	重量(g)	色調	備考	品目番号
111	白磁	蓋	SD1	C1-C9	3.4	3Y 7/2灰白		Reg2
112	白磁	蓋筒	SD1	C1-C9	2.8	7.5Y 7/1灰白		Reg3
113	白磁	蓋筒	SD1	C1-C9	3.0	3Y 7/2灰白		Reg2
114	白磁	瓶	SD1	C10-C13	5.6	5Y 7/2灰白		Reg75
317	白磁	瓶	SD1	B6	8.1	5GY 8/1灰白		Reg94
318	青磁	壺蓋小	SD1	B6	3.7	7.5Y 7/1灰白		Reg69
319	青白磁	合子等	SD1	B4	2.0	5GY 8/1灰白		Reg69
782	白磁	瓶	SD1(82-100)	A1	1.6	2.5Y 7/1灰白		Reg96
783	白磁	蓋筒	SD1(82-100)	A1	1.5	3Y 8/1灰白		Reg5
784	白磁	蓋筒	SD1(82-100)	A1	4.6	10Y 7/2灰白		Reg14
785	白磁	瓶	SD1(82-100)	A1	2.0	5Y 6/2灰オレンジ		Reg9
786	白磁	瓶	SD1(82-100)	A1	1.9	5Y 8/1灰白		Reg9
787	白磁	瓶	SD1(83-100)	A1	1.9	3.5Y 7/5灰白		Reg77
788	白磁	壺蓋	SD1(83-100)	A1	16.2	7.5Y 7/1灰白	目録	Reg23
789	白磁	瓶	SD1(83-100)	A1	1.1	2.5Y 8/1灰白		Reg26
790	白磁	蓋筒	SD1(83-100)	A1	3.1	2.5Y 7/2灰白		Reg25
791	白磁	蓋筒	SD1(83-100)	A1	4.6	7.5Y 7/1灰白		Reg30
792	白磁	壺蓋	SD1(83-100)	A1	3.2	3.5Y 8/1灰白	目録	Reg8
793	白磁	瓶	SD1(83-100)	A1	3.0	3.5Y 7/5灰白		Reg5
794	青磁	瓶	SD1(83-100)	A1	2.7	7.5Y 6/2灰オレンジ		Reg29
795	青磁	壺?	SD1(83-100)	A1	4.7	10Y 7/1灰白		Reg37
796	青磁	瓶?	SD1(83-100)	A1	1.4	5Y 5/2灰オレンジ	見取表系	Reg39
797	青磁	瓶	SD1(83-100)	A1	3.8	7.5Y 6/2灰オレンジ	見取表系	Reg2
798	白磁	瓶	SD1(82-100)	A1	2.5	2.5Y 8/1灰白		Reg1
799	灰白磁	合子等	SD1(83-100)	A1	1.2	5GY 7/1灰オレンジ		Reg31
800	青白磁	瓶	SD1(83-100)	A1	0.8	7.5Y 6/1 青緑灰		Reg38
801	青白磁	合子等	SD1(83-100)	A1	1.4	5GY 7/1灰オレンジ		Reg32
802	中国陶器	壺筒	SD1(82-100)	A1	1.4	3Y 7/2灰オレンジ	802と同一	Reg5
803	中国陶器	蓋筒	SD1(82-100)	A1	1.8	5Y 7/2灰オレンジ	802と同一	Reg4
804	中国陶器	蓋筒	SD1(83-100)	A1	4.6	5Y 6/2灰オレンジ		Reg15
805	中国陶器	蓋筒	SD1(83-100)	A1	5.6	5Y 7/1灰	此灰	Reg24
806	中国陶器	壺筒	SD1(83-100)	A1	4.6	3Y 6/2灰オレンジ		Reg20
807	中国陶器	壺	SD1	A5	4.9	5Y 6/3オレンジ黄	白磁小	Reg54
808	青白磁	瓶	SD1(82-100)	A2	0.8	2.5Y 8/1灰白		Reg53
809	青磁	瓶	SD1	A3	7.7	7.5Y 6/2灰オレンジ	見取表系 片割タシ箱文	Reg87
850	白磁	蓋筒	(80-100)純金法製	1-8号	3.9	5Y 6/2灰オレンジ		Reg73
851	白磁	瓶	SD1(81-100)	■製	3.4	5Y 7/2灰白		Reg4
852	白磁	瓶	SD1(81-100)	■製	1.5	5Y 6/2灰オレンジ		Reg6
853	白磁	壺蓋	SD1(81-100)	■製	1.9	3.5Y 7/5灰白		Reg7
854	白磁	壺蓋	SD1(81-100)	■製	4.7	2.5Y 8/1オレンジ		Reg10
855	青磁	瓶	SD1(81-100)	■製	2.5	5GY 7/1灰オレンジ		Reg5
856	青磁	瓶	SD1(81-100)	■製	2.1	7.5Y 5/2灰オレンジ		Reg11
857	中国陶器	蓋筒	SD1(82-100)	■製	3.0	7.5Y 6/2灰オレンジ		Reg9
858	白磁	蓋筒	SD1(82-100+100)	オクタン	2.3	10Y 7/2灰白		Reg17
859	中国陶器	壺筒	SD1(83-100)	A1	2.6	3.5Y 7/5灰白		Reg25
951	白磁	壺蓋	SD1	2	7.1	3.5Y 7/5灰白		Reg67
952	白磁	壺	SD2	2	1.9	3Y 7/2灰白		Reg68
953	白磁	片耳壺	SD2	8	24.1	5Y 7/2灰白	目録	Reg89
954	中国陶器	蓋筒	SD2	9-10	14.1	2.5Y 8/4黄灰		Reg71
955	白磁	壺	SD2	9-10	2.5	7.5Y 7/1灰白	目録	Reg70
991	中国陶器	蓋筒	青磁	■製	10.5	10Y8 5/3に近い黄緑		Reg3
992	白磁	壺	I-III製		1.9	3.5Y 7/1灰白		Reg1
	白磁	瓶	SD1	A5	1.2			Reg55
	白磁	壺	SD1	A3	0.9			Reg56
	白磁	壺	SD1	タリ-ハンダ	1.8			Reg63
	白磁	壺	SD2	タリ-ハンダ	1.5			Reg72
	白磁		SD2(79-80-107)	A1	2.5			Reg64

表14 遺物観察表(瓦)

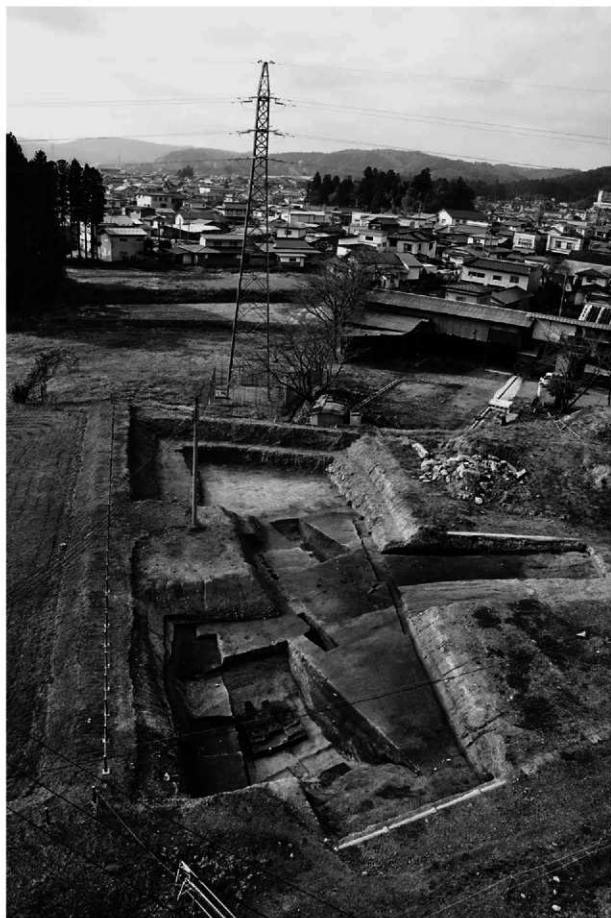
調査番号	遺物	遺物名	形状	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	記録番号
1065	軒丸	SD1	A2	2.1	2.5	1.2	6.3	RT31
1066	軒丸	SD1	CH-C15	4.1	3.6	2.3	31.3	RT82
1067	軒平	SD1(89-103)	B14	4.1	2.9	2.2	36.8	RT16
1068	軒平	SD3 トレンチ(SD1)	C1-C9	4.3	3.5	1.5	35.6	RT69
1069	軒平	SD2(89-107)	1	3.5	4.1	1.1	13.0	RT93
1070	平	SD1(82-103)	A1	7.7	6.8	2.0	157.0	RT13
1071	平	SD1(92-106+106)	C1-C9	3.2	11.0	2.0	129.7	RT65
1072	平	SD1	C1-C9	3.5	3.1	2.3	168.6	RT87
1073	千	SD1	CH-C15	7.0	8.1	1.1	82.3	RT71
1074	千	SD1	CH-C15	7.6	5.6	1.5	113.6	RT84
1075	千	SD1 トレンチ	C1-C9	6.7	8.9	2.9	162.4	RT88
1076	千	SD2 トレンチ	2	5.6	6.3	2.2	118.8	RT67
1077	千	SD2	2	7.7	6.1	1.7	98.4	RT109
1078	丸	SD2 トレンチ	2	7.0	6.9	1.9	77.6	RT99
	千	庭積	目切	2.3	1.8	0.6	2.9	RT1
	千	中～西側	目切	7.5	4.0	0.9	9.7	RT3
	千	中～西側	目切	0.7	3.2	0.7	3.9	RT3
		SD1	C1-C9	3.0	4.4	1.3	12.0	RT4
		SD1(81-103)	目切	9.9	1.7	0.4	3.1	RT5
		SD1(81-103)	目切	3.5	3.9	0.6	3.1	RT6
	千	SD1(82-104)	A1	2.5	1.6	1.4	6.9	RT7
		SD1(83-105)	A1	1.0	3.9	1.3	6.4	RT8
	千	SD1(82-104)	A1	2.2	4.0	1.5	10.2	RT9
		SD1(83-105)	A1	3.7	4.1	1.9	21.1	RT10
	丸	SD1(82-103)	A1	4.5	4.2	1.3	31.6	RT11
	-	SD1(82-103)	A1	4.1	3.5	0.4	6.4	RT12
	丸	SD1(82-103)	A1	6.2	4.6	1.4	47.3	RT14
	千	SD1(83-105)	A1	2.7	3.7	0.6	4.6	RT15
	千	SD1(82-103)	A1	2.2	3.1	0.4	2.8	RT16
	千	SD1(89-103)	B14	2.5	6.2	1.3	33.1	RT17
	丸	SD1(81-103)	B14	6.5	3.9	1.3	46.4	RT19
	-	SD1(89-104)	A1	2.2	1.6	0.4	3.7	RT20
	丸	SD1(82-103)	A1	2.0	2.1	2.1	6.6	RT21
	-	SD1(82-103)	A1	2.0	2.8	0.3	2.2	RT22
	平	SD1(82-104)	A1	4.0	1.1	1.2	11.9	RT23
	-	SD1(82-104)	A1	3.1	1.8	0.9	4.3	RT24
	平	SD1(82-103)	A1	2.2	1.7	0.7	2.7	RT25
	-	SD1(83-104)	A1	2.8	2.1	0.3	3.2	RT26
	平	SD1(82-103)	A1	1.7	2.3	0.8	3.2	RT27
	丸	SD1(82-103)	A1	3.1	4.9	1.7	36.3	RT28
	-	SD1(82-103)	A1	2.0	1.7	1.3	5.2	RT29
	千	SD1	A2	3.9	2.2	1.8	27.9	RT30
	-	SD1	A2	2.0	1.7	0.7	3.1	RT32
	千	SD1	A2	3.1	1.6	0.5	2.7	RT33
	-	SD1	A2	4.1	1.8	1.3	7.2	RT34
	千	SD1	A2	1.0	2.3	0.7	2.3	RT35
	千	SD1	A2	1.4	1.6	0.5	1.4	RT36
	平	SD1	AP	1.5	3.7	1.7	6.0	RT37
		SD1	AP	1.7	3.3	1.3	12.5	RT38
	丸	SD1	AP	3.0	4.1	1.8	38.9	RT39
		SD1	AP	3.9	1.5	3.3	15.4	RT-0
		SD1	AP	1.7	1.9	0.4	1.3	RT-1
		SD1	AP	2.8	1.5	0.2	1.4	RT-2
		SD1	AP	2.0	1.6	0.3	0.8	RT-3
		SD1	AP	4.2	2.1	1.1	16.1	RT-4
	千	SD1	A2	6.0	2.1	2.4	60.5	RT-5
	-	SD1	A2	3.2	2.6	0.4	5.1	RT-6
	千	SD1	B6	2.1	3.0	1.2	14.2	RT-7
	丸	SD1	B6	4.1	2.3	1.1	15.4	RT-8

調査番号	遺物	遺物名	形状	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	記録番号
	-	SD1	B6	2.0	0.9	0.7	1.0	RT-9
	丸	SD1	A3	4.7	4.2	1.3	35.1	RT59
	千	SD1	A3	2.3	3.7	0.7	6.0	RT51
	-	SD1	A3	1.7	2.1	0.4	1.7	RT52
	-	SD1	A3	2.9	1.4	0.9	4.6	RT53
	-	SD1	A3	2.1	1.6	0.7	3.2	RT54
	-	SD1	A3	2.1	0.7	0.4	1.9	RT55
	千	SD1	A3	3.1	2.7	1.3	19.0	RT56
	-	SD1	A3	3.5	2.3	1.8	21.3	RT57
	千	SD1(83-104)	B6	2.5	2.7	0.6	2.8	RT58
	-	SD1	B6	1.9	1.3	0.7	2.3	RT59
	-	SD1	B6	2.2	2.0	0.9	4.3	RT60
	-	SD1	B4-B6	1.6	0.6	0.3	0.9	RT61
	丸	SD1	B4-B6	2.8	2.1	0.9	7.8	RT62
	千	SD1	B4	3.0	2.3	0.9	6.7	RT63
	千	SD1(89-103)	C1-C9	6.1	3.0	1.1	31.0	RT64
	千	SD1	C1-C9	2.6	1.1	1.7	7.8	RT66
	千	SD1	C1-C9	4.1	3.2	2.3	49.4	RT68
	丸	SD1	C1-C9	3.0	3.0	1.6	31.3	RT69
	丸	SD1	C1-C9	3.3	4.4	3.5	51.3	RT70
	千	SD1	CH-C15	4.8	3.2	0.9	20.2	RT72
	千	SD1	CH-C15	2.3	2.7	1.1	11.4	RT73
	丸	SD1	CH-C15	4.7	4.4	1.7	46.0	RT74
	丸	SD1	CH-C15	3.8	3.1	0.7	5.3	RT75
	-	SD1	CH-C15	2.8	2.4	1.7	15.7	RT76
	-	SD1	CH-C15	2.7	2.4	0.4	3.6	RT77
	千	SD1	CH-C15	4.7	4.5	1.1	21.0	RT78
	丸	SD1	CH-C15	2.8	2.1	1.3	3.9	RT79
	千	SD1	CH-C15	8.3	5.8	1.8	101.9	RT80
	千	SD1	CH-C15	3.5	8.6	2.7	104.5	RT81
	-	SD1	CH-C15	2.0	1.1	1.1	3.1	RT83
	-	SD1	CH-C15	3.0	2.3	1.9	26.9	RT85
	千	SD1 トレンチ(SD1B)	C1-C9	3.1	3.3	0.7	6.6	RT86
	-	SD1 トレンチ(SD1B)	C1-C9	3.7	2.5	0.9	3.9	RT87
	丸	(79-106)	タテシ ンダ	7.2	6.4	1.7	89.0	RT90
	千	SD1(89-107)	1	2.1	2.4	1.8	13.7	RT91
	丸	SD1(89-107)	1	6.0	3.2	1.5	29.1	RT92
	千	SD1(89-107)	1	4.0	4.4	1.0	20.3	RT94
	千	SD1 トレンチ	1	3.8	4.9	1.1	27.0	RT95
	-	SD1 トレンチ	1	6.5	2.0	1.7	21.6	RT96
	千	SD1 トレンチ	2	3.8	7.2	1.6	51.0	RT98
	丸	SD1 トレンチ	2	3.9	7.8	1.6	56.8	RT100
	-	SD1 トレンチ	1	1.3	1.0	0.8	2.4	RT101
	千	SD1	タテシ ンダ	5.4	1.9	0.8	3.3	RT102
	丸	SD1	2	2.6	3.7	1.6	17.2	RT103
	-	SD1	2	3.2	1.5	0.8	4.3	RT104
	千	SD1	2	2.5	2.3	0.4	2.7	RT106
	丸	SD1	2	3.9	2.4	0.8	7.7	RT107
	千	SD1	2	2.5	4.7	1.3	16.3	RT108
	丸	SD1	2	3.1	3.3	1.8	23.9	RT109
	丸	SD1	3-6	2.2	1.7	0.3	1.3	RT110
	-	SD1	3-6	3.6	1.3	2.7	16.6	RT111
	-	SD1	3-6	1.6	2.1	0.3	0.8	RT112
	-	SD1	3-6	4.0	2.1	0.9	6.3	RT113
	千	SD1	3-6	2.5	2.7	0.8	3.6	RT114
	-	SD1	2	4.3	1.6	0.6	4.1	RT115
	千	SD1	2	1.9	2.0	1.0	3.5	RT116
	-	SD1	CH-C15	3.1	3.8	1.8	49.9	RT117

表15 遺物観察表 (木製品)

発掘番号	器種	通称名	層位	径寸	発掘番号
993	漆桶	SD2	20	72×13cm	EW1
994	漆桶	SD2	20	19.8×3.4×1.8cm	EW35
995	埴皮	SD7	15~18	4.7~3.4cm	EW7
996	漆桶	SD2	15~18	2.7×1.9/1.0cm	EW16
997	木製品	SD2	15~18	7.0×1.9×0.8cm	EW21
998	木製品	SD2	15~18	4.1×1.3×0.5cm	EW23
999	漆桶	SD2	15~18	12.0×2.6×3.0cm	EW20
1000	漆桶	SD2	15~18	10.8×3.0×1.5cm	EW24
1001	漆桶	SD2	15~18	7.1×7.2×2.6cm	EW17
1002	漆桶	SD2	15~18	8.8×2.1×1.0cm	EW5
1003	漆桶	SD7	15~18	11.1×1.5×1.4cm	EW6
1004	漆桶	SD2	15~18	6.8×2.2×0.9cm	EW10
	不明	SD2	15~18		EW2
	不明	SD2	15~18		EW3
	不明	SD2	15~18		EW C
	漆桶	SD2	15~18		EW8
	漆桶	SD2	15~18		EW9
	漆桶	SD2	15~18		EW11
	漆桶	SD7	15~18		EW12
	漆桶	SD2	15~18		EW13
	不明	SD2	15~18		EW14
	漆桶	SD7	15~18		EW15
	漆桶	SD2	15~18		EW18
	漆桶	SD2	15~18		EW19
	木製品	SD2	15~18		EW22
	漆桶	SD2	15~18		EW25
	漆桶	SD7	15~18		EW26
	埴皮	SD1	D9		EW27
	漆桶	SD1	C10~C15		EW28
	漆桶	SD1	C10~C15		EW29
	漆桶	SD1	C10~C15		EW30
	漆桶	SD1	C10~C15		EW31
	漆桶	SD1	C18		EW32
	漆桶片	SD1	C10~C15		EW33
	漆桶	SD2	20		EW34
	漆片	SD2	20		EW36
	漆片	SD2	20		EW37
	漆片	SD7	20		EW38
	漆片	SD2	20		EW39

圖 版



調査区全景① (N→)



調査区全景② (W→)



調査区全景③ (W→)



21SD1 調査状況 (W→)



21SD1 植物質遺存状態 (S→)



21SD1 断面 (E→)



21SD1・調査区断面 (W→)



21SD1・76SD3(1 トレンチ)
断面①



21SD1・76SD3(1 トレンチ)
断面②



21SD1-C層堆積状況

21SD1 北側検出状況 (E→)



21SD1-C層堆積状況



拡張トレンチ 検出状況





21SD2 調査状況 (W→)



21SD2 底面遺物 (993) 出土状況 (N→)



21SD2 断面① (W→)



21SD2 断面② (E→)



76SD3 検出① (W→)



76SD3 検出② (S→)

76SD3 断面① (a-a')

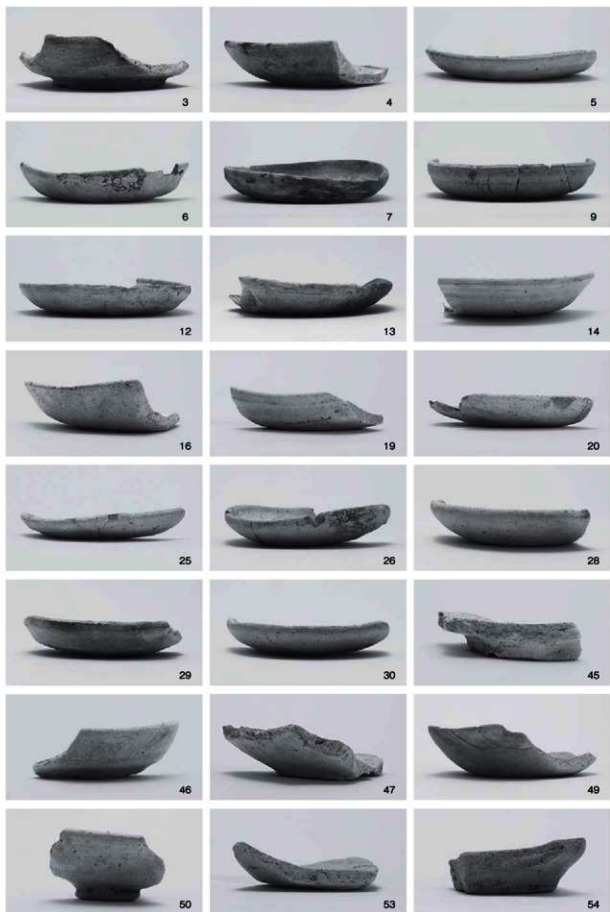


76SD3 断面②
2トレンチ

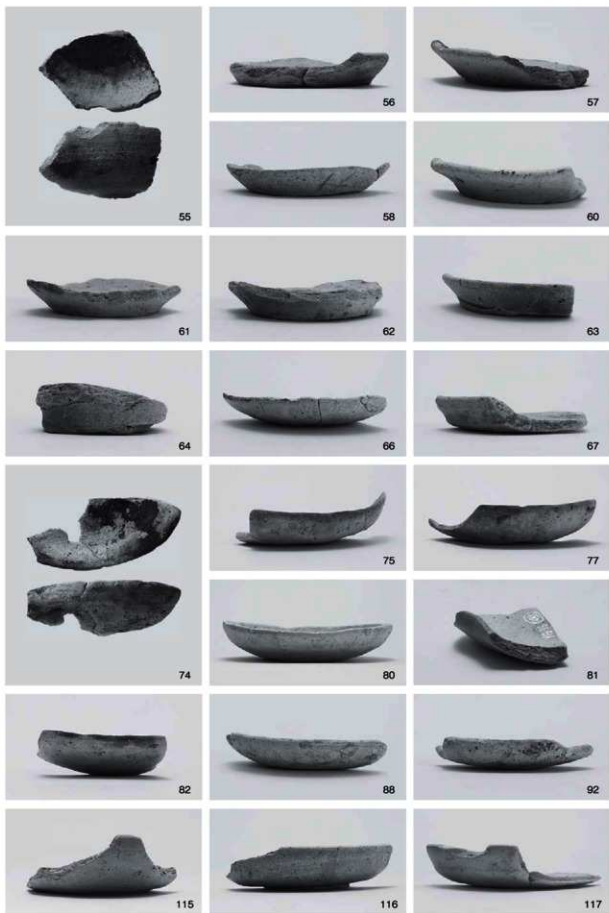


76SD3 断面③
2・3トレンチ

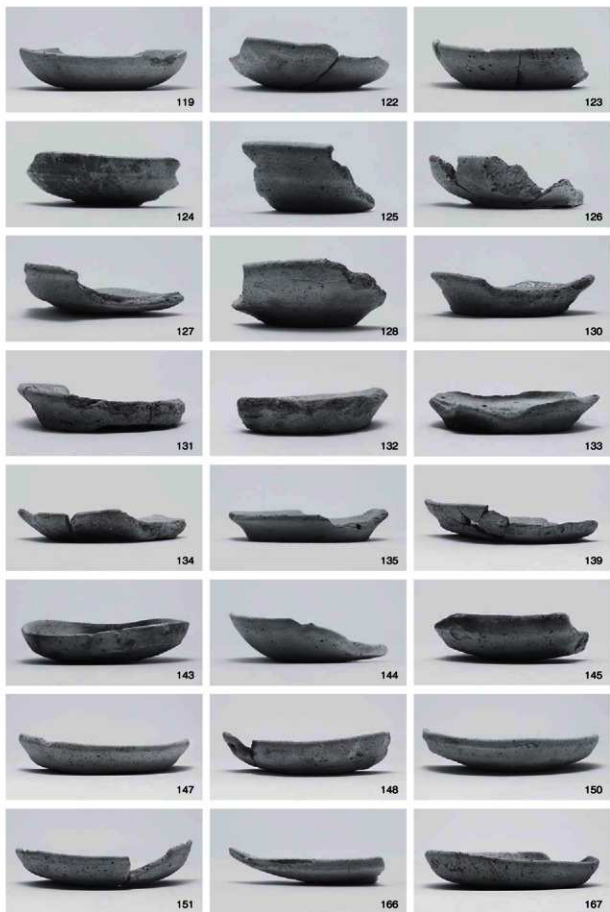


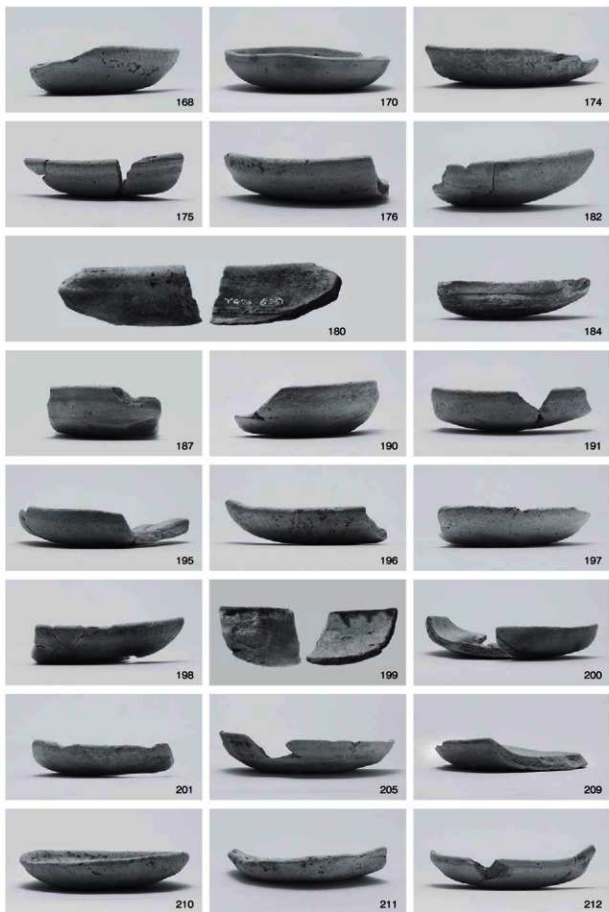


かわらけ①

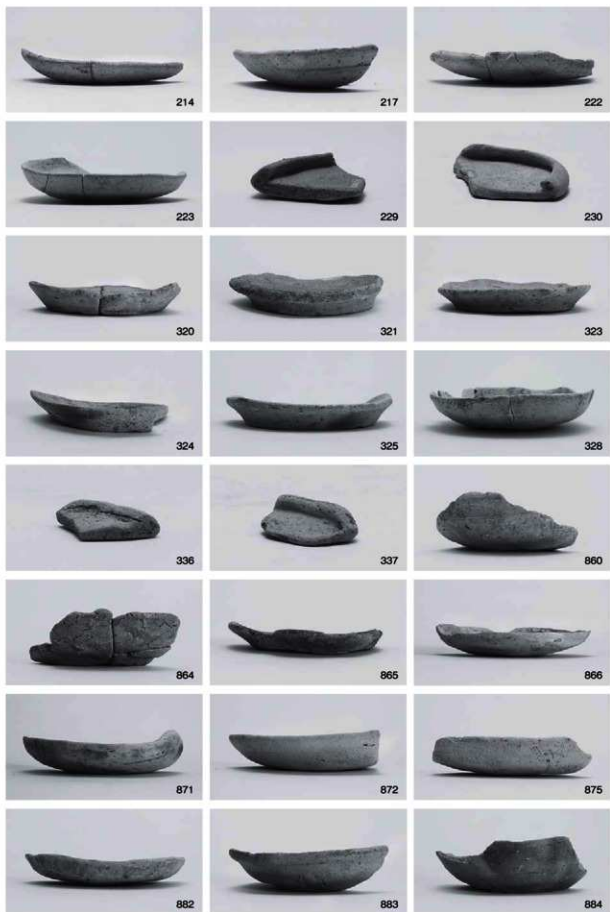


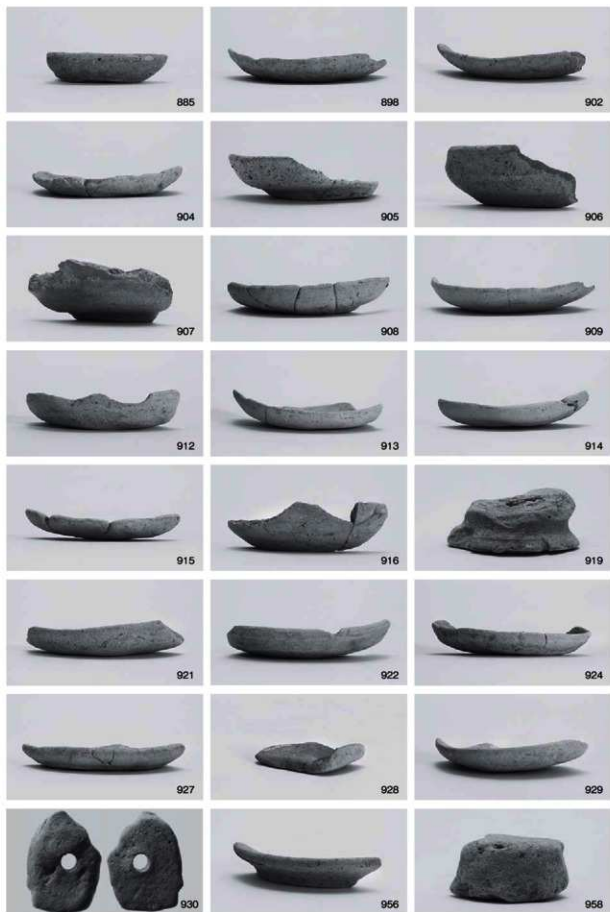
かわらけ②



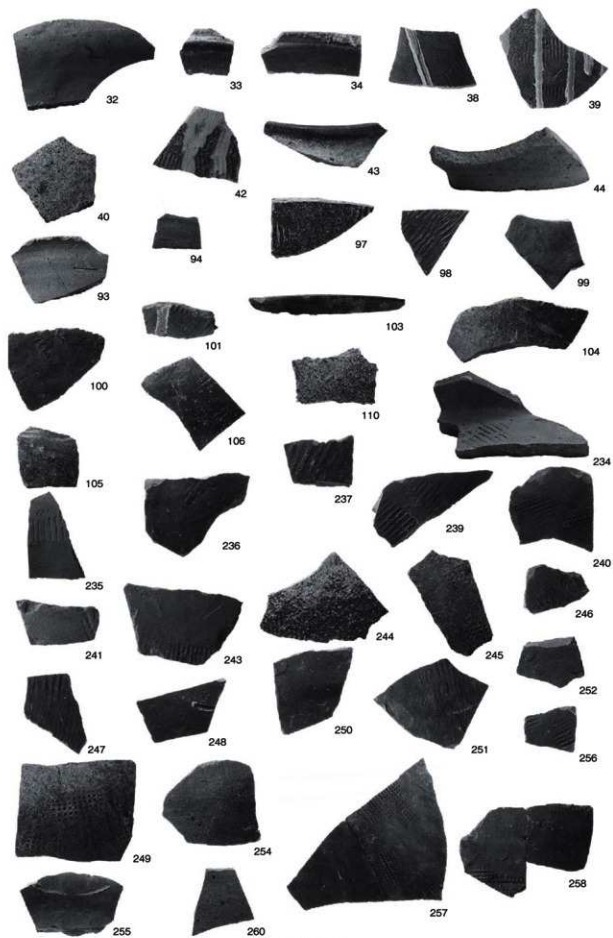


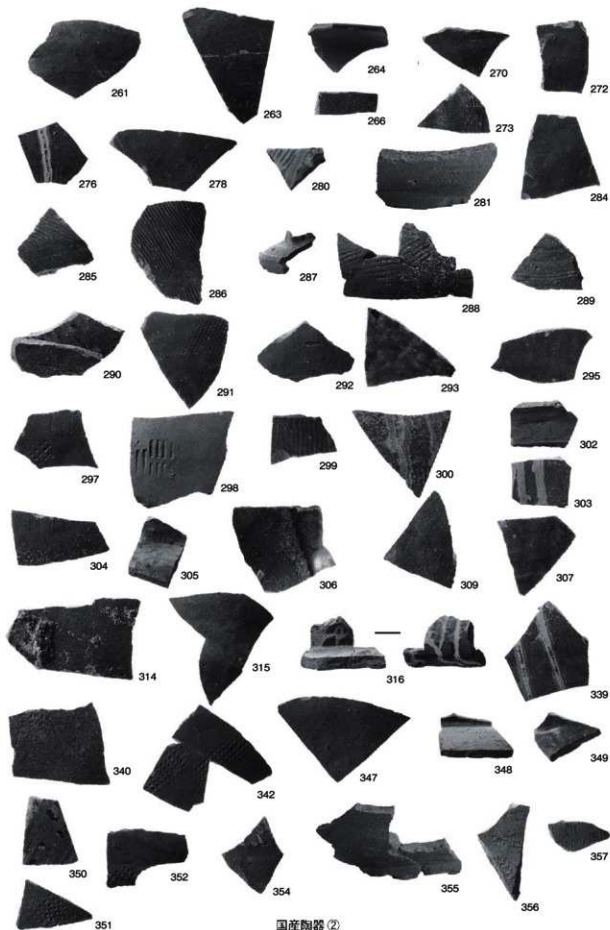
かわらけ④

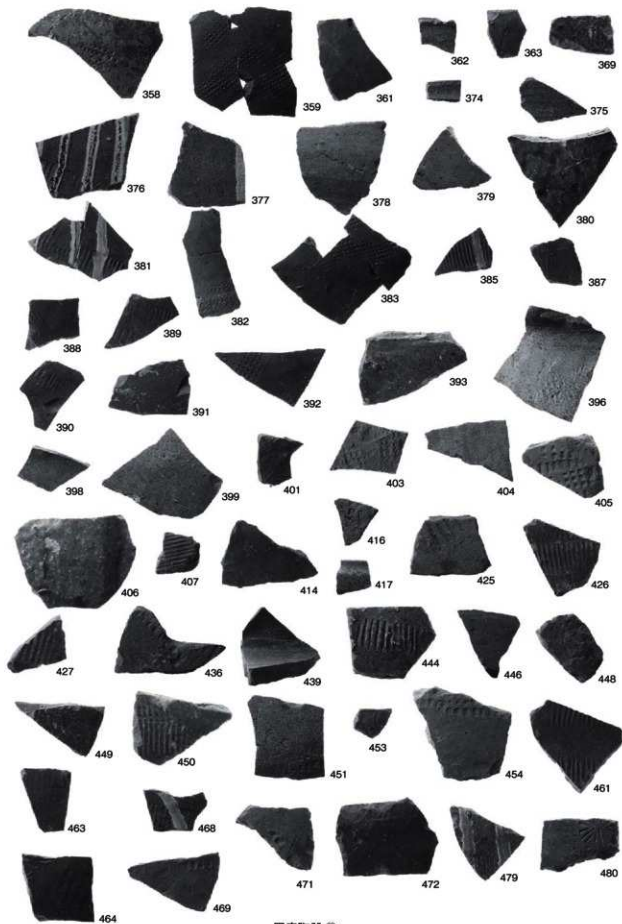


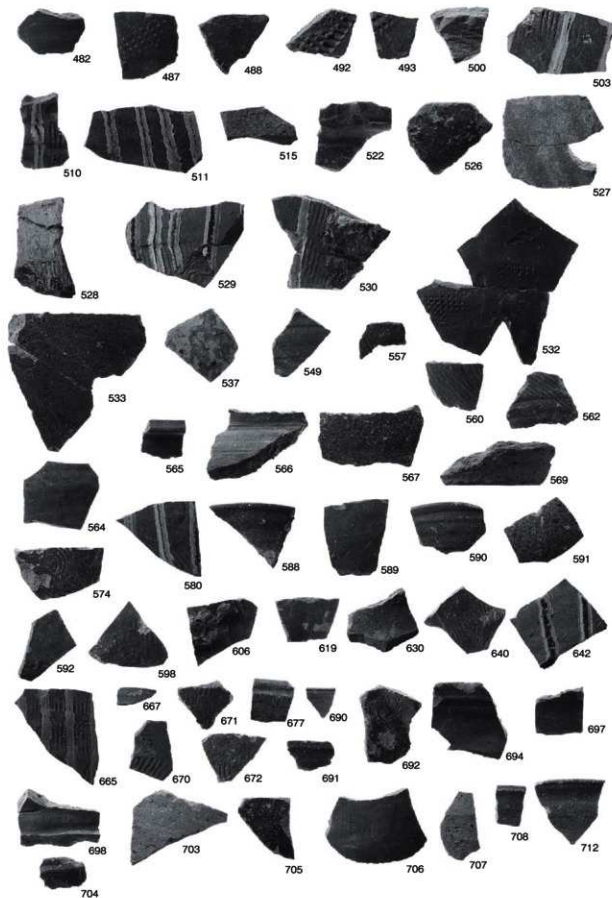


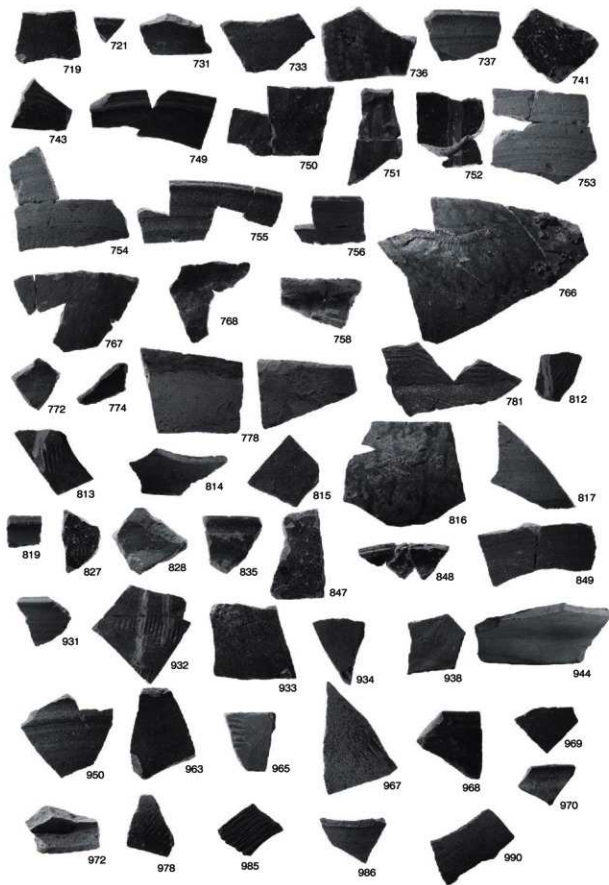
かわらけ⑥

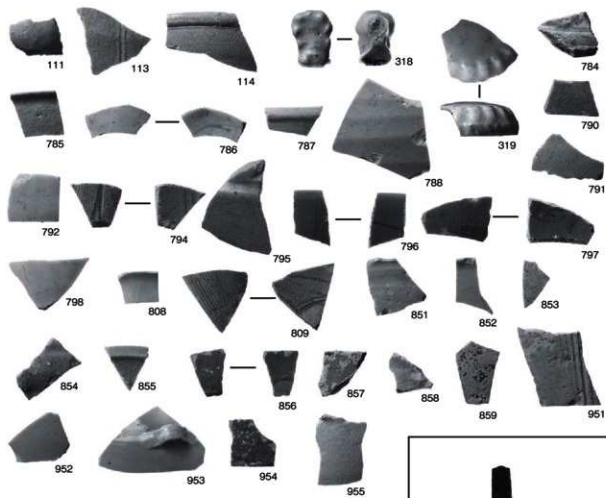














高館①



高館②

報告書抄録

ふりがな	ひらいずみいせきぐんはつくつちょうさほうこくしょ やなぎのごしよいせき							
書名	平泉遺跡群発掘調査報告書 柳之御所遺跡							
副書名	第76次発掘調査概報							
巻次								
シリーズ名	岩手県文化財調査報告書							
シリーズ番号	第147集							
編者名	櫻井友梓 村上拓							
編集機関	岩手県教育委員会							
所在地	〒020-8570 岩手県盛岡市内丸10-1							
発行年月日	西暦2016年3月30日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
柳之御所遺跡	岩手県 西磐井郡 平泉町 平泉子 柳御所地区内	03402	NE76-0190	38度59分 28秒	141度7分 35秒	20140601 ～20141130	800㎡	史跡整備に 向けた内容 確認調査
所収遺跡名	種別	おもな 時代	おもな遺構	おもな遺物		特記事項		
柳之御所遺跡	厩館跡	平安 時代	堀跡2条、溝跡（中近 世を含む）、柱穴など	かわらけ 国産陶器（瀧美・常滑 など） 中国産陶磁器（白磁・ 青白磁・中国陶器） 木製品など		・柳之御所遺跡の内部 南端部で2条の堀跡の 規模と走行方向を確認 した。 ・内側を走る21SD1で は整地等の痕跡とみら れる人為的な土層の崩 落を確認した。		
要 約	<p>柳之御所遺跡第76次調査の概報である。</p> <p>柳之御所遺跡はこれまでの調査により2条の大規模な堀跡で区画されることがわかってきたが、76次調査では本調査範囲にあたる遺跡南端部で調査を実施し、規模や位置と走行方向を確認できた。これまで想定されていた位置よりやや南側に広がるものの、これまでの調査で確認されていた規模や推定の位置から大きく離れるものではなく、遺跡全体を囲むことが改めて確認できた。</p> <p>今回の調査範囲では2条の堀跡に直交する溝跡が確認された。性格は不明だが、平面的な確認および土層の確認から、外側の堀跡から内側の堀跡へという構築時期を改めて確認できた。また、内側の堀跡の堆積土では人為的な様相をもつ土層が厚く堆積する状況を確認できた。この土層の本来的な機能は確定できないが、2条の堀跡の間に人為的な土層が一定の厚さをもって堆積していたことがわかり、囲繞施設や当該範囲のあり方を検討する上で重要な成果が得られた。</p>							

岩手県文化財調査報告書 第147集

平泉道跡群発掘調査報告書

柳之御所遺跡

— 第76次発掘調査概報 —

印刷日 平成28年 3月30日

発行日 平成28年 3月30日

発行 岩手県教育委員会生涯学習文化課
〒020-8570 岩手県盛岡市内丸10-1
電話 (019) 629-6171 (代表)

印刷 株式会社 一閃プリント社
〒021-0031 岩手県一関市青葉一丁目7-24
電話 (0191) 23-4586

柳之御所遺跡 第76次発掘調査平面図

